

2024 年度

授 業 計 画

< シラバス >



学校法人コア学園

秋田リハビリテーション学院

Akita Rehabilitation College

目 次

必修科目単位数, 選択科目単位数及び卒業要件	1
教育課程表	2
1年次 基礎科目	4
1年次 専門基礎科目	18
1年次 専門科目	30
2年次 基礎科目	38
2年次 専門基礎科目	42
2年次 専門科目	56
3年次 基礎科目	74
3年次 専門基礎科目	76
3年次 専門科目	83
4年次 専門科目	103

必修科目単位数，選択科目単位数及び卒業要件

		開講 単位数	必修	選択	卒業要件単位数		教育内容	指定 規則
						計		
基礎 科目	英語	5	5		5	19	科学的思考の基礎 人間生活	14
	体育	2	2		2			
	学びへの導入セミナー	1	1		1			
	人文系	5	2	3	4			
	社会学系	3	3		3			
	理学・統計・情報系	5	3	2	4			
専門 基礎 科目	基礎医学系	15	15		15	36	人体の構造と機能及び心 身の発達	12
	臨床医学系	14	14		14		疾病と傷がいの成り立ち 及び回復過程の促進	14
	リハビリテーション	4	4		4		保健医療福祉と リハビリテーションの 理念	4
	社会医学・保健医療	4	2	2	3			
専門 科目	基礎理学療法学	11	11		11	69		6
	理学療法管理学	2	2		2			2
	理学療法評価学	6	6		6			6
	理学療法治療学	22	22		22			20
	地域理学療法学	5	4	1	4			3
	評価実習・臨床実習	20	20		20			18
	卒業研究	4	4		4			
	128	120	8	124	124		101	

表1 (学年別科目別必要単位数)

	単位		開講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件 必要単位数	指定規則に 定める単位数
	必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎科目	16	5	375	195	105	45	0	0	30	0	0	19	14
				300		45		30		0			
専門基礎 科目	35	2	825	180	255	195	105	90	30	0	0	36	30
				435		270		120		0			
専門科目	69	1	2255	90	130	210	310	370	285	650	210	69	57
				220		520		655		860			
全体	120	8	3455	465	460	450	415	460	345	650	210	124	101
				925		865		805		860			

*4年次への進級条件は3年次までの必修科目の単位をすべて修得していること。

表2 (単位認定に係る成績判定)

可否判定	成績の可否判定は学習態度及び試験結果等を基に総合的に可否を判定する	
可否判定基準と 評語	成績は次の評語をもって表す。 100～90点 S 90未満～80点 A 80未満～70点 B 70未満～60点 C 60点未満 D	S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。 不合格科目(D)は次年度以降、再履修できる。

教育課程表

基礎科目

授業科目	単位		開講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要 件必要 単位数	指定規 則に定 める単 位数
	必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語 (reading & writing)	2		60	30	30							5	14
英語 (communication)	2		30		30								
医療英語	1		15			15							
体育理論	1		15	15								2	
体育実技	1		30	30									
学びへの導入セミナー	1		15	15								5	
哲学		1	15	15									
倫理学		1	15	15									
心理学	2		30	30									
教育学		1	15	15									
社会学	1		15			15						3	
生涯学習学	1		15	15									
社会福祉学	1		30		30								
応用統計学	2		30						30			4	
物理学	1		15	15									
情報リテラシー		1	15			15							
情報セキュリティ・モラル		1	15		15								
基礎科目全体	16	5	375	195	105	45	0	0	30	0	0	19	14

専門基礎科目													
授業科目	単位		開講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要 件必要 単位数	指定規 則に定 める単 位数
	必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人体構造学	2		60	30	30							15	12
人体構造学実習	1		60	30	30								
人体機能学	2		60	60									
人体機能学実習	1		45		45								
触診解剖学	1		30			30							
運動生理学	1		30		30								
運動学 I	1		30		30								
運動学 II	1		30			30							
運動学実習	1		45			45							
栄養学	1		15	15									
薬理学	1		15			15							
人間発達学	1		30		30								
臨床心理学	1		30				30						
病理学	1		30		30							14	14
医学概論	1		15	15									
内科学一般	1		15			15							
内科学(循環)	1		15				15						
内科学(呼吸)	1		15				15						
小児科学	1		15			15							
神経内科学	2		30				30						
精神科学	1		15			15							
筋骨格障害学	2		30			30							
脳神経科学	1		15				15						
救急医学	2		30					30					
リハビリテーション概論	2		30	30									
看護学概論	1		15					15					
作業療法概論	1		15					15					
公衆衛生学		1	15					15					
医療福祉関連職種連携論	2		30						30			3	
福祉工学		1	15					15					
専門基礎科目全体	35	2	825	180	225	195	105	90	30	0	0	36	30

専門科目

授業科目	単位		開講 時間 数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要 件必要 単位数	指定規 則に定 める単 位数		
	必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
理学療法学概論	2		30	30								11	6		
臨床運動学	1		30						30						
理学療法学スキル I-1	1		30	30											
理学療法学スキル I-2	1		30		30										
理学療法学スキル II-1	1		30			30									
理学療法学スキル II-2	1		30				30								
理学療法学スキル III-1	1		30					30							
理学療法学スキル III-2	1		30						30						
理学療法教育学(職業倫理)	1		15						15						
理学療法研究法	1		15						15						
理学療法管理学	2		30			30						2	2		
理学療法評価学概論	1		30	30								6	6		
理学療法評価学(基礎)	1		30		30										
理学療法評価学(関節可動域)	1		30			30									
理学療法評価学(MMT)	1		30				30								
理学療法評価学(画像評価)	1		30					30							
高次脳機能障害学	1		30			30									
運動療法学	1		30			30						22	20		
基礎運動器系理学療法学	1		30				30								
臨床運動器系理学療法学	1		30					30							
スポーツ理学療法学	1		30						30						
基礎神経系理学療法学	1		30				30								
応用神経系理学療法学	1		30					30							
神経発達学的治療学	1		30						30						
基礎循環代謝系理学療法学	1		30				30								
呼吸器系理学療法学	1		30					30							
応用循環代謝系理学療法学	1		30						30						
小児理学療法学	1		30						30						
マニュアルセラピー	1		30					30							
予防的理学療法学	1		30						30						
物理療法学	1		30			30									
物理療法学演習	1		30				30								
義肢学	1		30				30								
装具学	1		30					30							
高齢者理学療法学	1		15						15						
日常生活活動学	1		30		30										
理学療法学特論	3		90								90				
地域リハビリテーション	1		30				30							4	3
在宅生活環境学	1		30			30									
在宅理学療法学	1		30				30								
在宅理学療法学演習	1		30					30							
国際理学療法学特論		1	30								30				
基礎実習	1		40		40							20	20		
地域リハビリテーション実習	1		40				40								
評価実習	4		160					160							
臨床実習I	7		280							280					
臨床実習II	7		280							280					
卒業研究	4		180							90	90	4			
専門科目全体	69	1	2255	90	130	210	310	370	285	650	210	69	57		
				220		520		655		860					

1 年次 基礎科目

科目名	英語		対象年次	1年次	授業時間数	60
基礎科目	(Reading & Writing)		開講時期	通年	単位数 (必・選)	2 (必)
担当教員名	大西 洋一	所属	秋田大学 教育文化学部			
授業目的	健康に関わる文章を集めた総合英語教科書を使用して、英文読解力、英語語彙力、そして英作文力を伸ばさせることを目的とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 健康に関わる標準的な英文を読解できる。 健康に関わる基本的な語彙を理解できる。 基本的文法を理解した上で、平易な英文を書くことができる。 					
授業計画	<p>授業は、基本的に教科書の内容に沿って、以下のように進行する予定である。</p> <p>第1回 授業内容および教科書に関するオリエンテーション 第2・3回 Unit 1: What Country Is the Fattest in the World? (世界で肥満率が高い国) 第4・5回 Unit 2: What Do We Know about Sleep Talking? (寝言と睡眠) 第6・7回 Unit 3: Why Are Bug Bites Dangerous? (虫刺されに御用心) 第8・9回 Unit 4: What Kind of Bacteria Can Be Found in the Great Barrier Reef? (綺麗な海に潜む危険) 第10・11回 Unit 5: How Much Caffeine Can We Take? (カフェイン依存の生活の問題) 第12・13回 Unit 6: How Does the Love Hormone Oxytocin Work to Improve Relationships? (オキシトシンが関わる人間関係) 第14・15回 前半部授業の復習 第16・17回 Unit 7: What Can Happen When You're Too Clean? (潔癖症っていいことづくめ?) 第18・19回 Unit 8: Does Gender Affect Cancer Susceptibility? (性差と癌) 第20・21回 Unit 9: Why Do Many of Us Develop Fear of Heights with Age? (老化と高所恐怖症) 第22・23回 Unit 10: What Are the Dangers of a Sweltering Summer? (夏に潜む危険) 第24・25回 Unit 11: Which Makes a Better Athlete, Being a Night Owl or an Early Bird? (スポーツ選手に有利なのは、朝型人間、それとも夜型人間?) 第26・27回 Unit 12: How Better to Release Your Stress? (ストレスコントロール) 第28・29回 Unit 13: What Are the Differences between Real and Robotic Pets? (ロボペットと本物のペット、どちらを選ぶ?) 第30回 後半部授業の復習</p>					
成績評価	授業への参加状況、小テスト、確認試験の結果等により総合的に判定。					
教科書	西原俊明 / 西原真弓 / Pino Cutrone (著) 『Good Health, Better Life: 健康的な生活から学ぶ大学総合英語』(金星堂) [ISBN:978-4-7647-4078-5]					
参考書						
オフィス・アワー	授業終了後10分。					

科目名	英語 (Communication)	対象年次	1年次	授業時間数	30
基礎 科目		開講時期	後期	単位数 (必・選)	2 (必)
担当教員名	アドコック・ロナルド	所属	元聖霊女子短期大学講師		
授業目的	To help the students be able to communicate more effectively in English for caregiving and daily conversation.				
到達目標	The students will strengthen their caregiving vocabulary. The students will become more comfortable using English as a means of communication.				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduce class and self-introduction. 2. Unit 1 3. Unit 1; Topic Talk 4. Unit 2: Mobility 5. Unit 2; Topic Talk 6. Unit 3: Meals 7. Unit 3 8. Unit 4: Toilet 9. Unit 4; Topic Talk 10. Unit 5: Bath 11. Unit 5; Topic Talk 12. Unit 6: Dressing and Grooming 13. Unit 6 14. Unit 8: Recreational Activities 15. Unit 8 				
成績評価	授業態度, 小テスト, レポート, 筆記試験結果等を総合的にみて判定.				
教科書	A Helping Hand. Masako Shimizu. Nan' un-do, ISBN978-4-523-17557-5				
参考書	特に定めない。				
オフィス・アワー	授業終了後10分。				

科目名	体育理論		対象年次	1年次	授業時間数	15
基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	重川 敬三	所属	日本赤十字秋田看護大学			
授業目的	<p>スポーツバイオメカニクス及び健康運動学の基礎的理論について学ぶ。 現代人の行動特性と生活習慣病等の関連から、健康にどのような影響を及ぼしているのかを理解する。 身体活動を通して、QOLの維持および向上の方法を学ぶ。</p>					
到達目標	<p>(1) 体力や運動のしくみについて説明できる。 (2) 健康を維持・増進するための身体活動を実践できる。 (3) 講義で得られた知識を日常の生活に反映できる。</p>					
授業計画	<p>【進行予定と進め方】</p> <p>第1回 運動の強度と種類・運動時間と運動頻度について</p> <p>第2回 運動強度と代謝</p> <p>第3回 身体活動と生活体力</p> <p>第4回 生活習慣病の食傾向とその改善について</p> <p>第5回 身体活動とメタボリックシンドロームの予防改善について</p> <p>第6回 身体活動と糖尿病について</p> <p>第7回 健康の概念について</p> <p>第8回 身体活動を日常に取り入れる・まとめ</p> <p>※講義内容の順番は変更することがある。</p>					
成績評価	試験 60% (60点満点) とレポート評価 30% (A30点・B20点・C10点) ・授業への参加度 10%から総合的に判定。					
教科書	特に指定しない。					
参考書	特に指定しない。					
オフィス・アワー	授業終了後10分。					

科目名	体育実技		対象年次	1年次	授業時間数	30
基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	重川 敬三	所属	日本赤十字秋田看護大学			
授業目的	生涯にわたってスポーツ文化を享受するために必要な知識、運動技能を身につけ、スポーツ実践能力を養い高めることを目的とする。					
到達目標	選択したスポーツ種目の知識と基礎的な運動技能を習得する。 (1) 基礎的なゲームを行うことができる。 (2) 基礎的なルールを守っている。 (3) 基礎的な運動技能を身につけている。					
授業計画	<p>【進行予定と進め方】 スポーツ種目を受講生が主体的に選択し、その種目の知識と基礎的な運動技能を習得し、ゲームについて学習する。 実施種目：バスケットボール、バレーボール、バドミントン、レクリエーションゲーム</p> <p>第1回 ガイダンス 種目選択</p> <p>第2～4回 基礎的技能的習得とルールの理解</p> <p>第5～8回 ゲームのなかで基礎的技能的を深める</p> <p>第9～10回 基礎的技能的を活用した戦術の理解</p> <p>第11～13回 ゲームのなかで基礎的な戦術を高める</p> <p>第14～15回 まとめ、運動技能の評価</p> <p>各回の基本的な授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 出席、課題の提示 2 準備運動 3 基礎体力を高めるための運動 4 種目ごとに用具等の準備 5 技術練習 6 ゲーム 7 片付け 8 出席確認、まとめ 					
成績評価	出席状況、スキルテスト等を総合して行う。ゲームを行うための基礎的な技能を習得していること。授業でルールを守り積極的に活動していること。					
教科書	特に指定しない。					
参考書	特に指定しない。					
オフィス・アワー	授業終了後10分。					

科目名			対象年次	1年次	授業時間数	15
基礎科目	学びへの導入セミナー		開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	木元 裕介	所属	秋田リハビリテーション学院			
		所属				
		所属				
授業目的	四年間の学生生活を円滑に過ごすためのオリエンテーションを受けた後、カリキュラムの意義、学習の仕方・進め方、さらに人と接する上で必要最低限の基本的態度を理解した上で、教員および他の学生とのコミュニケーションを図り、今後の学習において生じた問題の解決に役立たせる概略的な術を学ぶ。					
到達目標	学生としての活動的な日常生活が円滑に過ごせるようになり、学習の仕方、進め方を理解した上で、教員の助言を受けながら、グループ編成を組み、各グループで一課題を設定し、その課題への取り組み方（プログラミング）、資料の収集・調査、議論、総括、報告を実験することで、今後の学習の礎とすることを目標とする。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 有意義な学生生活を送るためのオリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての学生が守るべき社会規範について ・学則、学生便覧、シラバスについて 2. 理学療法士になるために必要な学習について <ul style="list-style-type: none"> ・課題と情報リテラシー ・レポートとは；一般的な体裁とまとめ方について 3. Edunavi とアクトランについて 4. ビジュランとスマコクについて 5. 情報収集の整理 Word 6. 情報収集の整理 Excel 7. 情報収集の整理 Excel 8. 情報収集と整理 Powerpoint 					
成績評価	授業態度、出席及び課題に取り組んでいる態度を総合的にみて判定。					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィス・アワー	授業終了後、随時。					

科目名	哲学		対象年次	1年次	授業時間数	15
基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名	鈴木 祐丞	所属	秋田県立大学 総合科学教育研究センター			
授業目的	<p>人間はときに、心的諸概念（「痛み」「思考」「意図」など）について、それらは何を意味するのかという（哲学的）問いを発し、対応する心の諸状態を想定することで、答えを与えようとする。そして、そのようにして実体的に形成される「心」のイメージにとらわれ、そのイメージのもとにさまざまな現象をゆがめて見てしまうようになる。こうした状態を、ウィトゲンシュタインは『哲学探究』で一種の病気とみなし、虚心坦懐に言語のあり方を見つめなおすことで、そこから治療されようとした。</p> <p>この授業では、『哲学探究』のうち、心的諸概念を主題とする議論の一部を講読する。ウィトゲンシュタインの後期哲学を理解し、同様の病気についての自覚とその治療を目指すとともに、言語について、心について、哲学という営みについて、ひいては人間という存在について、理解を深める。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学とはどのような営みか説明できる。 ・講義内容に関わるさまざまな思想を説明できる。 ・講義内容をめぐって他者と対話ができる。 ・講義内容について自分自身の考えを論述できる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業についての説明／哲学とはどのような営みか 2. ウィトゲンシュタインと『哲学探究』について 3. 『哲学探究』243節-315節 「痛み」を「知る」ことについて① 4. 『哲学探究』243節-315節 「痛み」を「知る」ことについて② 5. 『哲学探究』243節-315節 「ふりをする」ことについて 6. 『哲学探究』243節-315節 「意図」について 7. 『哲学探究』243節-315節 「私的言語」（私だけがそれを理解する言語）について① 8. 『哲学探究』243節-315節 「私的言語」（私だけがそれを理解する言語）について② 					
成績評価	平常点（出席状況、受講態度など）40%、リアクション・ペーパーの内容60%					
教科書	使用しない					
参考書	授業中に適宜紹介する					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名	倫理学		対象年次	1年次	授業時間数	15
基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名	鈴木 祐丞	所属	秋田県立大学 総合科学教育研究センター			
授業目的	医療や生命に関係する倫理的な問題（善悪に関わる問題）に向き合う。とくに「自然のままの人間のつくりかえ」を中心的テーマに据える。遺伝子操作を用いたエンハンスメント（諸能力の人為的向上）がなぜ、どこまで許されるのか（許されないのか）について考え、あわせて、NIPT（新型出生前診断）と選択的人工妊娠中絶について、また安楽死について考察する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で取り上げる倫理的問題の概要を説明することができる。 2. その問題について自分自身の考えを述べることができる。 3. さまざまな倫理的問題の存在に気づき、それらについて主体的に考察できる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業についての説明／倫理（学）とは何か／遺伝子操作とエンハンスメント①——「エンハンスメント」とは 2. 遺伝子工学とエンハンスメント②——リベラリズムとエンハンスメント 3. 遺伝子工学とエンハンスメント③——「生の被贈与性」 4. 遺伝子工学とエンハンスメント④——「絶対に違う他者」と生きること 5. NIPT と選択的人工妊娠中絶① 6. NIPT と選択的人工妊娠中絶② 7. 安楽死① 8. 安楽死② 					
成績評価	平常点（出席状況、受講態度など）40%、小レポートの内容 60%					
教科書	使用しない					
参考書	授業中に適宜紹介する					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名	心理学		対象年次	1年次	授業時間数	30
基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	2 (必)
担当教員名	森 和彦	所属	秋田大学名誉教授			
授業目的	心理学という学問の考え方、得られた心理学的知見、現代心理学のトピックスについて主体的に学ぶ。					
到達目標	心理学という学問の概観を理解して、自分に理解可能な楽しい心理学の教科書をこの授業用に編集・作成する。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学としての心理学は成立するのか？心とは何か？何を探求すべきか 2. 心を数量化する方法 3. 性格検査の種類と YG 性格検査：自らの性格を知る？ 4. 生まれながらの行動傾向と多面的知能 5. 青年期の発達課題と特徴 6. 高齢者の発達課題と特徴 7. 自己認知の歪み 8. 対人認知の歪み 9. 行動科学的視点からの二人称的人間関係を理解する 10. 集団心理と対人行動：人はどのように操られるか？！ 11. 注意とは何か？ 12. 注意を利用する：n u d g e の 3 理論 13. 学習のメカニズム 14. 学習環境の設計と学習方法 15. 運動視の種類と心理学的役割 					
成績評価	授業態度、プチテスト、最終レポート(教科書編集)等の結果を総合的にみて判定					
教科書	教科書を自分で作っていただきます。					
参考書	参考書は随時紹介します。					
オフィス・アワー	授業直後か、オンラインでの対応となります。					

科目名	教育学		対象年次	1年次	授業時間数	15
基礎科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名	濱田 陽	所属	秋田大学 高等教育グローバルセンター			
授業目的	動機づけ理論を学び、自らの学習・経験を振り返り、将来に生かす。					
到達目標	代表的な動機づけ理論の基礎が理解できる。 動機理論を実践と結び付け、体験的に習得ができる。 分かりやすい発表技術を身につけることができる。					
授業計画	<p>本講座では、教育学の、教育心理学の分野に位置づけされる「動機づけ理論」について学ぶ。</p> <p>第一回 オリエンテーションと動機理論入門 第二回 内発的動機づけ 第三回 自己決定理論 第四回 達成目標理論 第五回 セルフ・エフィカシー 第六回 自己制御学習 第七回 学習性無力感 第八回 まとめ</p> <p>第二回～七回では、各理論の基礎を理解し、関連するキーワードを習得し、それらを自らの過去や未来の経験と結び付けて、体験的に習得できるような活動を行う。(受講人数により、授業形態・内容は変わる場合があります)</p> <p>毎回の授業の進め方の予定</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 当日のテーマのプレゼン 1 8. 当日のテーマのプレゼン 2 9. グループ討議 10. 全体討議 11. ペア・グループレビュー <p>まとめの確認テスト</p>					
成績評価	筆記試験・チェックテスト・発表・授業参加態度					
教科書	モチベーションをまなぶ 12 の理論 (金剛出版)					
参考書	特に定めない。					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名	生涯学習学	対象年次	1年次	授業時間数	15
基礎科目		開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名	澤井 範夫	所属	前 秋田大学教育文化学部 非常勤講師		
授業目的	生涯学習の概念、意義、必要性を国の育審議会の答申などを通して、説明、解説する。また、生涯教育の提唱から現在に至る国及び秋田県の生涯学習を概観するとともに、家庭、学校、地域社会における生涯学習の実態を考察して、豊かな生涯学習社会を形成するための課題と方向性を探る。				
到達目標	我が国及び秋田県の生涯学習の推進や支援の在り方を考えることにより、生涯学習の必要性を理解する。また、生涯学習に対する意欲と関心を身につけることにより、生涯にわたって充実した生き方ができるようにするとともに、地域社会に貢献できる資質や能力を養う。				
授業計画	<p>第1回 生涯教育の提唱から生涯学習への推移、生涯学習の意義 生涯教育がいつどこで、誰によって提唱されたかを踏まえた上で、生涯教育が生涯学習へと移り変わったことを理解する。また、生涯学習とはなんぞやということが多面的に考察する。</p> <p>第2回 我が国の生涯学習の歩み 平成の時代とともにはじまった我が国の生涯学習がどのように進められてきたかを概観する。</p> <p>第3回 全国に先駆けた秋田県の生涯学習 1970（昭和45）年、秋田県は全国に先駆けて生涯学習の推進に取り組んだが、当時の小畑勇二郎知事が何故生涯学習に取り組んだかを探るとともに、今に至るまでの秋田県の生涯教育・生涯学習の歩みを考察する。</p> <p>第4回 生涯学習と学校教育、社会教育、家庭教育との関係 生涯学習を推進するにあたって、学校教育、社会教育、家庭教育がどのような役割を果たしているかを考察する。</p> <p>第5回 学びの根源と生涯学習の内容と形態、方法 私たちはなぜ学ぶのかを把握した上で、人々はどのように学び、どのような形態及び方法で学習しているかについて考察する。</p> <p>第6回 行政による生涯学習の支援と推進 人々の生涯学習を推進する上で行政の果たす役割は大きい。ここでは国、及び地方公共団体が人々の生涯学習をどのように支援しているかを考察する。</p> <p>第7回 行政改革と新公共経営(NPM) 行政改革がなぜ必要かを考えた上で、行政改革の視点や手法について新公共経営(NPM)を通して考察する。</p> <p>第8回 生涯学習を支える施設とボランティア活動 生涯学習を支える施設とボランティア活動について考察する。併せて、今後、自分がどのように生涯学習に向き合っていくかを考える。</p>				
成績評価	授業態度、受講調査票、レポート、筆記試験等を通して、総合的に判定する。				
教科書	教科書なし。授業のためのレジュメ及び資料を配布する。				
参考書	香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編『よくわかる生涯学習』（ミネルヴァ書房）など				
オフィス・アワー	毎授業後				

科目名	社会福祉学		対象年次	1年次	授業時間数	30
基礎科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	落合 晶子	所属	聖霊女子短期大学 生活文化科生活子ども専攻 非常勤講師			
授業目的	<p>○自分の生活や社会を取りまく諸問題と福祉の関わりについて関心を深める。</p> <p>○社会福祉に関する基礎知識を身に着けるとともに、理学療法士としての福祉との関わり方を学ぶ。</p>					
到達目標	<p>○社会福祉の制度や施設等について理解する。</p> <p>○理学療法士として福祉との関わり方について理解する。</p>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉とは 2 日本の社会福祉の歴史 3 社会保障制度と社会福祉の組織 4 子ども福祉 5 障害者福祉 6 高齢者福祉 7 介護保険制度 8 低所得者福祉 9 医療福祉 10 精神保健福祉 11 社会福祉施設 12 社会福祉の専門職 13 相談援助と実践例 14 多職種間の連携と理学療法士の役割 15 まとめ 					
成績評価	授業態度、レポート、ニュース発表、筆記試験による					
教科書	教科書：コメディカルのための社会福祉概論 第5版 講談社 ISBN-13: 978-4061563155					
参考書						
オフィス・アワー	授業終了後 10分					

科目名	物理学		対象年次	1年次	授業時間数	15
基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	横山 洋之	所属	秋田大学 情報統括センター			
授業目的	物理学は科学的知識の基礎となる学問である。物理学の基本的な知識を幅広く学ぶことで、身の回りの物理現象がどのような仕組み・プロセスで起こっているのか理解することを目的とする。					
到達目標	1) 物理量を適切な単位で表現できる 2) 力、運動、仕事の関係について説明できる 3) 電気伝導現象について説明できる 4) 量子力学の基本的な考え方を説明できる					
授業計画	1回目： 位置・速度・加速度 物理量と単位，速度，加速度，等速運動，放物運動 2回目： 力と運動（その1） 慣性，運動方程式，力と運動，重力 3回目： 力と運動（その2） 作用・反作用，摩擦，等速円運動 4回目： エネルギーと運動量 エネルギー，仕事，バネ，振動，運動量保存則 5回目： 熱エネルギー 熱，熱平衡，理想気体の状態方程式，エントロピー 6回目： 電荷と電流 電荷，電気エネルギー，オームの法則，電気回路 7回目： 電磁場 波，電場，磁場，電磁場 8回目： 量子力学 量子力学とは，原子の構造，物質波					
成績評価	授業態度，小テスト，レポート，筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	「グラフィック講義 物理学の基礎」和田純夫，サイエンス社					
参考書	特に指定しない。					
オフィス・アワー	授業終了後10分程度					

科目名	情報セキュリティ・モラル		対象年次	1年次	授業時間数	15
基礎科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名	片平 昌幸	所属	秋田大学 大学院 医学系研究科			
授業目的	日常生活や業務上で使用する各種の情報機器や情報サービスにおいて、特に注意しなければならない各種のセキュリティやモラルの問題についてその背景や対策について解説する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報セキュリティに関する基礎知識を習得する。 2. 情報セキュリティ対策の手段について習得し活用できるようにする。 3. 情報発信の際考慮しなければならないモラルや著作権等を習得する。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報機器の基礎知識 (コンピュータの仕組みと構成) 2. 情報セキュリティの基礎知識 (ネットワークのしくみ) 3. 情報セキュリティの基礎知識 (情報サービスのしくみ) 4. 情報セキュリティ技術 (マルウェアとその対策) 5. 情報セキュリティ技術 (情報漏洩事故とその対策) 6. 情報セキュリティに関する最近の話題 7. 迷惑メール判定と電子メール転送経路解析法 8. インターネットの情報発信と情報モラル・著作権 					
成績評価	小テスト, レポート, 期末試験結果等を総合的にみて判定					
教科書	講義資料を学内PC共有フォルダ及びWebサイトで公開します					
参考書	特に定めない					
オフィス・アワー	講義終了直後10分程度					

1 年次 専門基礎科目

科目名	人体構造学		対象年次	1年次	授業時間数	60
専門基礎科目			開講時期	通年	単位数 (必・選)	2 (必)
担当教員名	船越 広大	所属	元 秋田大学大学院医学系研究科			
授業目的	人体を構成する諸器官の位置・名称・機能について理解することを目的とする。					
到達目標	人体の構造について、人に説明できる能力を身につける。					
授業計画	<p>授業概要 1回を2コマとして計画してある。 スライドと配布資料を中心に行う。 人体の構造を理解するためには、常に自分の体が最高の標本であるということを忘れてはいけない。質問は随時受け付けている。質問受付メールアドレスを講義中に示す。</p> <p>1回；人体の構成（細胞・組織・器官・器官系）、解剖学用語、骨学・筋学総論、関節と靭帯 器官系の概要（骨格系・筋系・消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・循環器系・内分泌系・神経系・感覚器系） 2回；全身の筋（上肢の筋・下肢の筋・体幹の筋） 3回；筋学各論 上肢の筋（上肢帯・上腕・前腕・手） 4回；筋学各論 下肢の筋（下肢帯・大腿・下腿・足） 5回；筋学各論 体幹の筋（頭部・頸部・胸部・腹部・背部） 6回；循環器系（心臓の構造とはたらき、全身の血管、リンパ管の役割） 呼吸器系（気道・肺の構成、胸郭内の構造） 7回；消化器系（口から肛門までの特徴・役割、嚥下の仕組み） 8回；泌尿器系（腎臓・尿管・膀胱・尿道の構造と役割、排尿反射） 9回；内分泌系（ホルモンの産生部位とその作用） 生殖器系（男性生殖器と女性生殖器） 10回；感覚器系（皮膚、視覚器、平行聴覚器） 11回；神経系（1）中枢神経系（脳・脊髄）の構造と伝導路 12回；神経系（2）末梢神経系（自律神経系、脳神経・脊髄神経） 13回；神経叢（頸神経叢・腕神経叢・腰神経叢・仙骨神経叢） 14回；器官系まとめ 15回；筋学・骨学まとめ</p> <p>上記回数と内容は、適時変更がある。特に標本見学によってずれることがある。単元終了ごとに復習を兼ねて小テストを行う。</p>					
成績評価	授業態度、小テスト、レポート、筆記試験等の結果を総合的にみて判定					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学（医学書院） PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎 解剖学（羊土社）					
参考書	プロメテウス解剖学 コア アトラス 第2版（医学書院）					
オフィス・アワー	授業終了後 10分					

科目名	人体構造学実習		対象年次	1年次	授業時間数	60
専門基礎科目			開講時期	通年	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	船越 広大	所属	元 秋田大学大学院医学系研究科			
授業目的	人体構造学講義の内容をより詳しく理解する。					
到達目標	骨の各部の名称、筋の起始・停止・作用を理解し、説明できるようにする。					
授業計画	<p>実習概要 人体構造学講義で学んだ内容をより深く理解することを目的とする。 実習はスケッチ・レポート課題・人体解剖学標本見学などを行う。 実習内容はその日の人体構造学講義の内容に応じて以下の項目を行う。</p> <p>骨学実習；スケッチを主に行う。形状と部位の名前を覚える。 (1) 脊柱（環椎・軸椎・第7頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨） (2) 上肢（鎖骨・肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨） (3) 下肢（骨盤・大腿骨・脛骨・腓骨・足根骨） (4) 頭蓋骨・胸郭</p> <p>筋学実習；スケッチとレポート課題で構成。起始・停止を理解する。 (5) 上肢の筋（上肢帯・上腕・前腕・手） (6) 下肢の筋（下肢帯・大腿・下腿・足） (7) 体幹の筋（頭部・頸部・胸部・腹部・背部）</p> <p>器官系；スケッチとレポート課題で構成。 (8) 心臓 気道・肺 (9) 口腔・咽頭・喉頭・食道・胃・肝臓・胆のう・膵臓・小腸・大腸 (10) 腎臓・尿管・膀胱・尿道 (11) 内分泌系・生殖器系 (12) 感覚器系 (13) 神経系 (1) 中枢神経系（脳・脊髄） (14) 神経系 (2) 末梢神経系（自律神経系・脳神経・脊髄神経） (15) 伝導路</p> <p>秋田大学解剖学実習室標本見学 身体の構造を具体的にかつ立体的に把握することを目的とする。 学んでいないところも予習しておくこと（予習項目は事前に告知する）。 標本見学は2回に分けて行う。前もって観察項目を提示するので、観察準備をしておくこと（特に筋肉の走行・付着部位と神経脈管の走行）。 実習室内へは観察項目のプリント、スケッチ用紙、筆記具以外の持ち込みは許可しない。携帯電話や撮影・録画・録音が可能な機器の持ち込みは厳禁である。</p>					
成績評価	授業態度、スケッチ、レポート課題などを総合的にみて判定					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学（医学書院） PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎 解剖学（羊土社）					
参考書	プロメテウス解剖学 コア アトラス 第2版（医学書院）					
オフィス・アワー	授業終了後 10分					

科目名	人体機能学		対象年次	1年次	授業時間数	60		
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	2 (必)		
担当教員名	柴田 和幸	所属	市立秋田総合病院 リハビリテーション科					
	岩倉 正浩	所属	秋田大学大学院医学系研究科 衛生学・公衆衛生学講座					
授業目的	理学療法学の基礎科目となる人体の機能は、理学療法士が患者さんを評価し治療プログラムを立案するための基礎となる科目である。理学療法士がヒトである患者さんを観察分析することにより得られる情報は、臨床場面で随時行われ治療に欠かせない。人体の機能とあわせて、人体の構造も理解を深めることで、自ずと病態の生理も理解できるようになる。この人体機能学では、単なる人体機能の説明にとどまらず、臨床医学と基礎医学の理解にまで意識した実学としての修得を目的とする。							
到達目標	人体の機能を動物機能と、生命維持に直接関わる植物機能の側面から、ヒトが恒常性を備えていることを理解する。さらに無数に存在する感覚器等の情報を無意識に中枢神経系が統合し、高次の情報制御により、正常な生体の営みが生じていることを理解する。							
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 人体機能総論 2. 細胞の機能 3. 血液組成と機能(高地トレーニングと貧血) 4. 血液の凝固と線維素溶解 5. 血液型と抗原抗体反応 6. 循環(1) 心臓の性質と心電図 7. 循環(2) 血管の性質 8. 循環(3) 血圧とその調節 9. 呼吸(1) ガス交換 10. 呼吸(2) 呼吸調節 11. 消化吸収(1) 運動と分泌 12. 消化吸収(2) 消化酵素と吸収 13. 腎臓(1) 尿.再吸収機構と液性調節 14. 腎臓(2) 排尿と神経性調節 15. 体液組成と体液量 16. 体液 浸透圧とその調節機構 17. 体液 酸塩基平衡(1) 緩衝作用 (2) 水素イオン濃度異常 </td> <td style="vertical-align: top;"> 18. 内分泌(1) 視床下部ホルモンと下垂体 19. 内分泌(2) 各種ホルモンと作用機序 20. 骨・筋と運動(1) 関節形状、運動単位 21. 骨・筋と運動(2) 興奮収縮連関 22. 筋収縮メカニズム 23. 神経(1) 構造と機能 (ニューロン、活動電位) 24. 神経(2) 中枢神経の構造と機能 (脊髄の構造と反射) 25. 神経(3) 中枢神経の構造と機能 (脳の構造と機能局在、脳脊髄液) 26. 感覚(1) 体性感覚 27. 感覚(2) 特殊感覚(嗅覚, 視覚) 28. 感覚(3) 特殊感覚(聴覚, 平衡覚, 味覚) 29. 感覚(4) 痛み(疼痛) 30. 体温調節 </td> </tr> </table>						1. 人体機能総論 2. 細胞の機能 3. 血液組成と機能(高地トレーニングと貧血) 4. 血液の凝固と線維素溶解 5. 血液型と抗原抗体反応 6. 循環(1) 心臓の性質と心電図 7. 循環(2) 血管の性質 8. 循環(3) 血圧とその調節 9. 呼吸(1) ガス交換 10. 呼吸(2) 呼吸調節 11. 消化吸収(1) 運動と分泌 12. 消化吸収(2) 消化酵素と吸収 13. 腎臓(1) 尿.再吸収機構と液性調節 14. 腎臓(2) 排尿と神経性調節 15. 体液組成と体液量 16. 体液 浸透圧とその調節機構 17. 体液 酸塩基平衡(1) 緩衝作用 (2) 水素イオン濃度異常	18. 内分泌(1) 視床下部ホルモンと下垂体 19. 内分泌(2) 各種ホルモンと作用機序 20. 骨・筋と運動(1) 関節形状、運動単位 21. 骨・筋と運動(2) 興奮収縮連関 22. 筋収縮メカニズム 23. 神経(1) 構造と機能 (ニューロン、活動電位) 24. 神経(2) 中枢神経の構造と機能 (脊髄の構造と反射) 25. 神経(3) 中枢神経の構造と機能 (脳の構造と機能局在、脳脊髄液) 26. 感覚(1) 体性感覚 27. 感覚(2) 特殊感覚(嗅覚, 視覚) 28. 感覚(3) 特殊感覚(聴覚, 平衡覚, 味覚) 29. 感覚(4) 痛み(疼痛) 30. 体温調節
1. 人体機能総論 2. 細胞の機能 3. 血液組成と機能(高地トレーニングと貧血) 4. 血液の凝固と線維素溶解 5. 血液型と抗原抗体反応 6. 循環(1) 心臓の性質と心電図 7. 循環(2) 血管の性質 8. 循環(3) 血圧とその調節 9. 呼吸(1) ガス交換 10. 呼吸(2) 呼吸調節 11. 消化吸収(1) 運動と分泌 12. 消化吸収(2) 消化酵素と吸収 13. 腎臓(1) 尿.再吸収機構と液性調節 14. 腎臓(2) 排尿と神経性調節 15. 体液組成と体液量 16. 体液 浸透圧とその調節機構 17. 体液 酸塩基平衡(1) 緩衝作用 (2) 水素イオン濃度異常	18. 内分泌(1) 視床下部ホルモンと下垂体 19. 内分泌(2) 各種ホルモンと作用機序 20. 骨・筋と運動(1) 関節形状、運動単位 21. 骨・筋と運動(2) 興奮収縮連関 22. 筋収縮メカニズム 23. 神経(1) 構造と機能 (ニューロン、活動電位) 24. 神経(2) 中枢神経の構造と機能 (脊髄の構造と反射) 25. 神経(3) 中枢神経の構造と機能 (脳の構造と機能局在、脳脊髄液) 26. 感覚(1) 体性感覚 27. 感覚(2) 特殊感覚(嗅覚, 視覚) 28. 感覚(3) 特殊感覚(聴覚, 平衡覚, 味覚) 29. 感覚(4) 痛み(疼痛) 30. 体温調節							
成績評価	授業態度, 課題レポート, 筆記試験の結果を総合的にみて判定.							
教科書	坂井建雄他「解剖生理学 人体の構造と機能」医学書院							
副読本	生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖生理(電子書籍)丸善							
参考書	本郷利憲他「標準生理学」医学書院,							
オフィス・アワー	随時							

科目名	人体機能学実習		対象年次	1年次	授業時間数	45	
専門基礎科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)	
担当教員名 (実務経験者)	菊地 和人	所属	秋田リハビリテーション学院				
	全学内教員	所属	秋田リハビリテーション学院				
授業目的	人体機能学で修得したヒトの生体機能に関する知識を検証し、生体現象に対する観察力及び機能と機序に対する理解を深め、さらに身体機能検査の基本的手法を修得し、専門科目・臨床実習に効果的に対応できる能力を身につける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肺活量や呼気流速を理解できる。 2. 脳波を記録し、アルファ波、ベータ派などの周波数の異なる波形が異なる脳活動状態を示していることを理解できる。 3. 筋収縮を観察し、収縮機序を理解できる。 4. 神経伝導速度を観察し、神経線維の特性を理解できる。 5. 血圧測定ができ、測定条件の影響を調べ、血圧の生理学的意味を理解できる。 6. 心電図、心音、脈音の記録から、循環動態を理解できる。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション						
	第2回 人体機能学実習に必要な総論<講義>						
	第3回 人体機能学実習に必要な総論<講義>						
	第4回～9回は6グループ(A～F)に分かれて実習を行う。<実習>						
		呼吸機能	脳波	筋電図	神経伝導	循環動態	心電心音
	第4回	A	B	C	D	E	F
	第5回	F	A	B	C	D	E
	第6回	E	F	A	B	C	D
第7回	D	E	F	A	B	C	
第8回	C	D	E	F	A	B	
第9回	B	C	D	E	F	A	
成績評価	出席日数、実習中の態度、レポートの総合的な結果で判定。						
参考書	新生理学実習書(日本生理学会編)						
オフィス・アワー	実習時間中						

科目名	運動生理学		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門基礎科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	菊地 和人	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	人体機能学で学んだ基礎知識をもとに、運動によって生じる生理学的変化に関わる動物機能を主体としながら、その生理的变化に対応した植物機能の協調的、統合的な関わりも学ぶ。					
到達目標	(1) 運動とエネルギー代謝の関係を理解する。 (2) 運動と心肺機能との関係を理解する。 (3) 有酸素運動と無酸素運動の生理学的意味を理解する。 (4) 運動に関わる液性・神経性調節について理解する。 (5) 運動による筋肉と骨変化について理解する。 (6) 加齢に伴う運動機能変化を理解する。 (7) 運動と精神活動及び休息の観点から睡眠について理解する。					
授業計画	健康の維持や機能向上を図ることを目的とした運動は、相当のエネルギーを要し、種々の器官が協調しながら行われるため、身体機能に及ぼす影響は大きく、また継続的な運動は身体的・生理的变化だけでなく、精神活動に与える影響も大きい。また加齢や老化とともに運動の内容も異なる。運動に重点をおいて、エネルギー代謝、呼吸機能、循環機能、内分泌機能、筋肉・骨状態、加齢と老化等に与える生理学的影響を掘り進める。 1. 筋収縮とエネルギー供給系 2. 筋繊維の種類とその特徴 3. 神経系の役割 4. 筋の収縮様式と筋力 5. 運動と循環 6. 運動と呼吸 7. 運動とホルモン 8. 筋疲労の要因 9. 運動と体温調節 10. 運動と栄養 11. 身体組成と肥満 12. 運動処方 13. 運動と生活習慣病 14. 老化に伴う身体機能の変化					
成績評価	授業態度，小テスト，筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	「入門運動生理学 第4版」 勝田茂、編 杏林書院					
参考書	[参考書] ・「内部障害理学療法学 第2版」 高橋哲也、他編 医学書院 ・「CPX・運動療法ハンドブック 改訂3版」 安達仁、編 中外医学社					
オフィス・アワー	教員室在室時					

科目名	運動学 I		対象年次	1 年次	授業時間数	30																														
専門基礎 科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)																														
担当教員名 (実務経験者)	菊地 和人	所属	秋田リハビリテーション学院																																	
授業目的	運動学とは人体の動きに関する科学である。運動学では人体がどう機能し、動くかに焦点をあてる。筋骨格系の構造・機能との関係、身体に加わる力との関わり、身体運動発現とその制御機能を解剖学、生理学、力学的観点から学び理解することを目的とする。																																			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学の基礎（骨・筋・神経）を理解できる。 2. 上肢帯の運動の基礎を理解できる。 3. 脊柱体幹の運動の基礎を理解できる。 																																			
授業計画	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>生体力学</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>骨・関節の構造と機能</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>筋の種類と構造と機能 1</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>筋の種類と構造と機能 2</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>神経系の構造と機能 1</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>神経系の構造と機能 2</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>肘関節の運動 1</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>肘関節の運動 2</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>前腕と手関節の運動 1</td></tr> <tr><td>第 1 0 回</td><td>前腕と手関節の運動 2</td></tr> <tr><td>第 1 1 回</td><td>上肢帯と肩関節の運動 1</td></tr> <tr><td>第 1 2 回</td><td>上肢帯と肩関節の運動 2</td></tr> <tr><td>第 1 3 回</td><td>脊柱体幹の運動 1</td></tr> <tr><td>第 1 4 回</td><td>脊柱体幹の運動 2</td></tr> <tr><td>第 1 5 回</td><td>顔面と頭部の運動学</td></tr> </table>						第 1 回	生体力学	第 2 回	骨・関節の構造と機能	第 3 回	筋の種類と構造と機能 1	第 4 回	筋の種類と構造と機能 2	第 5 回	神経系の構造と機能 1	第 6 回	神経系の構造と機能 2	第 7 回	肘関節の運動 1	第 8 回	肘関節の運動 2	第 9 回	前腕と手関節の運動 1	第 1 0 回	前腕と手関節の運動 2	第 1 1 回	上肢帯と肩関節の運動 1	第 1 2 回	上肢帯と肩関節の運動 2	第 1 3 回	脊柱体幹の運動 1	第 1 4 回	脊柱体幹の運動 2	第 1 5 回	顔面と頭部の運動学
第 1 回	生体力学																																			
第 2 回	骨・関節の構造と機能																																			
第 3 回	筋の種類と構造と機能 1																																			
第 4 回	筋の種類と構造と機能 2																																			
第 5 回	神経系の構造と機能 1																																			
第 6 回	神経系の構造と機能 2																																			
第 7 回	肘関節の運動 1																																			
第 8 回	肘関節の運動 2																																			
第 9 回	前腕と手関節の運動 1																																			
第 1 0 回	前腕と手関節の運動 2																																			
第 1 1 回	上肢帯と肩関節の運動 1																																			
第 1 2 回	上肢帯と肩関節の運動 2																																			
第 1 3 回	脊柱体幹の運動 1																																			
第 1 4 回	脊柱体幹の運動 2																																			
第 1 5 回	顔面と頭部の運動学																																			
成績評価	出席日数、筆記試験の点数により判定する。																																			
使用教科書	中村 隆一著 基礎運動学 第 6 版 医歯薬出版																																			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小柳 磨毅著、PT・OT のための運動学テキスト 基礎・実習・臨床 金原出版 ・ 石川 朗著、運動学 15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト、中山書店 																																			
オフィス・アワー	火曜日以外のお昼休時間内ならいつでも良い。																																			

科目名	栄養学		対象年次	1年次	授業時間数	15
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	谷口 典子	所属	BF ホールディングス株式会社			
授業目的	リハビリテーションの成果を最大限に引き出すために、チーム医療の一員として適切な栄養管理ができるよう、栄養学の基本的な知識を習得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養学の基本的事項を理解する。 2. 健康の保持・増進や疾病予防・治療と栄養との関連を理解する。 3. リハビリテーションにおける栄養管理を理解する。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養の概念／栄養素とその機能 1 (なぜ栄養学を学ぶのか／栄養素の消化吸収／タンパク質の栄養) 2. 栄養素とその機能 2 (脂質、炭水化物、ビタミン、ミネラルの栄養) 3. 栄養素とその機能 3 (エネルギー代謝／運動と栄養) 4. 疾病と栄養 1 (栄養状態の評価／摂食嚥下状態に応じた食事) 5. 疾病と栄養 2 (過栄養／低栄養／脳卒中／糖尿病) 6. 疾病と栄養 3 (腎疾患／心疾患／COPD／褥瘡／アレルギー疾患／リハビリテーション栄養) 7. 健康づくりと食生活 1 (日本人の食事摂取基準、各食品群の特色) 8. 健康づくりと食生活 2 (まとめ／自分自身の食生活を考察する／筆記試験) 					
成績評価	受講態度 20% レポート及び筆記試験 80%					
使用教科書	「Crosslink basic リハビリテーションテキスト 栄養学・生化学」 株式会社メジカルビュー社					
参考書	「理論と実践スポーツ栄養学」鈴木志保子著 日本文芸社 (スポーツ栄養に興味のある方にお勧め)					
オフィス・アワー	授業後 10 分程度					

科目名	人間発達学		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門基礎科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	佐々木 久長	所属	秋田大学大学院医学系研究科			
授業目的	人間の生涯にわたる発達過程を知ることを通して、障がいにより正確に理解する。					
到達目標	乳幼児期から老年期に至る各発達段階の特徴を説明できる。 主な発達理論を理解することができる。 生涯発達という視点から障がいを理解することができる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達とは何か 発達 の定義、発達 の原理、発達 課題 2. 発達 の理論 (1) エリクソンの心理社会的発達理論 3. 発達 の理論 (2) フロイトの心理学的発達理論 4. 発達 の理論 (3) ゲゼルの発達理論、ウエルナーの発達理論 5. 発達 の理論 (4) ピアジェの認知発達理論 6. 発達 の理論 (5) 言語の発達理論 7. 乳幼児期の発達 身体・運動、社会性 (ウィニコットの母子関係を中心に) 8. 児童期の発達 身体・運動、社会性 (アタッチメントを中心に) 9. 青年期の発達 身体・運動、社会性 (自我同一性の発達を中心に) 10. 成人期の発達 身体・運動、社会性 (道徳性の発達を中心に) 11. 老年期の発達 身体・運動、社会性 (喪失の心理を中心に) 12. 発達 の理論 (6) 死に対する態度と理解の発達 13. 発達 の障がい (1) 障がいの基本的理解 14. 発達 の障がい (2) 発達障がいについて 15. リハビリテーションと発達 					
成績評価	授業態度, 小テスト, レポート, 筆記試験等の結果を総合的にみて判定.					
教科書	特に指定しない。					
参考書	特に指定しない。					
オフィス・アワー	授業中					

科目名	病理学		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門基礎科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	川村 公一	所属	早稲田大学 先進理工学部			
授業目的	病気は「得体のしれないもの」ではなく、体の中に正常（健康体）とは異なる現象が起きている。その病気には規則があって、その振る舞いも、ある程度予測ができる。この体の中に起きている病気の山を眺め、大きな道筋をつかむ。					
到達目標	病気の成り立ちを大筋で理解して、病気の臓器を説明できる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病気のと看に、どんなことが体の中に起きているか理解できれば、病気の人を見る目が変わってくるはずである。この病気の成り立ちについて実際の画像・イラストなどを使って解説する。 2. 病気の種類がわかり、その成り立ちに見当がつくようになる。しかし、病気の名前、用語には歴史があり、難解でとっつきにくい面もある。理解しやすいように肝硬変、脳卒中、胃がんなどの具体的な症例をあげて説明する。 3. 授業内容の概略、要点は事前に配付する。復習を主体とする自主学习を促す。 <p>講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の成り立ち（内因と外因） 2. 老化、肝硬変 3. 生活習慣病と遺伝子 4. 壊死、生命の危機 5. 萎縮、肥大、化生、創傷治癒 6. 心筋梗塞とその治り方 7. 萎縮、肥大、化生、創傷治癒 8. 血栓と塞栓 9. 浮腫とネフローゼ症候群 10. 脳卒中 11. 先天異常、遺伝子病（優性遺伝病、劣性遺伝病） 12. 配偶子病（染色体異常）と多因子遺伝 13. 炎症と感染症 14. 腫瘍の起こり方、形態的特徴 15. 腫瘍により引き起こされる病態 					
成績評価	筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	なし					
参考書	特に定めない。					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名	医学概論		対象年次	1年次	授業時間数	15
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	大内 慎一郎	所属	御野場病院 診療部長			
授業目的	医療へのニーズは多様化し、専門的な知識だけでなく、幅広い知見を身に付けることが必要とされている。ここでは、医学の歴史的経過、医療の法的根拠や仕組み、現代医療の問題点を拾い上げ、様々な考え方やアプローチができる総合力を養う。					
到達目標	1. 現代医学に至るまでの歴史的な背景や先進的な現代医療について理解する。 2. 社会保障や医療保険等の医療制度の仕組みを理解する。 3. 医の倫理や患者の権利、そして医療安全の思想を学ぶ。					
授業計画	<p>1. 医学をどのようにとらえるか 医学の発達のすがたから古代から現在に到る医学の成り立ちを学ぶ。</p> <p>2. 社会保障や医療保険、現在の医療制度と問題点を学ぶ 健康とは何か、病気とは何か、医学の分化と統合について理解する。</p> <p>3. 健康日本21や特定健診制度、産業保健や勤労者医療など、病気の予防のためにどのような取り組みがなされているか制度的な仕組みを知る。</p> <p>4. 心身の発達の過程と学校保健や高齢者医療など、生涯の医療システムや介護保険制度について学ぶ。</p> <p>5. 多職種によるチーム医療について学び、併せて医療安全の思想を学ぶ。</p> <p>6. 生命倫理と言われる領域の抱えている問題について学び、「医の倫理」と「患者の権利」について知る。「終末期医学」、「緩和ケア」について学習する。</p> <p>7. 災害医療や国際医療協力などについて学ぶ。</p> <p>8. 医学研究の在り方、医療と法律について、基本的なことを学ぶ。</p> <p>教科書を必ず持参すること。 教科書を中心に授業を進めるが、補助的にプリントを用意して理解しやすいように努めて行くつもりである。</p>					
成績評価	授業態度、小テスト、レポート、筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	柳澤信夫 著「現代医学概論 第3版」(医歯薬出版) 2023. 2. 10					
参考書	特に設けないが医療関係のニュースに関心を持つこと。					
オフィス・アワー	特に設けないが、講義後の質問を歓迎する。					

科目名	リハビリテーション概論		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数(必・選)	2(必)
担当教員名	横山 絵里子	所属	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター			
授業目的	リハビリテーションの基本を学ぶ。 今日のリハビリテーションに関わる様々な問題を体系的に学習し、リハビリテーションの理念、過程、障害のレベルや評価法などの基礎を習得して、専門分野に活用できるようにする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目学習のために必要な基本的概念と知識を養う。 ・リハビリテーションの理念について説明ができる。 ・リハビリテーション関連の用語を理解し、説明できる。 ・機能障害のレベル、基本的な測定・評価法について理解、説明ができる。 					
授業計画	<p>第1回 ・リハビリテーションの定義、概念、理念、歴史</p> <p>第2回 ・障害、障害者、障害予防</p> <p>第3回 ・医学的リハビリテーション</p> <p>第4回 ・廃用症候群、骨粗鬆症</p> <p>第5回 ・日常生活活動の概念と評価</p> <p>第6回 ・チーム医療、地域リハビリテーション</p> <p>第7回 ・理学療法概論、リハビリテーション治療の基礎と応用</p> <p>第8回 ・フレイル、サルコペニア</p> <p>第9回 ・皮膚、褥瘡</p> <p>第10回 ・作業療法概論、在宅医療</p> <p>第11回 ・高次脳機能1（言語聴覚機能）</p> <p>第12回 ・高次脳機能2（失行、失認、注意障害）</p> <p>第13回 ・高齢者、健康対策</p> <p>第14回 ・医療安全、医療倫理</p> <p>第15回 ・試験（筆記試験）</p>					
成績評価	授業態度、小テスト、レポート、筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	Crosslink basic リハビリテーション医学 メジカルビュー(編集 上月正博)					
参考書						
オフィス・アワー	質問等がある場合は、授業後10分間といたします。					

1年次 専門科目

科目名	理学療法学概論		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	2 (必)
担当教員名 (実務経験者)	菅原 慶勇	所属	市立秋田総合病院			
授業目的	理学療法士を目指す学生として、概念、歴史、法律、理念、対象、理論、方法、領域などの基本事項を学ぶ。そのなかで理学療法士の役割や責任、倫理観を理解し、理学療法士として必要な知識や技術を身につける。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の定義について理解できる。 2. 理学療法士の役割や倫理について理解できる。 3. 理学療法の臨床推論課程、理学療法評価や治療の流れを理解できる。 4. 科学的根拠に基づく理学療法（EBPT）について理解できる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 将来の理学療法士像 2. 理学療法の役割(p147-173) 3. 倫理と組織活動(p1-10、p201-211) 4. 理学療法の歴史と関連法規(p25-60) 理学療法とリハビリテーション 5. 理学療法学教育と研究法(p11-24、p75-91) 6. 理学療法(士)に求められる適正と心理 7. 理学療法の治療手段①(p93-145) 8. 理学療法の治療手段②(p93-145) 9. 理学療法の治療手段③(物理療法、義肢装具) 10. 科学的根拠に基づく医療(p61-73) 理学療法と障害 11. 地域理学療法(p243-256) 12. 理学療法の流れ(臨床推論課程と実践課程) 13. チーム医療と関連職種 診療報酬制度 14. 組織とリスクマネジメント(p175-200) 医療安全対策と感染予防 15. 理学療法の職域開拓(p257-278) 					
成績評価	授業中の学生とのディスカッションとミニテストで評価する。					
教科書	奈良勲編著：理学療法概論 第7版；医歯薬出版					
参考書	大田仁史著：新・芯から支える、稲川利光著：リハビリの心と力					
オフィス・アワー	授業終了後、随時					

科目名	理学療法学スキル I-1		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員 (実務経験者)	学内全教員	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	理学療法学スキルは1～3年生の3学年とアドバイザー教員との合同による協働授業・演習であり、理学療法士として必要な職業人格を育むために科目内の課題学習をとおり、接遇、社会人基礎能力、課題解決能力、主体的協働能力の育成・発達を目的とする。					
到達目標	授業課題への取り組み（課題・調査・発表の実施と運営、リフレクションによる課題省察）を通して小集団における役割、責任を意識し、自ら主体的に課題到達のために考え、解決・遂行できる。必要に応じて積極的にコミュニケーションをとり円滑な課題遂行に勤めることができる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、アドバイザーグループ発表（グループ内自己紹介など）& 構成的グループエンカウンター1 2. 構成的グループエンカウンター2 3. 構成的グループエンカウンター3 4. オープンキャンパスと公開講座のオリエンテーション 5. オープンキャンパスと公開講座の準備運営1 6. 臨床実習報告会（Ⅰ期） 7. 臨床実習報告会（Ⅱ期） 8. 『こころの健康について』＜学外講師招聘＞ 9. 検査実技テストを3年生に行い協同学習① (先輩の被験者役を体験しよう) 10. 検査実技テストを3年生に行い協同学習② 11. 検査実技テストを3年生に行い協同学習③ <p>12～15. ※4回分は オープンキャンパス（4回）に振替えのため休講。</p>					
	(エンカウンターには“出会い”という意味があり、課題をとおして、“気づき”に出会う事を目的としています。今まで気づかなかった事から学び、将来に生かす。どんな出会いがあるのでしょうか!?)					
	(先輩たちと協力し合って、公開講座とOCを運営します。協力し合うことで、小集団における役割、責任を意識し、自ら主体的に課題到達のために考え、解決・遂行することを体験して学ぶことを目的としています。)					
	理学療法検査は理学療法士として一生使う技術です。正しい方法で、正確に行い、再現性・信頼性伴うやり方を修得する必要があります。健康な学生同士では測りやすいのですが、患者さん相手ではそうはいかないことが多いので、臨機応変に実施できることも求められます。被験者として、実際の評価を受け、体験してみましょう。きっと今後の学習に役立つと思います。					
成績評価	授業態度、シャトルカード提出、課題発表等の結果を総合的にみて判定。					
教科書・参考書	特になし					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名	理学療法学スキル I-2		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員 (実務経験者)	学内専任教員	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	理学療法学スキルは1～3年生の3学年とアドバイザー教員との合同による協働授業・演習であり、理学療法士として必要な職業人格を育むために科目内の課題学習をとおり、接遇、社会人基礎能力、課題解決能力、主体的協働能力の育成・発達を目的とする。					
到達目標	授業課題への取り組み（課題・調査・発表の実施と運営、リフレクションによる課題省察）を通して小集団における役割、責任を意識し、自ら主体的に課題到達のために考え、解決・遂行できる。必要に応じて積極的にコミュニケーションをとり円滑な課題遂行に努めることができる。					
授業計画	<p>0. (10/3) 休講 (3年生口頭試問のため)</p> <p>1. (10/10) OSCE オリエンテーション、調べ学習の説明</p> <p>2～4. (10/17～10/31) 調べ学習①～③</p> <p>5. (11/7) 調べ学習発表会</p> <p>6～7. (11/14 1-2 限) OSCE(客観的臨床能力試験)参加</p> <p>8. (12/5) Pre-OSCE オリエンテーション、車椅子移乗介助の説明と練習①</p> <p>9. (12/12) 車椅子移乗介助の練習②</p> <p>10. (12/17) 講話予定<外部講師></p> <p>11～(1/9) 車椅子移乗介助の練習③</p> <p>12. (1/16) 車椅子移乗介助確認試験</p> <p>13～14. (1/23 1-2 限) Pre-OSCE 参加</p> <p>15. (1/30) 『税金講話』<秋田南税務署講師></p>					
成績評価	授業態度、シャトルカード提出、課題発表等の結果を総合的にみて判定。					
教科書・参考書	特になし					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名	理学療法評価学概論		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	菊地 和人	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	理学療法は評価にはじまり、評価に終わるとされ、評価無くして理学療法は実施できない。評価そのものの意義や、方法についての概要を学び、各専門領域において必要な知識と技術について習得する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法における評価の概念と意義が理解できる。 ・理学療法評価と記録、評価と治療が一体のものであることが理解できる。 ・基本的な対象者のリスク管理、代表的な障害に対する“評価概念”を理解できる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法評価に必要な環境と評価機器・検査用具 2. 姿勢と動作に対する理学療法評価概要 3. 代表的な障害に対する理学療法評価概要 1 (中枢神経) 4. 代表的な障害に対する理学療法評価概要 2 (中枢神経) 5. 代表的な障害に対する理学療法評価概要 3 (中枢神経) 6. 代表的な障害に対する理学療法評価概要 1 (呼吸器) 7. 代表的な障害に対する理学療法評価概要 2 (循環器) 8. 代表的な障害に対する理学療法評価概要 1 (運動器) 9. 代表的な障害に対する理学療法評価概要 2 (運動器) 10. バイタルサインの理学療法評価 11. 運動発達検査と姿勢反射検査 12. 日常生活活動 (動作) 検査 13. ICF (国際生活機能分類) による評価 14. 評価の記録方法 (SOAP) 演習 15. ケースレポートとレジユメの記載方法 					
成績評価	授業態度, 小テスト, レポート, 筆記試験等の結果を総合的にみて判定.					
教科書・参考書	教科書: 松澤正・江口勝彦著; 理学療法評価学 改訂第6版 (金原出版)					
オフィス・アワー	授業終了後 10 分間					

科目名	理学療法評価学(基礎)		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数(必・選)	1(必)
担当教員名 (実務経験者)	木元 裕介	所属	秋田リハビリテーション学院			
		所属				
授業目的	検査データや画像内容から得られる医学的情報は、理学療法士が患者の障害像を把握するうえで重要な情報となる。人体構造学や人体機能学と並行して、検査データや画像がもたらす意味を概略的に学ぶことにより、臨床の医学的情報を基礎医学の学習とあわせて理解する。					
到達目標	正常と異常の違いを画像情報・臨床データをみて判別し、異常部位・異常データから、どんな問題が生じているのか理解できる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学的情報の理解とリスク管理 1 2. 医学的情報の理解とリスク管理 2 3. 臨床検査値(血液)の診かた 1 4. 臨床検査値(血液)の診かた 2 5. 臨床検査値の(生化学)診かた(総論) 6. 臨床検査値の(生化学)診かた(各論) 7. X線像の診かた(総論) 8. X線像の診かた(各論) 9. CT・MRI像の診かた(総論) 10. CT・MRI像の診かた(各論) 11. 脳の機能構造と疾患、それらに対する理学療法 12. 筋骨格の機能構造と疾患、それらに対する理学療法① 13. 筋骨格の機能構造と疾患、それらに対する理学療法② 14. QOL・ADLと理学療法のかかわり 15. 疼痛のメカニズムと評価、それに対する理学療法 					
成績評価	授業態度, 小テスト, レポート, 筆記試験結果等を総合的にみて判定.					
教科書・参考書	教科書: 肉単・骨単—ギリシャ語・ラテン語(語源から覚える解剖学英単語集) 原島 広至(丸善) 参考書: 中島雅美; PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方第2版, 医歯薬出版					
オフィス・アワー	授業終了後 10 分					

科目名	日常生活活動学		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	ジョーンズ佳子	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	我々が、日々恙無く行っている日常生活における活動（基本動作～応用動作～複合動作）について、その評価、指導方法、補装具、福祉用具等を学習することで、障がい者や障がい児、高齢者の理解を深める。そして、対象者を取り巻く様々な環境について考察することで、日常生活面での障害との関係について学ぶことを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活活動（Activities of Daily Living 以下、ADL）の概念とその範囲について学び、理学療法における ADL の位置づけを理解する。 2. “障がい”の捉え方から ADL と QOL(Quality of life)の関連を理解する。 3. ADL の評価の役割や評価方法、および代表的な評価尺度について理解する。 4. 対象者の特性や障害に応じた、自立を促すための支援方法を習得する。 					
授業計画	第1回 日常生活活動の概念：ADL と障害、ADL と QOL の関係 第2回 ADL 評価一般論：目的と代表的な評価表 第3回 ADL 評価各論：B. I と F I M を中心とした評価方法 第4回 起居動作（1）：運動学的分析（重心、ベクトル、モーメント、支持基底面） 起居動作（2）：寝返り～起き上がり～立ち上がり（椅子から、床から） 第5回 移動動作（基本/応用）：いざり、高這い、四つ這い、膝歩きなど 第6回 起居・移動動作実習・・・2階講堂または治療室にて 第7回 移動動作：車いすの種類・寸法・駆動・介助方法 第8回 移動動作：歩行補助具（各種杖、歩行器、歩行車など） 第9回 移動・移乗動作実習・・・1階機能訓練室または2階治療室にて 第10回 食事動作 ※課題レポート：疾患別 ADL の特徴 第11回 排泄・トイレ動作 第12回 整容・入浴動作 第13回 更衣動作、家事動作 第14回 コミュニケーション 第15回 総括（課題レポート発表）					
成績評価	授業態度、小テスト、レポート、筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	・奈良勲監修・鶴見隆正・隆島研吾編集：日常生活活動学・生活環境学（標準理学療法学専門分野） 医学書院					
参考書	・伊藤利之・江藤文夫：日常生活活動(ADL)－評価と支援の実際－. 医歯薬出版、2010. ISBN9784263213445. ・細田多穂：シンプル理学療法シリーズ；日常生活活動学テキスト. 南江堂、2011. ISBN9784524247080. ・藤澤宏幸：日常生活活動の分析－身体運動学的アプローチ－. 医歯薬出版、2012. ISBN9784263214008. ・柴 喜崇：PT・OT ビジュアルテキスト ADL. 羊土社、2015. ISBN9784758107952.					
オフィス・アワー	月曜日、水曜日～金曜日のお昼休み時間内いつでも。					

科目名	基礎実習		対象年次	1年次	授業時間数	40
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	全教員	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	基礎実習において理学療法業務全般を見学することにより、理学療法士に必要とされる知識・技術・態度について知ることを目的とする。					
到達目標	<p>学修目標：見学先の医療機関としての理念や特色を踏まえ、理学療法士に臨まれる役割を理解することができる。</p> <p>行動目標：将来、理学療法士として働くことを意識した行動に努め、見学させていただく患者さんや職員の方々へ挨拶、時間厳守、適切なコミュニケーションなど医療従事者にふさわしい態度をとることができる。</p>					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・1月（未定） 実習ガイダンス ・2月（未定） 実習1週間 <p>*学生それぞれが、承諾施設2か所へ赴く。</p> <p>*実習先は秋田市内約6か所で、1施設1回3～4人ずつ配置する。</p> <p>※変更の際は、新たにお知らせします</p>					
成績評価	実習への参加と態度、レポートの提出結果を総合的にみて判定。					
準備学習・ 学習アドバイス	実習実施前には挨拶、身だしなみなどの常識のある実習態度を再確認しておく必要がある。また、見学先施設の理念や徳所を踏まえ見学するために、事前に見学施設を調査しておくこと。					
教科書	特に指定なし					
参考書	必要に応じて提示する					
オフィス・ アワー	担当教員ごとに指示、あるいは掲示					

2年次 基礎科目

科目名	医療英語		対象年次	2年次	授業時間数	15
基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	堀川 静夫	所属				
授業目的	<p>医学・医療領域において早くからグローバル化が進み、私たちは日本語表現のみの知識では対応できず、共通語として認識されている英語で表現された知識の吸収が不可欠である。英語表現による知識を単に憶えるということではなく、日本語表現との対比によって英語で表現された知識の理解を深めることにある。この授業は医療英語表現の理解を深めるにはどのように進めたらよいかを学ぶ。医療について外国人と意思疎通が図れる基本知識の一端を学ぶ。</p>					
到達目標	<p>日本における医学・医療について、外国人が伝えたい内容を理解できるようにする。ある程度英語で内容を伝えることができようにする。また、仕事、伝達の効率を上げる意味で略語が多く、その略語の意味を理解できるようにする。</p>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 使用頻度の高い医学医療用語の英語表現と日本語表現の対比 <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体各部位の用語について (2) 薬に関する用語について (3) 病院、診療機関に関する用語について (4) 各診療に跨がる診療・症状・病態に関する共通用語について 2 略語の英語 - 日本語訳及び意味 <p>診断術 診断機器・診断法 疾患名, その他</p> 3 医療現場における会話表現法 <p>慣用句例</p> 					
成績評価	出席・授業態度、筆記試験結果等を総合的にみて判定。					
教科書	ノート講義、資料の配付（レジュメ）					
参考書	<p>実践看護英語—専門用語の習得と英会話能力の養成香里ヶ丘看護専門学校 監修 竹林修一／濱田眞由美／ Frank Tucker 編著. 英宝社. ISBN978-4-269-66031-1. 2014.</p>					
オフィス・アワー	授業終了後10分。					

科目名	社会学		対象年次	2年次	授業時間数	15
基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名	石沢 真貴	所属	秋田大学教育文化学部			
授業目的	現代社会における諸社会現象について、社会科学的な視角から考察することにより、社会的課題に対する理解力を身につける。					
到達目標	少子高齢化、グローバル化といった社会変動のなかで、現代社会がどのような変容を遂げ、どのような課題に直面しているのか、具体的に理解を深めることで、現実社会に関心をもてるようになる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会変動と現代社会 2. 少子高齢化・人口減少社会 3. 家族の変容と家族問題 4. 家族とジェンダー 5. 限界集落と中心市街地の諸問題 6. 住民自治の諸問題 7. グローバル化と現代の貧困 8. これからの社会—持続可能な社会に向けて 					
成績評価	授業態度、小課題、レポート、筆記試験等の結果を総合的にみて判定					
教科書	使用しない					
参考書	必要に応じて講義内に紹介する					
オフィス・アワー	授業終了後 10 分程度. 希望があれば面談の時間を設ける					

科目名	情報リテラシー		対象年次	2年次	授業時間数	15
基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名	片平 昌幸	所属	秋田大学 大学院 医学系研究科			
授業目的	学習及び今後の業務上で使用する各種の情報機器を取り扱う上で知っておかねばならない情報リテラシーとして、主にパーソナルコンピュータを使用するために必要な各種の知識、技能について解説する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナルコンピュータ等の情報機器の基本的な仕組みを理解する。 2. 基本的なオフィスソフトウェアの使用法を習得し、レポートの作成や表計算ソフトウェアを用いた表の作成・計算処理・グラフ作成を行えるようにする。 3. インターネットを用いた情報収集やレポート作成などを行う際の注意点について理解する。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報機器の基礎知識 (コンピュータの仕組みと構成) 2. 表計算ソフトウェアの基礎 3. 表計算ソフトウェア (絶対位置参照・各種書式設定) 4. 表計算ソフトウェア (グラフの作成・データの並べ替え) 5. 表計算ソフトウェア (フィルタの設定) 6. 表計算ソフトウェア (練習問題) 7. 情報収集時の注意点とレポートのまとめかた 8. 表計算ソフトウェア (シミュレーション実験) 					
成績評価	小テスト, レポート, 期末試験結果等を総合的にみて判定.					
教科書	講義資料を学内 PC 共有フォルダ及び Web サイトで公開します					
参考書	特に定めない。					
オフィス・アワー	講義終了直後 10 分程度					

2年次 専門基礎科目

科目名	触診解剖学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数(必・選)	1(必)
担当教員名 (実務経験者)	臼井和、福原隆志、木下和勇	所属	秋田リハビリテーション学院			
目的	触診の基本、基礎となる指の当て方を習得し、解剖部位の名称と触診部位とが合致できるようにする。また、自らの手部を用いて、主たる指標、骨、関節、そして筋肉への触診の技術を身につける。					
目標行動(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 触診の部位、組織ごとに対する指の当て方ができる。 ①脊柱 ②骨縁 ③筋肉(浅層) ④筋肉(深層) ⑤筋肉間 組織の硬さの違いを指先で理解できる。 ①骨 ②脂肪 ③筋肉 ④靭帯 ⑤神経 運動方向の名称と実際の運動を合致させ理解できる。 解剖部位の名称を覚え、その部位を指先で触知できる。 					
その他	<p>※触診の授業は、基本的に直接皮膚に触れる形で行います。半袖・短パンなど触れやすい格好で臨んでください。胸部や臀部などは服の上から触診します。(上肢、肩関節、下肢は全て直接触知します)</p> <p>※直接、体にマーカーを引くこともあるため、汚れてもよい服を着用の事。</p>					
授業計画	回	学習の主題				SBO番号
	1~5	触診の目的・基本(肢位、運動面・方向、姿勢、基本的な指の当て方) 課題: 肢位、運動方向そして指のあて方を理解する				3, 4
		脊柱、骨盤の触診 課題: 解剖名称が言え、部位毎に指のあて方を変えられる。骨の硬さを理解する				1①+②, 2①, 4
		大腿骨、膝関節、足関節の触診 課題: 解剖名称が言え、部位毎に指のあて方を変えられる。骨の硬さが理解できる				1②, 2①, 4
		足関節、肩甲骨、鎖骨の触診 課題: 解剖名称が言え、部位毎に指のあて方を変えられる。骨、脂肪の硬さの違いを理解する				1②, 2①+②+④, 4
		胸骨、上肢、手部の触診 課題: 解剖名称が言え、部位毎に指のあて方を変えられ、指先で触知できる。骨、神経の硬さの違いを理解する				1①+②, 2①, 4, ⑤, 4
	6. 1~5の実技テスト 1~6回の学習した範囲から、実技テストを実施する。					
	7~15	肩甲上腕関節に関わる筋の触診 課題: 解剖名称、運動方向が言え、部位毎に指のあて方を変えられる。筋組織の硬さを理解する。				1②~⑤, 2①~③, 4
		肩甲上腕関節と肩甲胸郭関節に関わる筋の触診 課題: 解剖名称と運動方向が言え、部位毎に指のあて方を変えられる。筋組織の硬さを理解				1①~⑤, 2①~③, 4
		肩甲胸郭関節と肘・手関節に関わる筋の触診 課題: 解剖名称と運動方向が言え、部位毎に指のあて方7を変えられる。筋組織の硬さが理解可				1②~⑤, 2①~⑤, 4
体幹、股・膝関節に関わる筋の触診 課題: 解剖名称と運動方向が言え、部位毎に指のあて方を変えながら触知できる。筋組織の硬さが理解できる				1①~⑤, 2①~③, 4		
股・膝関節に関わる筋の触診 課題: 解剖名称と運動方向が言え、部位毎に指のあて方を変えながら触知できる。筋組織の硬さが理解できる				1②~⑤, 2①~④, 4		
股・膝関節に関わる筋の触診 課題: 解剖名称と運動方向が言え、部位毎に指のあて方を変えながら触知できる。筋組織の硬さが理解できる				1②~⑤, 2①~④, 4		
股・膝関節・足関節に関わる筋の触診 課題: 解剖名称と運動方向が言え、部位毎に指の触診方法を変えられる。組織毎の硬さの違いが理解				1②~⑤, 2①~④, 4		
足関節に関わる筋の触診 課題: 8~15に関わった部位毎に指の触診方法を変えられ、指先で触知できる。硬さが理解できる				1②~⑤, 2①~④, 4		
成績評価	実技テスト70%(実技=50%, 指のあて方=20%), 授業態度5%, テスト25%の結果にて判定。					
教科書	➤ 青木隆明, 林典雄: 改定第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 (ISBN978-4758311366) & 下肢・体幹 (ISBN978-4758311373) メジカルビュー社					
参考書	➤ 坂井建雄, 松村譲児: プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系 第2版 ISBN978-42600・10689 医学書院 ➤ 河上敬介, 磯貝香 他: 改訂第2版 骨格筋の形と触診法 (ISBN978-4-9980686-2-4) 大峰閣					
オフィス・アワー	空き時間内					

科目名	運動学 II		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	菊地 和人	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	運動学とは人体の動きに関する科学である。運動学では人体がどう機能し、動くかに焦点をあてる。筋骨格系の構造・機能との関係、身体に加わる力との関わり、身体運動発現とその制御機能を解剖学、生理学、力学的観点から学び理解することを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学の基礎（骨・筋・神経）を理解できる。 2. 脊柱と体幹、骨盤と下肢の運動を理解できる。 3. 姿勢や歩行、運動学習を理解できる。 					
授業計画	第1回 運動学総論 第2回 股関節の運動学 1 第3回 股関節の運動学 2 第4回 膝関節の運動学 1 第5回 膝関節の運動学 2 第6回 足関節の運動学 1 第7回 足関節の運動学 2 第8回 脊柱・体幹の運動学 第9回 運動と動作の分析 第10回 正常な姿勢 第11回 正常な歩行・走行 第12回 異常歩行と車いす推進時の運動学 第13回 運動発達と分析 第14回 体力と運動処方 第15回 運動学習					
成績評価	授業出席日数、筆記試験で判定する。					
教科書	中村 隆一著 基礎運動学 第6版 医歯薬出版					
参考書	運動学（15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト） 2012：【中山書店】 運動学テキスト：【南江堂】 筋骨格系のキネシオロジー：【医歯薬出版】					
オフィス・アワー	火曜日以外のお昼休時間内ならいつでも良い。					

科目名	運動学実習		対象年次	2年次	授業時間数	45		
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)		
担当教官名 (実務経験者)	学内全教員	所属	秋田リハビリテーション学院					
授業目的	運動学実習では、解剖学・生理学・力学を基礎知識として理解し、身体運動について実習を通して理解を深める。歩行、運動の学習、重心動揺の計測、運動・動作の解析、筋力、生体計測による実習をグループに分かれて行う。							
到達目標	各実習項目で定められた手順で実習を行い、最終的には身体運動に関する分析課題を適切な機器を用い、分析の手順に沿って計画・実行することにより、課題を解決する。							
授業計画	オリエンテーション (4/9、3限 102 教室集合)：各実習課題実施時に担当教員から、運動学実習の目標と実習方法、レポートの書き方、記述統計等について説明します。							
	回数	実習日	G1	G2	G3	G4	G5	G6
	①	4/17	実習 1	実習 2	実習 3	実習 4	実習 5	実習 6
		4/24	データ集計・レポート作成日					
	②	5/8	実習 2	実習 3	実習 4	実習 5	実習 6	実習 1
		5/15	データ集計・レポート作成日					
	③	5/22	実習 3	実習 4	実習 5	実習 6	実習 1	実習 2
		5/29	データ集計・レポート作成日					
	④	6/12	実習 4	実習 5	実習 6	実習 1	実習 2	実習 3
		6/19	データ集計・レポート作成日					
⑤	6/26	実習 5	実習 6	実習 1	実習 2	実習 3	実習 4	
	7/3	データ集計・レポート作成日						
⑥	7/10	実習 6	実習 1	実習 2	実習 3	実習 4	実習 5	
	7/17	データ集計・レポート作成日						
成績評価	授業態度、レポートの結果を総合的にみて判定。一つでも課題を行わなかった場合は単位修得できない。							
教科書	<教科書>指定しない							

G1	G2	G3	G4	G5	G6
01	08	15	21	28	35
02	09	16	22	30	36
03	10	17	23	31	37
04	11	18	24	32	38
05	12	19	25	33	39
06	13	20	27	34	40
07	14				

科目名	薬理学		対象年次	2年次	授業時間数	15
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数(必・選)	1(必)
担当教員名	船越 広大	所属	元 秋田大学大学院医学系研究科			
授業目的	疾患とその薬物療法を総合的に理解する。					
到達目標	疾患ごとの治療薬の作用・副作用などを理解する。					
授業計画	<p>授業概要</p> <p>総論は医薬品の定義から保管法、薬の作用メカニズムなど基礎的なことを学んでいく。 各論では疾患の症状・原因と、その治療薬の作用・副作用を主体として学んでいく。 講義はスライド・板書・配布資料を用いて行う。</p> <p>薬理学総論： ・薬理学とは ・薬の作用メカニズム ・薬の副作用と副作用 ・薬物動態（生体内運命） ・相互作用</p> <p>薬理学各論 ・自律神経作用薬 ・筋弛緩薬 ・麻酔薬 ・不眠症とその治療薬 ・てんかんとその治療薬 ・パーキンソン病とその治療薬 ・認知症、アルツハイマーとその治療薬 ・心臓および血管に作用する薬 ・糖尿病とその治療薬 ・脂質異常症とその治療薬 ・炎症の特徴と抗炎症薬 ・神経症、気分障害、統合失調症とその治療薬 ・抗悪性腫瘍薬 ・感染症とその治療薬 ・ホルモン系薬 ・アレルギーの分類とその治療薬</p>					
成績評価	授業態度、小テスト、レポート、筆記試験等の結果を総合的にみて判定					
教科書	リハベーシック薬理学・臨床薬理学 第2版 医歯薬出版株式会社					
参考書	薬がみえる（メディックメディア）					
オフィス・アワー	授業終了後 10分					

科目名	内科学一般		対象年次	2年次	授業時間数	15
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	大野 秀雄	所属	御野場病院 診療部長			
授業目的	内科学一般は呼吸器病学、循環器病学を除く広範な人体の疾病分野をカバーしており、人間の構造と疾病を理解する上で基本となるものである。1年次に学んだ人体の構造、機能を元にして炎症や腫瘍、変性や代謝過程の変容がどのような形で臓器と人体に疾病として表れるか、理解し説明できることを期待したい。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1, 代表的な内科疾患について基礎知識を習得する。 2, 疾病の診断に至る過程を理解する。 3, 疾病の治療について、医療の進歩との関連で理解する。各疾患とリハビリテーションとの関係を理解する。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1, 内科学とは 内科学の概念とリハビリテーション 内科的診断と治療の実際 診察、検査、治療の進め方 2, 症候学 発熱、全身倦怠感、悪心・嘔吐、易感染性、意識障害、めまい、浮腫・むくみ、レイノー現象、頭痛、リンパ節腫脹、ショックなどの症候について、その特長やそれらを来す原因疾患、鑑別などを理解する。 3, 消化管疾患Ⅰ（食道・胃疾患）について学ぶと 4, 消化器疾患Ⅱ（小腸・大腸疾患）について学ぶ 5, 肝胆膵の疾患についてその概要を学ぶ。 6, 血液・造血器疾患について学ぶ 7, 代謝疾患について学ぶ 8, 内分泌疾患について学ぶ <p>◎内科一般の分野は非常に広大である。8回の時間内に納めることが困難であり、腎疾患を内科(循環)に2回、膠原病、アレルギー、自己免疫疾患、後天的免疫不全症候群、感染症などは、呼吸器病の中に内科(呼吸)として2回を充てる。</p> <p>◎教科書を必ず持参すること。</p> <p>◎医療・医学・社会保障関係のニュースに関心を持つ。</p>					
成績評価	授業態度, アクションペーパー, 筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 「内科学」(医学書院)					
参考書	「病気が見えるシリーズ」(メディックメデア社)					
オフィス・アワー	特に設けないが、講義後の質問を歓迎する。					

科目名	小児科学		対象年次	2年次	授業時間数	15
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	木元 稔	所属	秋田大学大学院 医学系研究科保健学専攻理学療法学講座			
授業目的	健康な子どもの発達、子どもの病気の特徴と診断、治療について学習する。					
到達目標	以下について理解できる。 1. 典型発達である子どもと接する時の注意点 2. 病気の子ども・病気を治療中の子どもと接する時の注意点 3. 障害がある子どもと接する時の注意点					
授業計画	1. 序説、PT・OTと小児科学の関わり、小児科学概論、診断と治療の概要 2. 新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝病 3. 神経・筋・骨疾患、循環器疾患 4. 呼吸器疾患、感染症 5. 消化器疾患、内分泌・代謝疾患 6. 血液疾患、免疫・アレルギー疾患 7. 腎・泌尿器系、生殖器疾患、腫瘍性疾患 8. 習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待、重症心身障害児、 眼科・耳鼻科医的疾患					
成績評価	小テスト、授業貢献度、筆記試験結果等を総合的にみて判定。					
教科書	標準理学療法学・作業療法学：専門基礎分野、小児科学：第6版（医学書院）					
参考書	標準小児科学：第9版（医学書院）					
オフィス・アワー	授業終了後 10分					

科目名	精神科学		対象年次	2年次	授業時間数	15
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	須田 秀可	所属	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター			
	兼子 義彦	所属	同 上			
	向井 長弘	所属	同 上			
	成田 恵理子	所属	同 上			
	小林 祐美	所属	同 上			
授業目的	<p>精神疾患はだれでもかかる可能性がある。理学療法の実践場面においても精神症状、精神障害を合併する対象者が多くなっている。</p> <p>理学療法士は身体障害のみならず、社会環境、精神症状・障害を踏まえたトータルなアプローチが不可欠である。</p> <p>本講義では、対象者に対し精神症状医学的治療（薬物療法）、身体活動と精神症状の関係、について講義を通して学ぶ。</p>					
到達目標	<p>1. 基本的な精神症状を評価できるようになる。</p> <p>2. 精神疾患・障害の理解と身体合併症者に対する基本的なアプローチができるようになる。</p>					
授業計画	<p>※授業日が前後することがあります。</p> <p>第1回 精神医学的症候について（向井） 10月4日1限</p> <p>第2回 統合失調症について（小林） 11月6日4限</p> <p>第3回 不安神経症について（兼子） 10月1日3限</p> <p>第4回 発達障害について（須田） 10月9日4限</p> <p>第5回 気分障害の症状と治療および、薬物依存症の症状と治療（小林） 12月4日4限</p> <p>第6回 生理的・身体的要因に関連した行動障害の症状と治療（小林） 12月11日4限</p> <p>第7回 てんかんの症状と治療（成田） 11月13日4限</p> <p>第8回 老年期の精神障害の症状と治療および、器質性精神障害の症状と治療（成田） 11月20日4限</p> <p>試験 1月15日4限</p>					
成績評価	授業態度，小テスト，レポート，筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	上島国利、立山万里『精神医学テキスト』南江堂. 2023 ISBN : 978-4524264360					
参考書	適宜紹介する。					
オフィス・アワー	特に設けません。講義中に積極的な質問を求めます。					

科目名	筋骨格障害学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	2 (必)
担当教員名	岡田 恭司	所属	秋田大学名誉教授			
授業目的	運動器疾患の概要を学ぶ。					
到達目標	運動器疾患の概要を知る。					
授業計画	第1回 基礎、四肢の診察 第2回 脊椎の診察、変形性関節症 第3回 関節リウマチ、骨関節の感染 第4回 末梢神経障害－1、－2 第5回 骨粗鬆症、代謝性骨疾患 第6回 良性骨腫瘍、悪性骨腫瘍 第7回 転移性骨腫瘍・軟部腫瘍、骨腫瘍類似疾患・骨関節系統疾患 第8回 骨端症、外傷のプライマリーケア 第9回 上肢の骨折・脱臼、骨盤・下肢の骨折 第10回 頸椎胸椎疾患、腰椎疾患 第11回 脊髄腫瘍・脊椎の炎症・脊柱変形、脊椎の外傷・脊髄損傷 第12回 小児股関節疾患、膝関節疾患 第13回 足の疾患、肩・肘の疾患 第14回 手の疾患、軟部疾患・その他 第15回 予備					
成績評価	筆記試験					
教科書	Visual Navi 整形外科学. メジカルビュー社. 2012. 【ISBN-13: 978-4758311427】					
参考書	特に指定しない。					
オフィス・アワー	授業終了後 10 分間.					

科目名	脳神経科学		対象年次	2年次	授業時間数	15
専門基礎科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	若山 佐一	所属	弘前大学名誉教授			
授業目的	<p>神経系の構造と機能について興味関心を持ち、脳や神経系の最新の情報を必要に応じて適切に収集できる。</p> <p>神経系の構造と機能について、人体構造学、人体機能学、運動生理学、神経内科学などの科目の知識を復習、統合し、理学療法に必要な知識統合を図る。</p> <p>神経系、神経筋疾患の症状、障害について神経内科学などと並行しながら理解を深める。障害(ICF;生活機能分類)の観点から神経疾患、神経筋疾患の理学療法、リハビリテーションについて知識の統合を目指す。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法に必須の中枢神経系や末梢神経系の構造と機能を復習統合して理解する。 ・神経系の構造や機能の異常による神経症状、その検査方法などについて、理学療法評価、障害(ICF,生活機能分類)の観点から神経疾患とその障害像を理解する。 ・神経疾患、神経筋疾患の理学療法、リハビリテーションの一端を理解する 					
授業計画	<p>12/2(月)第1回 プレスト、シラバス/脳神経科学の最前線(以下毎回)/神経系の構造と機能およびその障害について1</p> <p>12/16(月)第2回 小テスト1、神経系の構造と機能およびその障害について2</p> <p>12/16(月)第3回 錐体路系、錐体外路系の構造と機能、症状と障害</p> <p>1/20(月)第4回 小テスト2*、小脳と小脳関連の構造と機能、症状と障害</p> <p>1/20(月)第5回 感覚・知覚系と脳・神経の構造と機能、症状と障害</p> <p>2/3(月)第6回 小テスト3*、筋萎縮、筋力低下等に関わる神経系の構造と機能、症状と障害</p> <p>2/3(月)第7回 神経疾患、神経筋疾患の理学療法、リハビリテーション(導入)</p> <p>2/10(月)第7.5回 小テスト4*</p> <p>2/17(月)第8回 期末まとめと期末試験</p> <p>*小テストはEduNaviにて前回授業の復習テストとして実施、小テスト2~4は授業2回分、約15分間の実施、小テスト1は授業1回分、約10分間の実施予定</p>					
成績評価	<p>期末試験(50%)、毎回の復習テストや授業中の取り組み(意見や質問などを含め50%)、により評価する。</p>					
教科書	<p>医療情報科学研究所編、病気が見える7 脳・神経 第2版、メディックデイ、2017</p>					
参考書	<p>櫻井武：脳神経科学がわかる、好きになる、羊土社、2020</p> <p>工藤佳久：実験医学別冊 改訂版もっとよくわかる! 脳神経科学 やっぱり脳はとってもスゴイのだ!、羊土社、2021</p> <p>「人体構造学」、「人体機能学」の教科書、参考書等</p> <p>「運動学」、「運動学実習」の教科書、参考書等</p> <p>「神経内科学」の教科書、参考書等</p> <p>難病情報センター http://www.nanbyou.or.jp/</p> <p>DVD:リハビリテーション医学第2版 vol.7 神経・筋疾患、医学映像教育センター、2015</p>					
オフィス・アワー	<p>授業終了後の10~20分間</p>					

科目名	臨床心理学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門基礎科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	柴田 健	所属	秋田大学 教育文化学部			
授業目的	臨床心理学は、臨床実践と理論研究が深く結びつき、相互に影響し合いながら学問として体系化されてきた。本授業では、臨床心理学の関連学問分野における位置づけ、発展の歴史、代表的な理論を学んだ上で、これらの知識をもとにより良いコミュニケーションの取り方や来談者への臨床心理学的支援の方法を実践的に学ぶ。そして、臨床心理学の基本的知識の習得に加え、実学としての臨床心理学的視点を身につけ臨床活動に応用できることを目的とする。					
到達目標	次の3点を到達目標とする 1. 臨床心理学の定義と考え方の基本について説明できる。 2. 現代社会におけるさまざまな問題について、臨床心理学の視点からその解決方法や当事者支援について考察できる。 3. 理学療法と臨床心理学の関連性について考察できる。					
授業計画	<p>本授業は、講義とディスカッション、面接実習からなる。特に、11回から14回の授業は、基礎的なカウンセリングと心理療法（ブリーフセラピー）の面接実習である。学生諸君の積極的な授業参加を望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学とは何か：その歴史 2. PTが接する臨床心理学的問題 3. 臨床心理学におけるエビデンスとナラティブ 4. 家族システムを探る 5. 臨床心理学的に生涯発達を考える 6. 心理検査を知る1（知能検査を中心に） 7. 心理検査を知る2（性格検査を中心に） 8. 心理療法を知る1（力動的心理療法を中心に） 9. 心理療法を知る2（認知行動療法を中心に） 10. 心理療法を知る3（システム論的心理療法を中心に） 11. カウンセリングの実習1（よりよいコミュニケーションを考える） 12. カウンセリングの実習2（傾聴を知る） 13. カウンセリングの実習3（傾聴を発展させる） 14. カウンセリングの実習4（解決志向ブリーフセラピーを体験する） 15. 補足、まとめ、討論 					
成績評価	授業態度、小テスト、レポート、筆記試験結果等を総合的にみて判定する					
教科書	授業内で資料を適宜配布する。					
参考書	特に指定しない。					
オフィス・アワー	授業終了後10分間。					

科目名	内科学（循環）		対象年次	2年次	授業時間数	15
専門基礎科目			開講時期	後期→ 通年	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	大野 秀雄	所属	御野場病院 診療部長			
授業目的	循環器病学は約 300 グラムの心臓とそこから出入りする動脈・静脈によって成り立つ循環器系の疾患を取り扱う。その循環動態は生命維持と密接に絡まると共に、「血管は年齢と共に老いる」とも言われ、血管を病変の首座とする疾患も多い。循環器系の構造をしっかりと理解した上で、心臓、血管系の疾患を理解し、緊急事態にも対応できるようになることを期待したい。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1, 代表的な循環器疾患について基礎知識を習得する。 2, 疾病の成り立ちを理解し、説明できる。 3, 疾病の治療について、医療の進歩との関連で理解する。 4, 循環器疾患とリハビリテーションとの関係を理解する。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1, 循環器系の解剖と生理を学ぶ 大循環系と小循環系を説明できること 2, 循環器疾患の主要な症候とその原因について 呼吸困難、胸痛、動悸、浮腫、チアノーゼ、失神など。 3, 循環器疾患の診断法 病歴、身体所見、心電図、画像診断、その他の一般検査など 4, 循環器疾患各論Ⅰ 虚血性心疾患について学ぶ 狭心症と心筋梗塞の違いなど 5, 循環器疾患各論Ⅱ 高血圧・低血圧を学ぶ。 血圧の成り立ちとその高低により疾患 6, 循環器疾患各論Ⅲ 不整脈、血管疾患について学ぶ 心臓の刺激伝導系の考え方など 7, 8, <p>◎教科書を中心に授業を進めるが、プリントを用意して理解しやすいように努めてゆくつもりである。</p>					
成績評価	授業態度、筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	教科書:標準理学療法学・作業療法学 「内科学」(医学書院)					
参考書	「病気が見えるシリーズ」(メディックメディア社)					
オフィス・アワー	特に設けないが、講義後の質問を歓迎する。					

科目名	内科学（呼吸）		対象年次	2年次	授業時間数	15
専門基礎科目			開講時期	後期→ 通年	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	大野 秀雄	所属	御野場病院 診療部長			
授業目的	呼吸器系は鼻腔から咽頭、喉頭、気管、気管支を経て肺に至る呼吸に関する器管である。ガス交換を介して体の外部と内部の接点であり、外からの病原が入りやすいところである。高齢社会となるに従って肺炎が死因の順位を上げているのはそのため、特に誤嚥は大きな問題である。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1, 呼吸器の構造と機能を理解する。 2, 代表的呼吸器疾患の成り立ちを理解し、説明できる。 3, 疾病の治療について、理解する。 4, 呼吸器疾患とリハビリテーションとの関係を理解する。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1, 呼吸器系の解剖と生理を学ぶ 外呼吸と内呼吸を説明できること 2, 呼吸器の主要な症候とその病態生理について 咳漱・喀痰、喘鳴、呼吸困難、胸痛、チアノーゼ、起座呼吸など。 3, 呼吸器疾患の診断法 画像検査、スパイロメーター、喀痰・胸水、その他の一般検査など 4, 呼吸器疾患各論Ⅰ 感染性疾患など 肺炎、肺結核、肺気腫、喘息など 5, 呼吸器疾患各論Ⅱ 肺腫瘍など。 肺がん、呼吸不全など 6, 呼吸不全と呼吸リハビリテーションについて学ぶ 心不全の分類、リハビリテーションの進め方 7, 8, <p>◎教科書を中心に授業を進めるが、プリントを用意して理解しやすいように努めてゆくつもりである。</p>					
成績評価	授業態度、リアクションペーパー、筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 「内科学」(医学書院)					
参考書						
オフィス・アワー						

科目名	神経内科学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門基礎科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	横山 絵里子	所属	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター			
授業目的	多くの神経疾患がリハビリテーションの対象となる。リハビリテーションに関わる神経疾患の症状、疾患の特徴、神経解剖学、神経生理学、神経心理学の概略を理解し、神経疾患に興味を持ってリハビリテーションの臨床に活用できるようにする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・神経症状の理解（解剖、生理学的背景など）。 ・神経学的な問診、診察方法の習得や、関連する諸検査の理解。 ・神経症状を呈する疾患の理解。 ・リハビリテーションにおける神経疾患の位置づけの理解。 					
授業計画	第1回 神経内科学序論（歴史、神経心理学） 第2回 症候学と診察1 一般内科的診察、意識 第3回 症候学と診察2 脳神経のみかた 第4回 症候学と診察3 運動麻痺、運動失調 第5回 症候学と診察4 錐体外路症状、不随意運動 第6回 症候学と診察5 感覚障害、疼痛、反射、自律神経症状 第7回 症候学と診察6 精神症状、高次脳機能障害 第8回 画像診断 CT/MRI 第9回 各論1 パーキンソン病と関連疾患 第10回 各論2 脳血管障害 第11回 各論3 認知症 第12回 各論4 脳外傷、脳腫瘍 第13回 各論5 脱髄性疾患、運動ニューロン疾患 第14回 各論6 筋疾患、脊髄小脳変性症、てんかん、神経感染症 第15回 試験（筆記試験）					
成績評価	授業態度、小テスト、筆記試験等の結果を総合的にみて判定する。					
教科書	田崎義昭，他：ベッドサイドの神経の診かた，改定18版，南山堂 2016.					
参考書	河村満，編：メディカルスタッフのための神経内科学，医歯薬出版					
オフィス・アワー	質問等がある場合は，授業後10分間といたします。					

2年次 専門科目

科目名	理学療法学スキルⅡ-1		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	学内全教員	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	理学療法学スキルは1～3年生の3学年とアドバイザー教員との合同による協働授業・演習であり、理学療法士として必要な職業人格を育むために科目内の課題学習をとおり、接遇、社会人基礎能力、課題解決能力、主体的協働能力の育成・発達を目的とする。					
到達目標	授業課題への取り組み（課題・調査・発表の実施と運営、リフレクションによる課題省察）を通して小集団における役割、責任を意識し、自ら主体的に課題到達のために考え、解決・遂行できる。必要に応じて積極的にコミュニケーションをとり円滑な課題遂行に努めることができる。					
授業計画 Ⅱ-1	<p>1. オリエンテーション、アドバイザーグループ発表（グループ内自己紹介など）& 構成的グループエンカウンター1</p> <p>2. 構成的グループエンカウンター2</p> <p>3. 構成的グループエンカウンター3</p> <p>4. オープンキャンパスと公開講座のオリエンテーション</p> <p>5. オープンキャンパスと公開講座の準備運営1</p> <p>6. 臨床実習報告会（Ⅰ期）</p> <p>7. 臨床実習報告会（Ⅱ期）</p> <p>8. 『こころの健康について』＜学外講師招聘＞</p> <p>9. 検査実技テストを3年生に行い協同学習① (①ROM 上肢②下肢③感覚④反射⑤四肢計測)</p> <p>10. 検査実技テストを3年生に行い協同学習②</p> <p>11. 検査実技テストを3年生に行い協同学習③</p> <p>12～15. ※4回分はオープンキャンパスに振替。</p>					
	<p>(エンカウンターには“出会い”という意味があり、課題をとおりして、“気づき”に出会う事を目的としています。今まで気づかなかった事から学び、将来に生かす。どんな出会いがあるのでしょうか!?)</p>					
	<p>(先輩たちと協力し合って、公開講座とOCを運営します。協力し合うことで、小集団における役割、責任を意識し、自ら主体的に課題到達のために考え、解決・遂行することを体験して学ぶことを目的としています。)</p>					
	<p>理学療法検査は理学療法士として一生使う技術です。正しい方法で、正確に行い、再現性・信頼性伴うやり方を修得する必要があります。健常な学生同士では測りやすいのですが、患者さん相手ではそうはいかないことが多いので、臨機応変に実施できることも求められます。評価学の実技テストに合格するためにも、すでに合格している先輩に被験者として協力を仰ぎ、実技に関して必要に応じ指摘を受けて技術と知識を研鑽しよう。アドバイザー教員にも観てもらい適切かつ迅速に習得できているか判断を仰ごう。できているという思い込みは失敗のもと。</p>					
成績評価	授業態度、シャトルカード提出、課題発表等の結果を総合的にみて判定。					
教科書・参考書	特になし					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名	理学療法管理学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	福原 隆志	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	理学療法士が従事する保健・医療・福祉領域において、社会保障制度ならびに自己管理における倫理的視点を学ぶ。臨床における理学療法の実務の基本と臨床教育について学ぶ。					
到達目標	①憲法及び法律の中の衛生法の意味と社会保険法の位置づけを説明できる ②理学療法の実施とその対価（診療報酬・介護報酬など）について説明できる。 ③理学療法の実施後の診療記録と書類管理について説明できる。 ④コンプライアンス、ハラスメントについて説明できる。 ⑤診療参加型臨床実習について説明できる。 ⑥生涯学習制度について説明できる。					
授業計画	1. 理学療法管理学について 2. 社会保障制度 3. 医療保険 4. 介護保険 5. 障がい者・障がい児サービスと就労支援 6. 職業倫理 7. 身分法と倫理綱領 8. 病院・施設の組織 9. 療法士の業務 10. コンプライアンス、ハラスメント 11. 労務管理 12. 組織マネジメント 13. 医療の質的保障 14. リスクマネジメント 15. 生涯学習（症例検討会を含む）					
成績評価	授業態度、シャトルカード提出、課題発表等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	リハビリテーション管理学；斉藤秀之、医学書院					
参考書						
オフィス・アワー	授業終了直後					

科目名	理学療法評価学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目	(関節可動域)		開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	学内教員	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	理学療法を施行する上で疾患がもたらす障害を的確に把握することが重要である。本授業では主として機能的な障害を評価するための理学療法検査・測定として、基礎的知識や基本的考え方、手段、手技について実技を中心に学習する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法検査・測定に関する基礎的知識を理解することができる。 2. 理学療法検査・測定に関する基本的技術を実施することができる。 3. 理学療法検査・測定から、障害像を推定することができる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総論，一般的評価事項 担当：木元 2. 痛みの評価・知覚検査 担当：菊地 3. 形態計測（上肢） 担当：ジョーンズ 4. 形態計測（下肢） 担当：ジョーンズ 5. 関節可動域測定 上肢（肩甲帯・肩） 担当：木下・福原 6. 関節可動域測定 上肢（肘・手） 担当：木下・福原 7. 関節可動域測定 下肢（股） 担当：木下・福原 8. 関節可動域測定 下肢（膝・足） 担当：木下・福原 9. 関節可動域測定 頸部・体幹 担当：木下・福原 10. 反射検査（深部腱反射等） 担当：臼井 11. 反射検査（病的反射等） 担当：臼井 12. 片麻痺機能検査 担当：木元 13. 姿勢観察・姿勢反射 担当：木元 14. 実技試験 担当：福原 15. 実技試験 担当：福原 					
成績評価	授業態度，小テスト，実技試験，筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	松澤正：新版 理学療法評価学，金原出版					
参考書	田崎義昭・齋藤佳雄：ベッドサイドの神経の診かた，南山堂					
オフィス・アワー	授業終了直後					

科目名	高次脳機能障害学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	浅野 朝秋	所属	秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻			
	高橋 恵一		秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻			
	小玉 鮎人		秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻			
	菊地 翼		秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻			
	進藤 潤也		秋田県立循環器・脳脊髄センター			
授業目的	1. 高次脳機能とその障害を十分に理解する。 2. 高次脳機能障害のある人の生活の困難を理解する。 3. 高次脳機能障害のある人への適切な介入方法を考える。					
到達目標	高次脳機能障害の概略を知り、対象者の動作や生活機能に与える影響について関連づける事が出来る。					
授業計画	<p>*2024年度は諸事情により後期に開講します。</p> 1. 高次脳機能障害とは (浅野) 2. 高次脳機能障害がある人 (浅野) 3. 高次脳機能障害のリハビリテーション (小玉) 4. 意識障害(菊地) 5. 注意障害(浅野) 6. 認知症(浅野) 7. 失語症(言語聴覚士講師) 8. 失行症 (高橋) 9. 失認症 (進藤) 10. 半側空間無視(菊地) 11. Pusher 現象 (理学療法士講師) 12. 記憶障害(浅野) 13. 遂行機能障害 (浅野) 14. 解剖学的基盤と画像診断 (学内講師) 15. テスト (学内講師)					
成績評価	修了認定は、当該授業科目開講時間数の3分の2以上出席した者を対象に、テスト、またはレポートによって評価する。					
教科書	PT・OTのための高次脳機能障害ABC 網本和 (編), 文光堂 2015.					
参考書	リハビリナース、PT、OT、STのための患者さんの行動から理解する高次脳機能障害—なぜ、患者さんはこんな行動をとるの? どう対応するの? 椿原彰夫, 石井雅之 (監), 種村純, 種村留美 (編), 株式会社メディカ出版 2011.					
オフィス・アワー	設定なし。授業時間内に随時確認し進める。					

科目名	運動療法学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	木元 裕介	所属	秋田リハビリテーション学院			
		所属				
授業目的	運動療法学は、理学療法の中で最も重要な位置を占める治療方法である。どのような疾患別理学療法も、内在する障害に共通点があり、理学療法士はその障害に対する運動療法を行う。本講義では、障害別運動療法の中で、特に基本的な筋力トレーニングと関節可動域制限に対する運動療法を知り、これらを実践する能力を学習することを目的としている。					
到達目標	運動療法の基礎知識、および基本的な運動療法の方法を習得し、今後の疾患別理学療法を学習する上での基礎を形成できる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動療法の歴史、目的、原理、運動の種類、リスク管理 2. 筋力トレーニング① 筋と筋収縮 筋収縮の様式 3. 筋力トレーニング② FITT とトレーニングの5大原則 OKC と CKC 4. 筋力トレーニング③ 筋力増強運動の実際 5. 筋力トレーニング④ 演習 6. 筋力トレーニング⑤ 演習 7. 実技試験『筋力トレーニング』 8. 関節可動域制限に対する運動療法① 関節の運動学 可動域制限の原因 9. 関節可動域制限に対する運動療法② ストレッチングと関節モビライゼーション 10. 関節可動域制限に対する運動療法③ 関節可動域練習の原因別アプローチ 11. 関節可動域制限に対する運動療法④ 演習 12. 関節可動域制限に対する運動療法⑤ 演習 13. 実技試験『関節可動域練習』 14. 全身持久力改善のための運動療法 15. 疾患別運動療法（運動器疾患、脳血管障害、呼吸器疾患、循環器疾患） 					
成績評価	出席、課題提出、実技試験を総合的に評価					
教科書	「シンプル理学療法シリーズ 運動療法学テキスト」細田多穂・監 「PT・OTのための 臨床実習で役立つリハビリテーション基本実技 PT版」椿原彰夫・編					
参考書	「15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動療法学」石川朗・編 「標準理学療法シリーズ 運動療法学 総論」吉尾雅治・編					
オフィス・アワー	授業終了後 10分間					

科目名	物理療法学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	木下 和勇	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 物理療法の意義と意味を知る。 ● 各物理療法機器の治療原理と生理学的効果を学び、適応と禁忌を理解する。 					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 各物理療法機器の種類とその治療原理を理解し、その適応と禁忌を考慮して、適切な物理療法の選択ができる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物理療法学総論 2. 温熱療法総論(熱の物理学、生理的作用) 3. 温熱療法各論① (ホットパック・パラフィン) 4. 温熱療法各論②(変換熱 I 超短波、極超短波) 5. 温熱療法各論③(変換熱 II 超音波) <p>寒冷療法</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 実技(前半) <p>7. 中間テスト (1～6回までの内容で筆記試験。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 電気刺激療法総論 9. 電気刺激療法各論① (疼痛軽減のための電気刺激：TENS・干渉波電流・マイクロカレント) 10. 電気刺激療法各論② (神経筋電気刺激：NMES、高電圧パルス電流：HVPC、機能的電気刺激：FES) 11. 光線療法(赤外線・紫外線・レーザー療法) 12. 水治療法 13. 牽引療法(頸椎牽引、腰椎牽引) 14. 実技(後半) 15. 筆記試験 <p>※内容に変更の場合お知らせします。</p>					
成績評価	授業態度、出席、中間テスト、筆記試験を総合的にみて判定する。					
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学 (吉田英樹：メジカルビュー社)					
参考書	EBM 物理療法原著第4版 (Michelle H. Cameron：医歯薬出版株式会社) 15 レクチャーシリーズ物理療法学・演習 (石川 朗：中山書店)					
オフィス・アワー	授業終了後 10 分。					

科目名	在宅生活環境学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	ジョーンズ佳子	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	障害を個人の要因（心身機能・身体構造、年齢等）として捉えるとともに、生活環境から捉える必要もある。住居や公共交通機関、公共建築物などに代表される物理的環境のみならず、福祉制度や施策といった社会的・制度的環境、あるいは家族や介護者、専門家、当事者、ボランティア等の人的環境の視点からも捉える必要がある。対象者が自立した主体的生活を営むための生活環境整備・改善・支援について学習する。					
到達目標	さまざまな障がい者、高齢者を取り囲む生活環境の障壁(バリア)を理解し、QOLの向上を目指した生活環境整備の基本的知識、基本的支援技術を習得する。そのうえで対象者のための居住環境調整案(住宅改修案)が作成でき、生活環境整備から生活支援ができる。					
授業計画	第1回 生活環境の概念について(教科書222頁) 社会構造、疾病構造、生活構造の変遷から説明できる。 第2回 生活環境の評価と改善計画について(教科書231頁) 住環境整備を障害者・高齢者の障害の関係から評価できる。 第3回 生活環境と法的諸制度について(教科書246頁) 社会保障制度と保健福祉施策について説明できる。 第4回 住環境整備と住宅改修について(教科書276頁) 対象者が社会参加できるための方策を環境整備から説明できる。 第5回 生活を支える福祉・リハビリテーション関連用具について(教科書283頁) 関連用具の利点と欠点を理解した上で、選択できるようになる。 第6回 設計の基本的な図面(見取り図)の見方と書き方 第7回 事例演習1(福祉用具を活用した住宅改修の事例) 事例に基づく改善案(人的・物的・制度的)を起案しまとめる。 第8回 事例演習2(福祉用具を活用した住宅改修の事例) 第7回の結果をグループごとにパワーポイントで発表する。 第9回 地域環境と公共交通について(教科書293頁) バリアフリーならびにユニバーサルデザインの考え方について 地域づくりや街づくりの観点から説明できる。 第10回 高齢者の在宅支援サービス(教科書303頁) 第11~15回 *演習(フィールドワーク~まとめ~発表~総括) グループごとに段差、スロープ、出入り口幅、開閉ドア、スペースについて 計測しながら、学院内周辺施設等の調査を行う (カメラ、メジャー、傾斜計持参)					
成績評価	授業態度、課題レポート、グループ発表等を総合的にみて判定します。					
教科書	理学療法学「日常生活活動学・生活環境学」医学書院。(←日常生活活動学と同様) 「シンプル理学療法学作業療法学 生活環境学テキスト」南江堂。					
参考書	図解住まいの寸法:暮らしから考える設計のポイント 堀野和人学芸出版社.2017978-4761526443					
オフィス・アワー	月曜日、水曜日～金曜日のお昼休み時間内いつでも。					

科目名			対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目	理学療法学スキルII-2		開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	全教員	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	理学療法学スキルは1～3年生の3学年とアドバイザー教員との合同による協働授業・演習であり、理学療法士として必要な職業人格を育むために科目内の課題学習をとおり、接遇、社会人基礎能力、課題解決能力、主体的協働能力の育成・発達を目的とする。					
到達目標	授業課題への取り組み（課題・調査・発表の実施と運営、リフレクションによる課題省察）を通して小集団における役割、責任を意識し、自ら主体的に課題到達のために考え、解決・遂行できる。必要に応じて積極的にコミュニケーションをとり円滑な課題遂行に努めることができる。					
授業計画	0. (10/3) 休講 (3年生口頭試問のため) 1. (10/10) OSCE オリエンテーション 2～5. (10/17～11/7) OSCE 練習①～④ 6～7. (11/14 1-2限) OSCE(客観的臨床能力試験) 8. (12/5) Pre-OSCE オリエンテーション、Pre-OSCE の練習① 9. (12/12) Pre-OSCE の練習② 10. (12/17) 講話予定<外部講師> 11～12. (1/9～1/16) Pre-OSCE の練習③④ 13～14. (1/23 1-2限) Pre-OSCE 15. (1/30) 『税金講話』<秋田南税務署講師>					
成績評価	授業態度、シャトルカード提出、課題発表等の結果を総合的にみて判定。					
教科書・参考書	特になし					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名	理学療法評価学 (MMT)		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	菊地 和人 臼井 和	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	理学療法を施行する上で疾患がもたらす障害を的確に把握することが重要である。本授業では主として機能的な障害を評価するための理学療法検査・測定として徒手筋力検査・血圧測定について、基礎的知識や基本的考え方、手段、手技について実技を中心に学習する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法検査・測定に関する基礎的知識を理解することができる。 2. 理学療法検査・測定に関する基本的技術を実施することができる。 3. 理学療法検査・測定から、障害像を推定することができる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 徒手筋力検査法総論 2. 徒手筋力検査法 下肢 (股関節) 3. 徒手筋力検査法 下肢 (股関節・膝関節) 4. 徒手筋力検査法 下肢 (足関節・足趾の関節) 5. 徒手筋力検査法 上肢 (肩甲帯) 6. 徒手筋力検査法 上肢 (肩関節・肘関節) 7. 徒手筋力検査法 上肢 (前腕・手関節) 8. 徒手筋力検査法 上肢 (手指の関節) 9. 徒手筋力検査法 頸部、体幹 10. 徒手筋力検査法 頸部、体幹 11. 徒手筋力検査法 脳神経、機能試験 12. 総復習 13. 総復習 14. 実技試験 (上肢・下肢・頸部体幹) 15. 実技試験 (上肢・下肢・頸部体幹) 					
成績評価	授業態度, 小テスト, 実技テスト, 筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	新・徒手筋力検査法 原著第10版、津山 直一 (翻訳), 中村 耕三 (翻訳)					
参考書	理学療法評価学 改訂第6版、金原出版、2016.					
オフィス・アワー	火曜日以外のお昼休時間内ならいつでも良い。					

科目名	基礎運動器系理学療法学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	木下 和勇	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	筋、骨格系疾患・障害の理学療法を実施するには、適切な基本的知識及び評価が必須である。また、これら基本的知識及び評価から治療法を選択し、その治療法を手や言葉を介して「行える」、「伝える」必要がある。 授業の目的は、本授業を通じて、理学療法士の学生が理解すべき基本的な筋、骨格系疾患・障害を学び、かつ、手と言葉を駆使しながら「行える」、「伝える」能力を学習することである。					
到達目標	筋、骨格系疾患に対する疾患を系統的に理解できる。基本的運動療法の知識と概念について理解できる。また、筋、骨格系疾患の基本的運動療法を実践できる。 授業に先立った予習を行い、問題点を抽出するよう働きかけることができる。また、その問題点を復習等で解決することができる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肩関節1：腱板損傷の理学療法 2. 肩関節2：肩関節周囲炎の理学療法 3. 肩関節3：上腕骨骨折の理学療法 4. 肘関節：前腕骨骨折・肘関節脱臼の理学療法 5. 手関節：前腕骨骨折の理学療法 6. 股関節1：変形性股関節症の理学療法 7. 股関節2：大腿骨近位部骨折の理学療法 8. 膝関節1：変形性膝関節症の理学療法 9. 膝関節2：膝周囲の骨折、下腿骨骨折の理学療法 10. 足部・足関節1：アキレス腱炎・アキレス腱断裂の理学療法 11. 関節リウマチの理学療法 12. 脊柱：椎間板ヘルニア・変形脊椎症・腰部脊柱管狭窄症・腰椎圧迫骨折の理学療法 13. 実技：アキレス腱断裂(保存療法)の評価、運動療法 14. 実技：変形性股関節症術後(THA)の評価、運動療法 15. 実技：腱板断裂術後の評価、運動療法 <p>※内容に変更の場合お知らせします。</p>					
成績評価	授業態度、出席、試験を総合的にみて判定する。					
教科書	吉尾雅春、小柳磨毅著、標準理学療法学 専門分野 「骨関節理学療法学」 医学書院、ISBN 978-4-260-01641-4					
参考書	加藤浩著、Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学、メジカルビュー社 ISBN 978-4-7583-2001-6					
オフィス・アワー	授業終了後 10分					

科目名	基礎神経系理学療法学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	高見 彰淑	所属	弘前大学大学院保健学研究科			
授業目的	中枢神経疾患として代表的な脳卒中に対する理学療法の理論と実際について習得する。					
到達目標	理学療法評価と治療介入の理論と技術を理解し実施できる。 代表的な脳卒中患者の評価指標を習得する。 リスクを周知し、評価・介入時管理できる知識を学ぶ。 脳機能を理解し、損傷部位の代表的臨床所見を学ぶ。					
授業計画	<p>第1回 10/4 オリエンテーション、脳卒中障害像</p> <p>第2回 10/11 神経学的所見 1</p> <p>第3回 10/18 神経学的所見 2、併存症</p> <p>第4回 10/25 代表的評価指標の紹介</p> <p>第5回 11/1 リスク管理</p> <p>第6回 11/8 損傷部位別評価(画像)・理学療法</p> <p>第7回 11/15 予後予測</p> <p>第8回 11/22 評価手順・記録の書き方</p> <p>第9回 12/6 脳卒中姿勢バランス評価</p> <p>第10回 12/13 起居動作評価・指導</p> <p>第11回 12/20 起居動作指導</p> <p>第12回 1/10 理学療法手技の紹介</p> <p>第13回 1/17 典型的可動域練習</p> <p>第14回 1/24 運動促通方法</p> <p>第15回 1/31 歩行介入方法</p> <p>試験 2/7 予定</p> <p>*準備学習（予習・復習）等の内容 中枢神経系の構造と機能の理解が前提となる。 脳卒中や脳腫瘍等の疾患の理解が前提となる。 上記にも重なるが、神経系の理学療法評価をはじめとして、理学療法評価全般の理解や実施ができないと理学療法の治療の理解は困難なので、以上についてはしっかり復習し授業に臨むこと。</p>					
成績評価	授業態度・出席 10%，小テスト 10%，筆記試験結果 80%を総合的にみて判定。					
教科書	千田富義、高見彰淑：リハ実践テクニクー改訂3版 脳卒中、メジカルビュー社. 2017					
参考書	<p>原寛美、吉尾雅春編：脳卒中理学療法の理論と技術 メジカルビュー社</p> <p>潮見泰藏編：脳・神経リハビリテーション 羊土社.</p> <p>吉尾雅春、森岡周編：標準理学療法学ー神経理学療法学、医学書院</p> <p>石川朗、種村留美編：15 レクチャーシリーズ「臨床運動学」中山書店.</p>					
オフィス・アワー	授業終了後 60 分間.					

科目名	基礎循環代謝系 理学療法学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門 科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	高橋 裕介	所属	秋田大学医学部附属病院			
授業目的	高齢化が進む我が国において、循環器疾患は死亡及び要介護となる原因の主要なものであり、健康にとって重大な問題となっている。また動脈硬化性循環器疾患は糖尿病をはじめとする代謝系疾患とのかかわりが深く、理学療法にも共通点が多い。本講義では循環器及び代謝系理学療法に必要な基礎的な知識と技術について概説し、循環器代謝系理学療法を学ぶための礎を築くことを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な循環器疾患、代謝系疾患の病態、検査・診断、治療について理解する。 2. 各疾患の理学療法評価について理解する。 3. 各疾患の運動療法や個別の理学療法について理解する。 					
授業計画	<input type="checkbox"/> 総論 <input type="checkbox"/> 循環器の解剖学と生理学 <input type="checkbox"/> 代表的な循環器疾患の理解① <input type="checkbox"/> 代表的な循環器疾患の理解② <input type="checkbox"/> フィジカルアセスメントと運動機能検査 <input type="checkbox"/> 心電図と代表的な不整脈 <input type="checkbox"/> 循環器疾患の画像評価 <input type="checkbox"/> 運動負荷試験と運動処方(FITT) <input type="checkbox"/> 急性期の理学療法 <input type="checkbox"/> 回復期運動療法 <input type="checkbox"/> 患者指導・教育の理論と技法 <input type="checkbox"/> 代謝系の解剖学、生理学、生化学 <input type="checkbox"/> 糖尿病とその合併症 <input type="checkbox"/> 栄養と理学療法					
成績評価	出席、授業態度、小テスト・筆記試験を総合的にみて判定					
教科書	高橋哲也・神津玲・野村卓生編：内部障害理学療法学. 第2版. 医学書院. 2020.					
参考書	<p>医学情報科学研究所編：病気が見える vol.2 循環器. 第4版. メディックメディア. 2017.</p> <p>高橋哲也編：心臓血管外科リハビリテーション—ゴールド・スタンダード. ヒューマン・プレス. 2018.</p> <p>医学情報科学研究所編：病気が見える vol.3 糖尿病・代謝・内分泌. 第4版. メディックメディア. 2014.</p>					
オフィス・アワー						

科目名	物理療法学演習		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	木下 和勇	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 物理療法の意義と意味を知る。 ● 各物理療法機器の治療原理と生理学的効果を学び、適応と禁忌を理解する。 ● 各物理療法機器を実際に使用し、その治療効果を評価し、記録する。 					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 各物理療法機器の種類とその治療原理を理解し、その適応と禁忌を考慮して、適切な物理療法の選択ができる。 ● 選択した物理療法の適応と禁忌を考慮して、適切な物理療法が実践できる。 					
授業計画	<p>◇ 9つのグループに分かれて、提示された課題をもとに、各物理療法機器に関する演習を実践する。</p> <p>◇ 演習課題をもとに治療を実践し、レポート（SOAP形式で記録）を提出する。</p> <p>◇ 第13-15回目は、各グループに割り振られた物理療法機器に関してまとめ、模擬症例に対する治療の実践も含めて発表する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（物理療法学の復習・レポート（SOAPでの記録）に関して） 2. オリエンテーション（各物理療法機器の使用法および演習課題について） 3. ホットパック療法の実践 4. パラフィン浴の実践 5. 寒冷療法の実践（RICE療法） 6. 光線療法の実践（赤外線療法、レーザー療法） 7. 電気刺激療法の実践（クロナキシー値測定、TENS、HVS、マイクロカレント） 8. 電磁波療法の実践（極超短波療法、超短波療法） 9. 超音波療法の実践（キャビテーションの確認、深達性および温熱・非温熱作用の確認） 10. 水療法の実践（部分浴：過流浴） 11. 牽引療法の実践（頸椎牽引、腰椎牽引） 12. ケーススタディー（担当の治療機器に関する発表準備） 13～15 グループ発表（1コマ3グループの発表、計3回実施。） 					
成績評価	授業態度、出席、レポート、グループ発表を総合的にみて判定する。					
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学（吉田英樹：メジカルビュー社）					
参考書	EBM 物理療法原著第4版（Michelle H. Cameron：医歯薬出版株式会社） 15 レクチャーシリーズ物理療法学・演習（石川 朗：中山書店）					
オフィス・アワー	授業終了後10分。					

科目名	義肢学		対象年次	2年次	授業時間数	30																																																																				
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)																																																																				
担当教員名 (実務経験者)	佐竹 将宏	所属	秋田大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 理学療法学講座																																																																							
授業目的	切断と義肢に関する基本的な知識を修得し、義肢のチェックアウトや切断のリハビリテーションを実施できるようになる。																																																																									
到達目標	1) 切断についての基本的な事項を説明できる。 2) 切断者の評価を説明し、実施できる。 3) 義足の種類や構造を理解し、義足を構成する各 부품の機能について説明できる。 4) 義足についての各アライメントを理解し、説明できる。 5) 切断のリハビリテーションについて説明し、実施できる。 6) 義手の基本的な構造や機能を説明できる。																																																																									
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>事前学習 (授業時間外の学習)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10/2</td> <td>1</td> <td>切断の基礎知識 (疫学、切断術など)</td> <td>・ Lecture 1 を予習</td> </tr> <tr> <td>※</td> <td>2</td> <td>VISUALERN→「リハビリテーション医学第2版」→「Vol4.切断と義肢」の視聴</td> <td>・ 視聴レポートの提出 (※切: 第4回前)</td> </tr> <tr> <td>10/9</td> <td>3</td> <td>切断者の評価 (身体測定と幻肢・幻肢痛)</td> <td>・ Lecture 8 を予習</td> </tr> <tr> <td>10/16</td> <td>4</td> <td>義足の構造と部品 (義足の種類および足・膝・股継手の種類と特徴)</td> <td>・ Lecture 1 と 3・6・7 を予習</td> </tr> <tr> <td>10/23</td> <td>5</td> <td>大腿義足 (大腿義足の基本構造と大腿ソケットの種類と特徴)</td> <td>・ Lecture 3 を予習</td> </tr> <tr> <td>10/30</td> <td>6</td> <td>大腿義足のアライメント (ベンチ・スタティック・ダイナミックの各アライメント)</td> <td>・ Lecture 4 を予習</td> </tr> <tr> <td>11/6</td> <td>7</td> <td>下腿義足 (下腿義足の構造および下腿ソケットの種類と特徴) 下腿義足のアライメント (ベンチ・スタティック・ダイナミックの各アライメント)</td> <td>・ Lecture 5・6 を予習</td> </tr> <tr> <td>11/13</td> <td>8</td> <td><中間テスト></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11/20</td> <td>9</td> <td>股義足・膝義足・サイム義足・足部義足</td> <td>・ Lecture 3・4・5・6・7 を予習</td> </tr> <tr> <td>12/4</td> <td>10</td> <td>上肢切断 (評価と治療) と義手</td> <td>・ Lecture 12・13 を予習</td> </tr> <tr> <td>12/11</td> <td>11</td> <td>切断のリハビリテーション</td> <td>・ Lecture 2・9~11 を予習</td> </tr> <tr> <td>12/18</td> <td>12</td> <td>(実習 1) 大腿・下腿義足のアライメント</td> <td>・ 本授業第 6・7 回目を復習</td> </tr> <tr> <td>12/18</td> <td>13</td> <td>(実習 2) 義足歩行前練習と義足歩行体験</td> <td>・ 本授業第 11 回目を復習</td> </tr> <tr> <td>1/8</td> <td>14</td> <td>義肢学まとめ(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1/15</td> <td>15</td> <td>義肢学まとめ(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1/22</td> <td>16</td> <td>試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						日程	回	授業内容	事前学習 (授業時間外の学習)	10/2	1	切断の基礎知識 (疫学、切断術など)	・ Lecture 1 を予習	※	2	VISUALERN→「リハビリテーション医学第2版」→「Vol4.切断と義肢」の視聴	・ 視聴レポートの提出 (※切: 第4回前)	10/9	3	切断者の評価 (身体測定と幻肢・幻肢痛)	・ Lecture 8 を予習	10/16	4	義足の構造と部品 (義足の種類および足・膝・股継手の種類と特徴)	・ Lecture 1 と 3・6・7 を予習	10/23	5	大腿義足 (大腿義足の基本構造と大腿ソケットの種類と特徴)	・ Lecture 3 を予習	10/30	6	大腿義足のアライメント (ベンチ・スタティック・ダイナミックの各アライメント)	・ Lecture 4 を予習	11/6	7	下腿義足 (下腿義足の構造および下腿ソケットの種類と特徴) 下腿義足のアライメント (ベンチ・スタティック・ダイナミックの各アライメント)	・ Lecture 5・6 を予習	11/13	8	<中間テスト>		11/20	9	股義足・膝義足・サイム義足・足部義足	・ Lecture 3・4・5・6・7 を予習	12/4	10	上肢切断 (評価と治療) と義手	・ Lecture 12・13 を予習	12/11	11	切断のリハビリテーション	・ Lecture 2・9~11 を予習	12/18	12	(実習 1) 大腿・下腿義足のアライメント	・ 本授業第 6・7 回目を復習	12/18	13	(実習 2) 義足歩行前練習と義足歩行体験	・ 本授業第 11 回目を復習	1/8	14	義肢学まとめ(1)		1/15	15	義肢学まとめ(2)		1/22	16	試験	
	日程	回	授業内容	事前学習 (授業時間外の学習)																																																																						
	10/2	1	切断の基礎知識 (疫学、切断術など)	・ Lecture 1 を予習																																																																						
	※	2	VISUALERN→「リハビリテーション医学第2版」→「Vol4.切断と義肢」の視聴	・ 視聴レポートの提出 (※切: 第4回前)																																																																						
	10/9	3	切断者の評価 (身体測定と幻肢・幻肢痛)	・ Lecture 8 を予習																																																																						
	10/16	4	義足の構造と部品 (義足の種類および足・膝・股継手の種類と特徴)	・ Lecture 1 と 3・6・7 を予習																																																																						
	10/23	5	大腿義足 (大腿義足の基本構造と大腿ソケットの種類と特徴)	・ Lecture 3 を予習																																																																						
	10/30	6	大腿義足のアライメント (ベンチ・スタティック・ダイナミックの各アライメント)	・ Lecture 4 を予習																																																																						
	11/6	7	下腿義足 (下腿義足の構造および下腿ソケットの種類と特徴) 下腿義足のアライメント (ベンチ・スタティック・ダイナミックの各アライメント)	・ Lecture 5・6 を予習																																																																						
	11/13	8	<中間テスト>																																																																							
	11/20	9	股義足・膝義足・サイム義足・足部義足	・ Lecture 3・4・5・6・7 を予習																																																																						
	12/4	10	上肢切断 (評価と治療) と義手	・ Lecture 12・13 を予習																																																																						
	12/11	11	切断のリハビリテーション	・ Lecture 2・9~11 を予習																																																																						
	12/18	12	(実習 1) 大腿・下腿義足のアライメント	・ 本授業第 6・7 回目を復習																																																																						
	12/18	13	(実習 2) 義足歩行前練習と義足歩行体験	・ 本授業第 11 回目を復習																																																																						
	1/8	14	義肢学まとめ(1)																																																																							
1/15	15	義肢学まとめ(2)																																																																								
1/22	16	試験																																																																								
成績評価	小テスト, レポート, 筆記試験および授業態度等を総合的にみて判定.																																																																									
教科書	石川朗総編集・永富文子責任編集「15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 義肢学 第2版」中山書店																																																																									
参考書	日本整形外科学会ほか監修 「義肢装具のチェックポイント第9版」 医学書院, 澤村誠志 「切断と義肢 第2版」 医歯薬出版, 他																																																																									
オフィス・アワー	授業終了後 10 分間.																																																																									

科目名	在宅理学療法学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	ジョーンズ佳子	所属	秋田リハビリテーション学院			
	田安 義昌	所属	中通総合病院			
	石川 一美	所属	中通リハビリテーション病院			
	板垣 美紀	所属	中通リハビリテーション病院			
授業目的	急性期および回復期リハビリテーションにおいて理学療法を実施した後、居住する施設や自宅において、在宅生活（生活期）に関わる理学療法士が果たす役割について学習する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 在宅生活を支えるための理学療法士の役割について学ぶ。 地域における理学療法について知る。 病院で理学療法を受け、退院した方々の生活状況を理解する。 地域における社会資源および制度について理解する。 地域医療・保健・複視に係わる専門職について理解する。 訪問リハビリテーション（理学療法）の実態とその基本的技術および方法について学ぶ。 回復期から在宅での各期・各施設の理学療法の目的を理解する。 各期及び各施設の特性と、利用者への理学療法内容について理解する。 事例を通して個々の利用者特有の問題に対する理学療法を理解し、基本的な知識および技術を習得する。 					
授業計画	1. 訪問理学療法（講義）【ジョーンズ佳子】 ・訪問リハビリテーション（理学療法）の役割 ・訪問リハビリテーションの担うべき役割		9. 回復期理学療法1【田安義昌】			
	2. 訪問理学療法（講義）【ジョーンズ佳子】 ・訪問リハビリテーションの現状・特徴・内容・適応		10. 回復期理学療法2【田安義昌】			
	3. 訪問理学療法3（講義と演習）【ジョーンズ佳子】 ・訪問リハビリテーション（理学療法）の効果的実施に必要な視点 ・指導とプロセスの工夫 ・プログラムの考え方（介護保険の要介護度別等）		11. 回復期理学療法3【田安義昌】			
	4. 訪問理学療法4（講義と演習）【ジョーンズ佳子】 ・活動、参加に向けた働きかけ ・インシデント、アクシデントについて		12. 通所理学療法1【石川一美】			
	5. 訪問理学療法5（講義）【ジョーンズ佳子】 ・訪問リハビリテーション（理学療法）と地域連携 ・地域の他のサービスとの連携		13. 通所理学療法2【石川一美】			
	6. 訪問理学療法6（講義）【ジョーンズ佳子】 ・社会資源との連携 ・地域包括ケアシステム（地域づくり）		14. 訪問理学療法1【板垣美紀】			
	7. 訪問理学療法7（講義）【ジョーンズ佳子】 ・リハビリテーションマネジメントについて ・リハビリテーションマネジメントの現状と課題		15. 訪問理学療法2【板垣美紀】			
	8. 訪問理学療法8（講義）【ジョーンズ佳子】 ・リハビリテーションマネジメント実施のポイント		16. 訪問理学療法3【板垣美紀】			
成績評価	出席、授業態度、小レポート等を総合的にみて判定。					
教科書	特に指定しない。					
参考書	講義の時、随時提示する。					
オフィス・アワー	(授業終了後10分)					

科目名			対象年次	2年次	授業時間数	40
専門科目	地域リハビリテーション実習		開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	全学内教員	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	地域包括ケアシステムの強化に資する高度医療人材を育成することが目的であり、地域に暮らす高齢者および障がい者を対象に、地域における理学療法士の役割を理解し、生活を支援するために必要な「知識」、「技術」、「多職種との連携」について学ぶ。					
到達目標	地域理学療法場面での経験を通して、地域包括ケアシステム（特に、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）における理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解することができる。					
授業計画	<p>本実習は、事前学習、実習、報告会を1週間、1単位として計画される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習初日にオリエンテーションを行う 例) 地域包括ケアシステムについて、生活期での理学療法士の役割、医療と介護の違い、サービス提供の流れ、一般的な1日の業務の流れ、実習中の注意事項、など ・訪問リハビリテーション見学時の工夫・配慮点 対象者へのサービス提供を中断して実習生を指導することはできないため、実習生には対象者への説明内容や実施内容について記録を取らせ、次対象者への移動時間を利用し記録した内容を報告させると、より理解が深まる。 サービス提供以外の業務として、「サービス提供前の訪問」「アセスメント作業」「プランニング作業」「サービス担当者会議への参加」「他事業所との情報共有」「地域支援関連事業」等も可能であれば学生に体験させる。 ・通所リハビリテーション見学時の工夫・配慮点 午前のまとめの時間や夕方のフィードバックの時間に、記録した体験症例リストに基づき実習生から見学内容を報告させ、実施内容の目的や意味が理解できているかを確認する。 「カンファレンス」「ケアプラン作成」「対象者への訪問指導」地域支援関連事業」等も可能であれば学生に体験させる。 					
成績評価	提出物、指導者評価、報告会出席、報告内容を総合的に評価する					
教科書						
参考書						
オフィス・アワー						

科目名			対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目	地域リハビリテーション		開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	ジョーンズ佳子	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	かつての自給自足が成り立っていた農村社会では、地域における相互扶助やコミュニティが機能していた。しかし、少子高齢化、人口減少社会など地域の衰退による課題を抱えた迎えた現在、その課題解決には、「地域社会への住民参画」と「地方行政への住民参画」が不可欠である。地域で住民が幸せに暮らし続け、障害の有無に関わらず豊かな生活を構築していくために地域リハビリテーションの歴史的背景を紐解きながら新たな価値観に基づき、一住民として理学療法士として双方の立場から基本的姿勢・態度を習得する。					
到達目標	1. 地域リハビリテーションの概念を理解する。 2. 地域リハビリテーションの概要を理解する。 3. 地域リハビリテーションに関わる理学療法士の役割を理解する。					
授業計画	<p>第1回 地域リハビリテーションとは</p> <p>①地域リハビリテーションとは何か</p> <p>②地域リハビリテーションの定義</p> <p>③一般医学の関心とリハビリテーション医療の関心のベクトルの違い</p> <p>④在宅リハビリテーションと病院（施設）内リハビリテーションの考え方の整理</p> <p>第2回 地域リハビリテーションに関わる制度の変遷</p> <p>第3回 介護保険法と介護予防、地域包括支援センター等</p> <p>第4回 地域包括ケアシステム、地域支援事業（介護予防、健康増進等）①</p> <p>第5回 地域包括ケアシステム、地域支援事業（介護予防、健康増進等）②</p> <p>第6回 多職種連携、関連職種</p> <p>第7回 各種サービス 入所施設、通所施設</p> <p>第8回 各種サービス 訪問等</p> <p>第9回 生活の質の向上に向けて スポーツ、活動、健康増進、自主グループ等</p> <p>第10回 社会資源、地域の各種サービス・施設 ※レポート課題（グループワーク）</p> <p>第11回 疾患別（脳血管疾患・人工骨頭置換術・慢性閉塞性肺疾患・終末期）発表</p> <p>第12回 疾患別（筋萎縮性側索硬化症・パーキンソン病・認知症・脊髄損傷）発表</p> <p>第13回 地域リハビリテーションに関わること、リスク管理等①</p> <p>第14回 地域リハビリテーションに関わること、リスク管理等②</p> <p>第15回 総括（まとめと復習）</p>					
成績評価	授業態度、小テスト、課題レポート、筆記試験等を総合的にみて判定します。					
教科書	浅川育世：ビジュアルレクチャー 地域理学療法学 第3版. 医歯薬出版, 2019.					
参考書	大田仁史：地域リハビリテーション原論 Ver 6. 医歯薬出版, 2014.					
オフィス・アワー	月曜日、水曜日～金曜日のお昼休み時間内いつでも。					

3年次 基礎科目

科目名	応用統計学		対象年次	3年次	授業時間数	30
基礎科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	2 (必)
担当教員名	五十嵐 隆治	所属	秋田大学名誉教授			
授業目的	1) 実験、調査等で得られる数値データの平均や分散などの統計量の意味を学ぶ。 2) 確率変数と統計量に関し学ぶ。 3) 統計量の分布と分布型に関し学ぶ。 4) 統計量の推定と検定に関し学ぶ。					
到達目標	1) 実験・調査等から得られるデータの統計的な処理ができる。 2) 確率変数と統計量の関係を説明できる。 3) 確率分布から平均や分散などのモーメントを求めることができる。 4) 統計量を用いた推定と検定を実施できる。					
授業計画	1. 統計とデータ ・実験や調査で得られるデータの意味を把握する。 2. 平均、標準偏差、モーメント、変量・統計量 ・データの整理により平均、分散（標準偏差）を求める方法を習得する。 ・平均、分散を一般化した「モーメント」を習得する。 3. 相関 ・統計的データに関する正、逆相関の意味を把握する。 4. 確率変数と確率分布-1 離散確率変数と離散確率分布 ・離散分布-ベルヌーイ試行から2項分布、ポアソン分布へ 5. 確率変数と確率分布-2 連続確率変数と連続確率分布 ・連続確率分布の代表的例として正規分布を学ぶ。 6. 確率変数と確率分布-3 確率分布グラフの直線化と正規確率紙 ・現場でしばしばもちいられる正規確率紙の取扱い方を学ぶ。 7. 変量に関する演算子と標本平均量-1 ・確率分布の意味を習得し、演算子を用いた期待値と分散、さらに3次、4次のモーメントと分布の形状のとらえ方に関し学ぶ。 8. 変量に関する演算子と標本平均量-2 ・標本平均量の導入と演算子を用いた標本平均量の意味を把握する。 ・標本平均量に関する演習を実施する。 9. 回帰と回帰直線および最小2乗法-1 ・最小2乗法の意味を習得する。 10. 回帰と回帰直線および最小2乗法-2 ・回帰直線に関する演習を通して回帰係数の求め方を習得する。 11. 確率と確率変数-1 ・集合と確率、乱数とベルヌーイ試行 12. 確率と確率変数-2 ・一様乱数の応用と演習、モンテカルロ法の紹介 13. 推定と検定-1 推定 ・得られたデータを推定と検定により評価する方法に関し、これ以降の授業で学ぶ。 14. 推定と検定-2 仮説検定 15. 推定と検定-3 適合度の検定と母平均の差の検定 注) マイクロソフトオフィスのエクセルの統計機能を最大限に活用しつつ進める。					
成績評価	授業中に課す随時のレポートの結果により判定する。					
教科書	大橋常道、谷口哲也、山下登茂紀：初学者にやさしい統計学(コロナ社)					
参考書	特に定めない。					
オフィス・アワー	授業終了後30分程度をオフィスアワーとする。					

3年次 専門基礎科目

科目名	救急医学		対象年次	3年次	授業時間数	15
専門基礎科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	中永 士師明	所属	秋田大学大学院 医学系研究科			
	奥山 学	所属	秋田大学大学院 医学系研究科			
授業目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急・災害医療供給体制を理解する。 2. 救急患者の初期治療について理解する。 3. 重症患者の病態と治療について理解する。 					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院前救護・災害医療体制について説明できる。 2. 標準的な心肺蘇生法について説明できる。 					
授業計画	<p>第1回～第8回配布資料をもとに予習・復習をすること。</p> <p>第1回 救急医学概論 (中永) 11/18 (月) 3限 ; 13:00～14:30 第2回 心肺蘇生 (1) 日赤救急講習会 読み替え 第3回 心肺蘇生 (2) 日赤救急講習会 読み替え</p> <p>第4回 外傷 12/2 (月) 3限 ; 13:00～14:30(講義担当者:奥山) 第5回 災害医療 12/2 (月) 4限 ; 14:40～16:10(講義担当者:奥山) 第6回 集中治療 (1) 12/9 (月) 3限 ; 13:00～14:30(講義担当者:奥山) 第7回 集中治療 (2) 12/9 (月) 4限 ; 14:40～16:10(講義担当者:奥山) 第8回 試験 1/6(月)3限 (予定)</p>					
成績評価	形成試験					
教科書	BLS プロバイダーマニュアル AHA ガイドライン 2020 準拠 American Heart Association(AHA:アメリカ心臓協会) (著)シナジー. 2021 【ISBN : 978-4916166678】					
参考書	必要に応じて授業の際に関連図書を紹介する。					
オフィス・アワー	授業終了後 10 分					

科目名	看護学概論		対象年次	3年次	授業時間数	15
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	工藤 由紀子 長谷部 真木子 杉山 令子	所属	秋田大学 大学院 医学系研究科			
授業目的	チーム医療において協働する看護職の発展の社会的役割、看護実践の概要について理解を深め、将来の医療従事者としての自己の役割や課題を考える。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の基本概念である「看護」「人間」「健康」「環境」の概要をのべることができる 2. 看護実践の基本的な技術の要素をのべることができる 3. 看護実践における倫理的行動の原則をのべることができる 4. チーム医療における医療従事者として自己の課題を明確にすることができる 					
授業計画	<p>1回目：看護とは（杉山令子） 看護とは何かについて、看護理論と看護モデル、看護理論に影響を与えた諸理論から学ぶ。</p> <p>2回目：健康と看護（杉山令子） 健康の概念と看護の目標について学ぶ。</p> <p>3回目：環境と看護（杉山令子） 看護における環境調整について学ぶ。 (レポート：20点 看護学の基本概念である「看護」「人間」「健康」「環境」について学んだことを、理学療法の視点からの考察も交えて書きなさい)</p> <p>4回目：看護実践の基本的要素（長谷部真木子） 看護実践における基本的な要素である安全・安楽・効率性の原則と実践への適用を学ぶ。</p> <p>5回目：看護実践の基本的要素（長谷部真木子） 看護実践における基本的な要素である安全・安楽・効率性の原則と実践への適用を学ぶ。</p> <p>6回目：看護技術における安全・安楽（長谷部真木子・工藤由紀子） 演習を通して看護技術における安全・安楽・効率性について学ぶ。 演習内容：衛生的手洗い・寝衣交換 (レポート：20点「演習を通して学んだことを考察しなさい」)</p> <p>7回目：看護と倫理（工藤由紀子） 医療・看護においてなぜ倫理的行動が求められるか、看護職の専門的実践上の判断となる倫理綱領を学び、医療職として必要な倫理的態度の原則を考察する。</p> <p>8回目：看護と倫理（工藤由紀子） 医療・看護の現場で起こりうる倫理的な問題にはどのようなことがあるか、倫理的行動として求められることは何かを考察する。 (レポート：20点 「事例発表のレポート」をその場で提出)</p> <p>最終レポート：30点「チーム医療の中で理学療法の専門職として働く自己の役割と今後の課題を考察しなさい」</p>					
成績評価	受講態度 10%、レポート内容 90%で評価する。					
教科書	なし。					
参考書	手島恵：これからの倫理と看護。日本看護協会出版会，2021。					
オフィス・アワー	授業後の1時間程度					

科目名	作業療法学概論		対象年次	3年次	授業時間数	15
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名	石川 隆志	所属	(有)ケアサプライ なかみちケアセンター			
授業目的	リハビリテーション関連職種である作業療法士および作業療法学の基礎的知識を学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法の定義、対象、役割、意義を理解する。 2. 作業療法の歴史を理解する。 3. 包括的な作業療法の流れを理解する。 					
授業計画	<p>第1回 作業療法とは</p> <p>第2回 作業療法の対象 (1)</p> <p>第3回 作業療法の対象(2)</p> <p>第4回 作業療法の歴史</p> <p>第5回 作業療法の実際 (1)</p> <p>第6回 作業療法の実際 (2)</p> <p>第7回 作業することの意義 (1)</p> <p>第8回 作業することの意義 (2)</p>					
成績評価	課題および期末テストに基づき総合的に評価する。					
教科書	なし。					
参考書	その都度紹介する。					
オフィス・アワー						

科目名	公衆衛生学		対象年次	3年次	授業時間数	15
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名 (実務経験者)	菊地和人	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	集団の健康を評価し実現する目的で行なわれる公衆衛生学の概念と基礎知識の中で特に理学療法士との関わりが深い事項についてその概要を学ぶ。					
到達目標	公衆衛生学で用いられる専門用語の定義および概念を正しく理解できる。 公衆衛生の視点で、わが国の疾病と医療状況を理解する。 公衆衛生と理学療法士の関わりについて理解する。					
授業計画	<input type="checkbox"/> 公衆衛生と健康の概念 <input type="checkbox"/> 疫学 <input type="checkbox"/> 保健統計 <input type="checkbox"/> 社会保障と医療経済 <input type="checkbox"/> 成人保健と健康増進 <input type="checkbox"/> 高齢者保健 <input type="checkbox"/> 産業保健					
成績評価	出席、期末試験で判定する。					
教科書	特に指定なし。					
参考書	その都度照会する。					
オフィス・アワー	教員室在室時					

科目名			対象年次	3年次	授業時間数	30
専門基礎科目	医療福祉関連職種連携論		開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	長岡 真希子	所属	秋田大学医学部保健学科			
	成田 和幸	所属	中通リハビリテーション病院			
	金子 博啓	所属	森岳温泉病院			
	深瀬 貴史	所属	まっこいしや高橋醫院			
	川野辺 穰	所属	秋田県立循環器・脳脊髄センター			
	三浦 さおり	所属	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター			
	吉村 周一郎	所属	医療法人惇慧会 外旭川病院			
授業目的	他職種の業務内容と役割を理解し、専門性に応じた連携のあり方を実際の症例の特性を含め学習する事を目的とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種の業務内容と役割を理解する。 ・患者さんが在宅や地域で社会生活を送るうえで、理学療法士と他職種と連携する内容(各情報の必要性と意義)を理解する。 ・疾患特性及び患者背景により異なる連携特徴を具体例から把握する。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健師および看護師とは (Ns) ・看護師と理学療法士との連携について 2. メディカルソーシャルワーカー (MSW) とは 3. メディカルソーシャルワーカーと理学療法士との連携について (症例検討を含む) 4. 言語聴覚士 (ST) とは 5. 言語聴覚士と理学療法士との連携について 6. 作業療法士 (OT) とは 7. 作業療法士と理学療法士との連携について 8. 公認心理師・臨床心理士 (CP) とは 9. 心理職と理学療法士との連携について (症例検討を含む) 10. ケアマネージャーの業務内容を理解 11. ケアマネージャーと理学療法士との連携について (症例検討を含む) 12. 理学療法士と関連職種との連携のあり方について 13. 疾患特性に応じた連携と情報共有 14. グループワークと発表 1 15. グループワークと発表 2 <p>※講義時間の変更など余儀なく生じることがあり、その場合には補講の日時について掲示及び連絡しますので注意してください。</p>					
成績評価	出席、授業態度、小レポート等を総合的にみて判定。					
教科書	特に指定なし。					
参考書	その都度紹介する。					
オフィス・アワー	(授業終了後10分)					

科目名	福祉工学		対象年次	3年次	授業時間数	15
専門基礎科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名	巖見 武裕	所属	秋田大学 大学院理工学研究科			
授業目的	<p>身体運動の計測は、身体各部の相対位置と角度に注目する運動学的計測、その運動の原因あるいは結果としての力の作用に注目する力学的計測、運動および力の統合と維持に注目する生理学的計測の3つに大別される。</p> <p>本講義では、身体運動の運動学と力学の解析基礎を学び、モーションキャプチャ装置と床反力計による計測データを利用して運動解析を実践する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 人間工学（福祉工学）を説明できる 2) 身体運動計測とその評価方法を理解し、力学的意味を説明できる 3) チームで課題に取り組みことができる 					
授業計画	<p>第1回：概要</p> <p>第2回：重心</p> <p>第3回：床反力</p> <p>第4回：関節モーメント</p> <p>第5回：計測データに基づく運動解析Ⅰ</p> <p>第6回：計測データに基づく運動解析Ⅱ</p> <p>第7回：計測データに基づく運動解析Ⅲ</p> <p>第8回：プレゼンテーション</p>					
成績評価	課題発表（40%）、レポート（60%）					
教科書	なし。適宜資料を配布する					
参考書	<p>臨床歩行計測入門. 江原義弘 他著. 医歯薬出版株式会社</p> <p>関節モーメントによる歩行分析. 江原義弘 他著. 医歯薬出版株式会社</p>					
オフィス・アワー						

3年次 専門科目

科目名	臨床運動学		対象年次	3年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	木元 裕介	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	日々の臨床では、対象者の動作が行える条件を推測し必要なプログラムの立案、補助具の利用、代替手段の提案、他の動作パターンの指導を行っている。本講義では、生体力学および運動学的に基本動作のメカニズムを理解し、さらに実際の症例の動作を観察し、動作分析の方法について学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各基本動作における力学的および運動学的なメカニズムを理解する。 2. 症例の動作と理念型を比較し、逸脱所見から機能障害を推測するという動作分析の流れについて理解する。 3. 基本動作の誘導方法について理解する。 					
授業計画	<input type="checkbox"/> 序論 <ol style="list-style-type: none"> ①基礎知識、静的姿勢観察の演習、起き上がり動作 GW（動作は個人差があることを知る姿勢動作の戦略の違い） <input type="checkbox"/> 動作観察と分析の違いとその流れ <ol style="list-style-type: none"> ②寝返り動作のパターンを考察する GW、理念的な寝返り動作、動作の練習 <input type="checkbox"/> 寝返り動作の分析 <ol style="list-style-type: none"> ③座位姿勢の観察 GW、座位姿勢のチェックポイント、座位練習の演習 <input type="checkbox"/> 起き上がり動作の分析 <ol style="list-style-type: none"> ④起き上がり動作 GW、理念的な起き上がり動作、動作の練習 <input type="checkbox"/> 起立・着座動作の分析 <ol style="list-style-type: none"> ⑤立位姿勢の観察 GW、立位姿勢のチェックポイント、立ち上がり動作のチェックポイント、理念的な立ち上がりの演習、起立練習の演習 <input type="checkbox"/> 歩行動作の分析 <ol style="list-style-type: none"> ⑥歩行とは？座学、歩行分析のチェックポイント、歩行分析 GW ⑦ 歩分析続き、異常な歩行パターン（片麻痺と膝 OA を想定）の分析 GW ⑧まとめと筆記試験 					
成績評価	出席、毎回の復習用課題、振り返りシート、動作分析レポート、最終レポートから総合的に判定					
教科書	石井慎一郎編：動作分析 臨床活用講座. メジカルビュー社. 2013.					
参考書	隈元庸夫著：症例動作分析. ヒューマン・プレス. 2017.					
オフィス・アワー	教員室在室時					

科目名			対象年次	3年次	授業時間数	30
専門科目 (実務経験者)	理学療法学スキルIII-1		開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	学内全教員	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	理学療法学スキルは1～3年生の3学年とアドバイザー教員との合同による協働授業・演習であり、理学療法士として必要な職業人格を育むために科目内の課題学習をとおり、接遇、社会人基礎能力、課題解決能力、主体的協働能力の育成・発達を目的とする。					
到達目標	授業課題への取り組み（課題・調査・発表の実施と運営、リフレクションによる課題省察）を通して小集団における役割、責任を意識し、自ら主体的に課題到達のために考え、解決・遂行できる。必要に応じて積極的にコミュニケーションをとり円滑な課題遂行に努めることができる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、アドバイザーグループ発表（グループ内自己紹介など）& 構成的グループエンカウンター1 2. 構成的グループエンカウンター2 3. 構成的グループエンカウンター3 4. オープンキャンパスと公開講座のオリエンテーション 5. オープンキャンパスと公開講座の準備運営1 6. 多職種連携教育①（他校合同授業） 7. 多職種連携教育②（他校合同授業） 8. 『こころの健康について』＜学外講師招聘＞ 9. 検査実技テストを3年生に行い協同学習① (①ROM 上肢②下肢③感覚④反射⑤四肢計測) 10. 検査実技テストを3年生に行い協同学習② 11. 検査実技テストを3年生に行い協同学習③ 12～15. ※4回分はオープンキャンパスに振替。 					
成績評価	授業態度、シャトルカード提出、課題発表等の結果を総合的にみて判定。					
教科書・参考書	特になし					
オフィス・アワー	授業終了後					

(エンカウンターには“出会い”という意味があり、課題をとおり、“気づき”に出会う事を目的としています。今まで気づかなかった事から学び、将来に生かす。どんな出会いがあるのでしょうか！?)

(先輩たちと協力し合って、公開講座とOCを運営します。協力し合うことで、小集団における役割、責任を意識し、自ら主体的に課題到達のために考え、解決・遂行することを体験して学ぶことを目的としています。)

理学療法検査は理学療法士として一生使う技術です。正しい方法で、正確に行い、再現性・信頼性伴うやり方を修得する必要があります。健康な学生同士では測りやすいのですが、患者さん相手ではそうはいかないことが多いので、臨機応変に実施できることも求められます。評価学の実技テストに合格するためにも、すでに合格している先輩に被験者として協力を仰ぎ、実技に関して必要に応じて指摘を受けて技術と知識を研鑽しよう。アドバイザー教員にも観てもらい適切かつ迅速に習得できているか判断を仰ごう。できているという思い込みはOSCE失敗のもと。

科目名	理学療法学スキルⅢ-2		対象年次	3年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	全学内教員	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	理学療法学スキルは1～3年生の3学年とアドバイザー教員との合同による協働授業・演習であり、理学療法士として必要な職業人格を育むために科目内の課題学習をとおり、接遇、社会人基礎能力、課題解決能力、主体的協働能力の育成・発達を目的とする。					
到達目標	授業課題への取り組み（課題・調査・発表の実施と運営、リフレクションによる課題省察）を通して小集団における役割、責任を意識し、自ら主体的に課題到達のために考え、解決・遂行できる。必要に応じて積極的にコミュニケーションをとり円滑な課題遂行に努めることができる。					
授業計画	1 (10/3) 口頭試問 2. (10/10) OSCE オリエンテーション 3～6. (10/17～11/7) OSCE 練習①～④ 7～8. (11/14 1-2 限) OSCE(客観的臨床能力試験) 9～10. (12/5～12/12) Pre-OSCE の説明と練習①② 11. (12/17) 講話予定<外部講師> 12～13. (1/9～1/16) Pre-OSCE の練習③④ 14～15. (1/23 1-2 限) Pre-OSCE					
成績評価	✓ 本授業の合格基準： ・口頭試問（認知領域）で6割以上を取ること。 ・OSCE で情意領域、精神運動領域それぞれ6割以上を取ること。 ※よって認知領域、情意領域、精神運動領域どれか1つでも6割に満たない者は本授業の単位を認定されず、評価実習に行くことはできない。					
教科書・参考書	特になし					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名	理学療法教育学		対象年次	3年次	授業時間数	15
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	ジョーンズ佳子	所属	秋田リハビリテーション学院			
	福原隆志	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	基本的な理学療法を修得する際に、理学療法教育について理解を深める事は教育効果を高める上で重要である。理学療法教育が実践される場合、教育には何らかの形があり、形を支える論理をもっている。理学療法士教育の発展性を高めるために実践の形を取り出し、論理を確かめ、その根拠を明らかにすることを目標とする。					
到達目標	①理学療法領域に必要な教育原理，倫理について簡単に説明できる。 ②患者教育に必要なコミュニケーション能力の自己課題を説明できる。 ③理学療法領域に応用可能な教育手技を説明できる。 ④領域別の教育方法について理解し説明できる。 ⑤臨床実習の目的，卒業教育，生涯教育について述べる事ができる。					
授業計画	1. 理学療法教育の歴史，教育原理，倫理教育 2. 理学療法における患者教育とコミュニケーション 3. 理学療法領域に応用可能な教育手技1 4. 理学療法領域に応用可能な教育手技2 5. 教育方法1：認知領域の教育方法 6. 教育方法2：精神運動領域の教育方法 7. 教育方法3：情意領域の教育方法 8. 教育方法の課題，臨床実習教育					
成績評価	出席状況、授業態度、レポート、授業内での課題で成績評価。					
教科書・参考書	必要に応じて適宜参考資料を配布する。					
オフィス・アワー	授業終了後 10分					

回数	月日	授業内容	教員氏名	備考
1	10/1	<講義>歴史，教育原理，倫理教育，理学療法教育の問題 <演習>臨床実習評価表による自己評価と課題探索「トラストワーク」		講義・演習
2	10/8	<講義>理学療法における教育とコミュニケーション コミュニケーションとは？患者教育に求められるものは？ <演習>理学療法士学生の現在と未来「人生を意識する」		講義・演習
3	10/22	<講義>理学療法領域に応用可能な教育技法1 教育的関係：ビッグマウ効果，ハー効果 <演習>傾聴，「…してもらえると喜び」，人生目標		講義・演習
4	10/29	<講義>理学療法領域に応用可能な教育技法2 治療的關係：コーチング <演習>コーチング		講義・演習
5	11/5	<講義>教育方法1：認知領域の教育方法 <演習>エゴグラム		講義・演習
6	11/12	<講義>教育方法2：精神運動領域の教育方法 <演習>Emotional Quotient 感情指数		講義・演習
7	11/19	<講義>教育方法3：情意領域の教育方法 <演習>自己開示と共感的理解，シェアリング，そして……		講義・演習
8	未定	<講義>臨床実習教育，治療的關係 <演習>人の和，ブリッジ		講義・演習

科目名	理学療法研究法		対象年次	3年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	岩倉 正浩	所属	秋田大学大学院医学系研究科 衛生学・公衆衛生学講座			
	木元 裕介	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	研究で必要とされる「ものの見方」や「ルール」について知る。また、一般的な理学療法分野での研究の実例を見ながら、学会発表や論文執筆についての基礎を学ぶ。理学療法は基礎的及び臨床的研究なくして科学的発展も社会的信頼も得ることができない。基本的な研究の捉え方と生涯、理学療法領域において研究する必要性、研究と臨床とのつながりを知る。					
到達目標	研究のデザインの基本を理解し、自分の疑問を研究デザインに落とし込む方法を理解できる。必要な情報を効率よく収集・管理し、内容を読み込む方法について知識を得て、それを実践できる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の意義と実践：臨床と研究のつながり【岩倉】 2. 学会発表・論文執筆することの意味と実際【岩倉】 3. 日々の疑問と研究デザイン【岩倉】 4. 情報検索のいろは：医中誌とPubMedを使ってみよう【岩倉】 5. 文献管理の方法：文献管理ソフトを使ってみよう【岩倉】 6. 文献を読む：論文の基本構造を理解し翻訳技術をうまく使おう【岩倉】 7. 研究倫理と統計について【岩倉】 8. 症例報告の書き方と倫理面の配慮【岩倉】 					
学習アドバイス	授業時に紹介する本等を読むことで、より理解を深めてほしい。					
成績評価	授業態度、課題等を総合的にみて判定。					
教科書	臨床研究 first stage ; 網本和、高倉保幸 医学書院					
参考書	はじめての研究法 ; 千住秀明、他 SHINRYO BUNKO					
オフィス・アワー	授業終了後 10 分					

科目名	理学療法評価学		対象年次	3年次	授業時間数	30
専門科目	(画像評価)		開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	皆方 伸	所属	秋田大学医学部附属病院			
授業目的	急性期における神経系理学療法について学習する。特に、画像診断や各種検査情報を踏まえ、Bedside での理学療法からリハ室での理学療法など、急性期特有の配慮事項、リスク管理にいたるまで、主に急性期脳血管疾患への理学療法について修得する。					
到達目標	脳血管疾患の基本的な脳画像の見方を説明できる。 脳画像などの臨床所見を活用し、理学療法評価・介入の展開を説明できる。 脳血管障害介入時のリスク管理を理解する。					
授業計画	第1回：オリエンテーション、脳卒中疾患総論。 第2回：脳画像の見方① 第3回：脳画像の見方② 第4回：リハビリテーション開始基準、中止基準 第5回：脳血管障害における医学的管理① 第6回：脳血管障害における医学的管理② 第7回：脳血管障害のリハビリテーションの流れ 第8回：グループ演習 脳出血 (1) 第9回：グループ演習 脳出血 (2) 第10回：グループ演習 脳梗塞 (1) 第11回：グループ演習 脳梗塞 (2) 第12回：グループ演習 脳卒中 (1) 第13回：グループ演習 脳卒中 (2) 第14回：グループ演習 プログラム立案 第15回：グループ演習の総括					
成績評価	授業態度、小テスト、筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	石川朗編：理学療法テキスト 神経障害理学療法Ⅰ. 中山書店.					
参考書	高橋仁美編：病態からみた理学療法. 中山書店 市川博雄：脳卒中の画像のみかた. 医学書院					
オフィス・アワー	(授業終了後 10分)					

科目名	臨床運動器系理学療法学		対象年次	3年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	畠山 和利	所属	秋田大学医学部附属病院			
授業目的	脊髄損傷および骨関節疾患に対する知識（病態，リスク，理学療法の流れ），理学療法評価，運動療法を学ぶ。また，合併症を説明でき発生予防に配慮できるようになる。実技を通してその知識を深め，より臨床で応用できるようにする。					
到達目標	脊髄損傷および骨関節疾患について解剖学，生理学，運動学など専門基礎科目および病態を踏まえ，理学療法評価，運動療法を理解，習得できる					
授業計画	第1回 脊髄の解剖と生理①解剖と疫学 第2回 脊髄の解剖と生理②伝導路、自律神経、麻痺の分類 第3回 合併症（グループワーク） 第4回 理学療法評価1 第5回 理学療法評価2 第6回 評価（グループワーク） 第7回 障害レベルと実用的基本動作 第8回 障害レベルと移動動作 第9回 立位歩行 第10回 ADL 動作 第11回 脊髄損傷と社会環境 第12回 住宅改修（グループワーク） 第13回 脊髄損傷者のスポーツ 第14回 脊髄損傷における先進医療 第15回 まとめ，筆記試験					
成績評価	定期試験，実技試験，小テスト					
教科書	特に定めない					
参考書	脊髄損傷の理学療法第2版（医歯薬出版），脊髄損傷理学療法マニュアル（文光堂） 整形外科術後理学療法プログラム（メジカルビュー社），運動器疾患の治療とリハビリテーション（メジカルビュー社）					
オフィス・アワー	アポイント後，来院可能					

科目名	スポーツ理学療法学		対象年次	3年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	長谷川 弘一	所属	秋田県立循環器・脳脊髄センター			
	福原 隆志	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	スポーツ選手の障害特性や外傷の特徴を理解し、体調管理方法や障害予防と競技復帰への段階的リハビリテーションプログラムに関する知識と技術を学ぶ。 スポーツ理学療法を構成する基本的な評価、治療技術について理解が得られ、実習を加えて学習する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ外傷・障害を理解し、臨床で行われている実技を習得する。 ● スポーツ障害に対する理学療法士の役割を理解する。 ● スポーツ外傷や障害の因果関係を理解する。 ● 性別・年代別特徴を理解する。 ● 競技復帰へのトレーニング方法や体調管理に必要な栄養指導を理解する。 ● 急性期における必要な応急手当について理解する。 					
授業計画	<p>【1～5回:長谷川先生担当】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概論&スポーツ障害の基礎知識：代表的な整形外科スポーツ障害とテーピングに実際について学ぶ 2. 子供や女性のスポーツ障害：発達段階における障害、女性アスリートの抱える問題 3. スポーツ障害と応急手当：急性外傷への対応や心肺蘇生、除細動について学ぶ 4. スポーツと栄養・ドーピング：運動能力を伸ばすために必要な栄養と潜むリスク 5. スポーツ障害とアスレティックリハビリテーション：競技復帰への段階的トレーニング <p>【6～15回:福原先生担当】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. スポーツ障害・外傷と理学療法士の関わり 7. スポーツ障害・外傷を想定した評価・治療のポイント1 8. スポーツ障害・外傷を想定した評価・治療のポイント2 9. 障がい者スポーツの意義と理念 10. 障がい者スポーツ概論1：障がい者スポーツの諸施策を学ぶ 11. 障がい者スポーツ概論2：障がい者スポーツの大会，ルールを学ぶ 12. 障がい者スポーツ概論3：地域における障がい者スポーツについて学ぶ 13. 障がい者スポーツ演習1：障がい者スポーツを体験する 14. 障がい者スポーツ演習2：障がい者スポーツを体験する 15. 障がい者スポーツ演習3：プレゼンテーション 					
成績評価	<p>【長谷川先生】授業態度、筆記・実技試験結果等を総合的にみて判定。 【福原先生】授業態度、レポート、プレゼンテーション等を総合的にみて判定。</p>					
教科書	【福原】障がいのある人のスポーツ指導教本 2020年改訂カリキュラム対応、日本パラスポーツ協会、株式会社ぎょうせい					
参考書	その都度紹介する。					
オフィス・アワー	講義終了後適宜実施する。					

科目名	応用神経系理学療法学		対象年次	3年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	若山 佐一	所属	弘前大学名誉教授			
授業目的	主な神経筋疾患の疾患・障害概念とその理学療法について、講義と演習により、情報の収集とその取捨選択を学習する。講義と演習を通して、最新情報へのアクセス、診療や理学療法ガイドラインの利用、医学的治療や理学療法効果に関するエビデンス、社会保障などを学習する。					
到達目標	主な神経筋疾患・障害の疾患概念、障害像(国際生活機能分類 (ICF))を理解する。これらの疾患・障害の理学療法評価と治療について、知識と技術を修得する。学生グループによるこれらの疾患・障害の事例発表により、具体的な疾患・障害像や理学療法、リハビリテーション、社会保障などを理解する。					
授業計画 マーカーは2 コマ連続授業 小テストのみ	<p>4/8(月)第1回 プレテスト、授業の導入、神経筋疾患、神経難病総論</p> <p>4/8(月)第2回 神経筋疾患、神経難病の障害像、ICF</p> <p>4/22(月)第3回 小テスト1*, 神経難病の社会保障制度</p> <p>4/22(月)第4回 パーキンソン病 (PD) の理学療法1</p> <p>5/13(月)第5回 小テスト2*, パーキンソン病の理学療法2 (事例発表2組)</p> <p>5/13(月)第6回 脊髄小脳変性症 (SCD), 多系統萎縮症 (MSA) の理学療法1</p> <p>5/27(月)第7回 小テスト3*, 脊髄小脳変性症, 多系統萎縮症の理学療法2 (事例発表2組)</p> <p>5/31(金)第7.5回 小テスト4</p> <p>6/10(月)第8回 中間まとめおよび中間試験</p> <p>6/10(月)第9回 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の理学療法1</p> <p>6/24(月)第10回 小テスト5, 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の理学療法2 (事例発表2組)</p> <p>6/24(月)第11回 多発性硬化症 (MS&NMOSD) の理学療法1</p> <p>7/8(月)第12回 小テスト6*, 多発性硬化症の理学療法2 (事例発表2組)</p> <p>7/8(月)第13回 筋強直性ジストロフィー (MyD)、他の3つの理学療法1</p> <p>7/22(月)第14回 小テスト7*, 筋強直性ジストロフィー、他の3つの理学療法2 (事例発表2組)</p> <p>7/29(月)第14.5回 小テスト8</p> <p>8/5(月)第15回 期末まとめおよび期末試験</p> <p>*小テストは EduNavi にて前回授業の復習テストとして実施、小テスト1~3, 6, 7 は授業2回分、約15分間の実施、4, 5, 8 は授業1回分、約10分間の実施予定</p>					
成績評価	中間および期末試験 (60%)、復習テスト (小テスト総平均30%)、発表 (準備から発表) や意見、質問などを含め10%)、により評価する。					
教科書	中山恭秀、鈴木俊明編: 神経障害理学療法学Ⅱ神経筋障害. メジカルビュー2019					
参考書	<p>(一) 日本理学療法学会連合会理学療法標準化検討委員会が「ガイドライン部会編: 理学療法ガイドライン、第2版、医学書院、2021</p> <p>難病情報センター http://www.nanbyou.or.jp/</p> <p>日本神経学会ガイドライン (MS&増補, PD&増補, GBS・CIDP, SCD・MSA, ALS, MG, DMD、筋強直性ジストロフィー) 各診療ガイドライン、http://www.neurology-jp.org/guidelinem/index.html、書籍版もある</p> <p>日本神経治療学会ガイドライン (NMO, MS 治療, Be11 麻痺) https://www.jsnt.gr.jp/guideline/index.html</p> <p>DVD: リハビリテーション医学第2版 vol.7 神経・筋疾患、医学映像教育センター 2015</p> <p>田中勇次郎、他編: 神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ. 改訂第2版、メジカルビュー. 2019</p> <p>MS キャンピ: 多発性硬化症完全ブック第4版 2018、視神経脊髄炎完全ブック第1版 2018</p> <p>村田美穂編: やさしいパーキンソン病の自己管理改訂3版、医薬ジャーナル社、2017</p> <p>難病と在宅ケア編集部編: ALS マニュアル決定版 Part2、日本プランニングセンター、2016</p> <p>難病と在宅ケア編集部編: 脊髄小脳変性症マニュアル決定版、日本プランニングセンター、2015</p> <p>医療情報科学研究所編、病気が見える7脳・神経 第2版、メディックジャーナル、2017</p>					
オフィス・アワー	授業終了後の10~20分間、事例発表組との質疑応答は発表日までに1回30分程度実施					

科目名	神経発達学的治療学		対象年次	3年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	堀川 学	所属	秋田県立循環器・脳脊髄センター			
授業目的	中枢神経疾患のなかで、理学療法士が数多く経験する脳血管障害後の片麻痺者の捉え方、評価、治療について実技を交えて学習する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健常者同士での実技を通じて、動作の変化を経験し神経生理学的背景を理解する。 2. 片麻痺者の病態を捉え、評価することが出来る。 3. 個人に適した課題を設定し、治療を実践することが出来る。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 片麻痺者の捉え方（評価、分析） 2. 片麻痺者の捉え方（治療への導入） 3. 背臥位の特性と片麻痺者の特徴的な姿勢の理解 4. 寝返りの構成要素と片麻痺患者の特徴的な動作パターン① 5. 寝返りの構成要素と片麻痺患者の特徴的な動作パターン② 6. 起き上がりの構成要素と片麻痺患者の特徴的な動作パターン① 7. 起き上がりの構成要素と片麻痺患者の特徴的な動作パターン② 8. 坐位の特性と片麻痺者の特徴的な姿勢の理解 9. リーチ動作の構成要素と片麻痺患者の特徴的な動作パターン 10. 立ち上がりの構成要素と片麻痺患者の特徴的な動作パターン① 11. 立ち上がりの構成要素と片麻痺患者の特徴的な動作パターン② 12. 立位の特性と片麻痺者の特徴的な姿勢の理解 13. 歩行の構成要素と片麻痺患者の特徴的な動作パターン① 14. 歩行の構成要素と片麻痺患者の特徴的な動作パターン② 15. 総括 					
成績評価	授業態度、グループディスカッション、筆記試験結果等を総合的にみて判定					
教科書	特に指定なし。					
参考書	特に指定なし。					
オフィス・アワー	授業終了後 10 分。					

科目名	呼吸器系理学療法学		対象年次	3年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	川越 厚良	所属	市立秋田総合病院			
	古川 大	所属	同			
授業目的	超高齢化社会における日本では、特に呼吸器系理学療法の必要性は急性期から慢性期、そして多くの診療科における患者に適応となる現状がある。本講義では、呼吸器系理学療法を実施する上で、概論を含む基礎的な知識から、臨床で実践される手技、症例を通じたクリニカルリーズニングなどを中心に、実技も含めて学ぶことを目的とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器系理学療法を実践するための基礎的な知識を習得する。 病態に応じた呼吸理学療法を説明できる。 呼吸器系理学療法評価・手技を経験し、実践できる。 					
授業計画	第1回 呼吸理学療法総論 第2回 呼吸器系の解剖学と運動学 第3回 呼吸器系の体表解剖と呼吸筋(実習) 第4回 呼吸器系の生理学① 第5回 呼吸器系の生理学② 第6回 呼吸理学療法のための評価①フィジカル・アセスメント 第7回 呼吸理学療法のための評価②フィジカル・アセスメント 第8回 呼吸理学療法のための評価③その他のアセスメント 第9回 呼吸理学療法手技 (コンディショニング①) 第10回 呼吸理学療法手技 (コンディショニング②) 第11回 呼吸理学療法手技 (排痰法・喀痰吸引) 第12回 呼吸理学療法手技 (運動療法) 第13回 人工呼吸と呼吸理学療法 第14回 疾患別呼吸理学療法①(急性期) 第15回 疾患別呼吸理学療法②(慢性期)					
成績評価	授業態度, 小テスト, レポート, 筆記試験結果等を総合的にみて判定.					
教科書	15 レクチャーシリーズ内部障害理学療法学 呼吸 第2版 中山書店					
参考書	適宜紹介する。					
オフィス・アワー	(授業終了後10分)					

科目名	応用循環代謝系		対象年次	3年次	授業時間数	15
専門科目	理学療法学		開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	高橋 裕介	所属	秋田大学医学部附属病院			
授業目的	基礎循環代謝系理学療法学で学んだ知識・技術を基に、代表的な疾患に対する臨床推論能力やエビデンスに基づいた理学療法の組み立て方を理解すること。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な循環器代謝系疾患に対する臨床推論の考え方を理解する。 2. エビデンスに基づいた理学療法の組み立て方を理解する。 3. 循環器代謝系理学療法に必要なエビデンスを理解、選択できる。 					
授業計画	<input type="checkbox"/> 概論 <input type="checkbox"/> エビデンスに基づいた理学療法について <input type="checkbox"/> 心不全に対する理学療法 <input type="checkbox"/> 冠動脈疾患、閉塞性動脈硬化症に対する理学療法 <input type="checkbox"/> 心臓外科手術患者に対する周術期理学療法 <input type="checkbox"/> 大血管疾患に対する理学療法 <input type="checkbox"/> 糖尿病に対する理学療法 <input type="checkbox"/> 重複障害に対する理学療法					
成績評価	出席、授業態度、課題、筆記試験から総合的に判定					
教科書	谷口達典・村田誠・新保麻衣編：心不全の心臓リハビリテーション U40 世代の answer. 中外医学社、2022.					
参考書	高橋哲也・神津玲・野村卓生編：内部障害理学療法学. 第2版. 医学書院. 2020. 医学情報科学研究所編：病気が見える vol.2 循環器. 第4版. メディックメディア. 2017. 高橋哲也編：心臓血管外科リハビリテーション—ゴールド・スタンダード. ヒューマン・プレス、2018.					
オフィスアワー						

科目名	小児理学療法学		対象年次	3年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	木元 稔	所属	秋田大学大学院 医学系研究科保健学専攻理学療法学講座			
授業目的	小児疾患の理学療法に必要な基本的な知識や技術を習得する。					
到達目標	1. 運動器、神経系、呼吸・循環、粗大運動、上肢機能・認知などの発達について、理学療法を行う上で必要な基礎的知識を習得する。 2. 運動器、神経系、呼吸・循環、粗大運動、上肢機能・認知などにおける異常・障害に対して実施される、理学療法以外の治療について説明することができる。 3. 脳性麻痺、進行性筋ジストロフィー症、ダウン症候群など、各疾患で特徴的な評価・治療の概略を述べるができる。					
授業計画	1. 小児理学療法概論 2. 全般的発達 3. 筋・骨関節系 4. 神経系 5. 呼吸・循環器系 6. 目と手・上肢機能、日常生活と遊び 7. 姿勢と粗大運動 8. 低出生体重児・ハイリスク児 9. 脳性麻痺 10. 重症心身障害 11. 演習：動作分析からの治療プログラムの立案 12. ダウン症候群 13. 小児整形外科疾患 14. 発達障害 15. 進行性筋ジストロフィー					
成績評価	小テスト、レポート、筆記試験結果等を総合的にみて判定。					
教科書	藪中義彦 他：小児理学療法学 メジカルビュー社 978-4-7583-2007-8.					
参考書						
オフィス・アワー	授業終了後 10分					

科目名	予防的理学療法学		対象年次	2年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数(必・選)	1(必)
担当教員名(実務経験者)	福原 隆志	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	● 理学療法領域での予防の重要性について学び、予防医学における理学療法士の役割と可能性について考える。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 各専門分野での理学療法実施にあたり、1次予防から3次予防(再発予防)に至るまで、予防的な視点を含めて臨床推論できるようになる。 ● 各疾患の1次予防に関する知識を身につけ、臨床現場での再発予防・生活習の指導に活用できるようになる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予防理学療法とは? 2. 予防理学療法に関わるポイント 3. 事例を通じて「予防」介入の方法を学ぶ1 4. 事例を通じて「予防」介入の方法を学ぶ2 5. 事例を通じて「予防」介入の方法を学ぶ3 6. グループワーク1 7. グループワーク2 8. グループワーク3 9. プレゼンテーション1 10. プレゼンテーション2 11. プレゼンテーション3 12. プレゼンテーション4 13. プレゼンテーション5 14. プレゼンテーション6 15. まとめ 					
成績評価	授業態度、出席、プレゼンテーション、レポートを総合的にみて判定する。					
教科書	授業配布資料を使用。					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予防理学療法学要論 (大淵修一: 医師薬出版株式会社) ・ 百寿時代の運動・スポーツのトリセツ 日本臨床スポーツ医学会からの提案 (日本臨床スポーツ医学会学術委員会: 有限会社ナップ) 					
オフィス・アワー	授業終了後 10 分。					

6-14回: 理学療法士が予防領域に関わる代表的な疾患を想定し、グループワーク及びプレゼンテーションを行う

科目名			対象年次	3年次	授業時間数	30
専門科目	マニユアルセラピー		開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	川崎 敦	所属	大曲整形外科クリニック			
	福原 隆志	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	<p>主に四肢と脊椎の基礎的な関節 Mobilization と筋徒手療法について、講義と実技演習を通して学習する。</p> <p>人体の構造及び機能に問題が生じると、痛みが生じ活動が制限され、それにより更に痛みが増強するといった負のスパイラルが生じやすい。筋骨格系理学療法における疼痛評価と原因のリーズニングの導入的内容を習得する。また、関節の可動域を改善する知識・技術についても振り返り、構造及び機能的改善を促すプログラムを立案、実施できることを目的とする。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関節 Mobilization の定義を理解し、関節運動の基本的概念について説明できる。 2. 種々の関節 Mobilization を用いる適応と適用量を理解し、他のストレッチングテクニックによる可動性の獲得と関節 Mobilization の有用性を識別できる。 3. 関節 Mobilization の制限と禁忌について説明できる。 4. 関節 Mobilization と筋徒手療法の適用について理解し説明できる。 5. 四肢及び脊椎の関節 Mobilization と筋徒手療法の基本テクニックを各疾患に応じて実施できる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. マニユアルセラピーの定義と概念。 2. 関節 Mobilization と筋徒手療法の講義とデモンストレーション。 3. 関節 Mobilization と筋徒手療法の基本技術の講義と実技。 4. 膝関節周辺の関節 Mobilization と筋徒手療法の講義と実技 1。 5. 膝関節周辺の関節 Mobilization と筋徒手療法の講義と実技 2。 6. 足関節周辺の関節 Mobilization と筋徒手療法の講義と実技。 7. 股関節周辺の関節 Mobilization と筋徒手療法の講義と実技。 8. 体幹・脊椎周辺の関節 Mobilization と筋徒手療法の講義と実技。 9. 肩関節周辺の関節 Mobilization と筋徒手療法の講義と実技 1。 10. 肩関節周辺の関節 Mobilization と筋徒手療法の講義と実技 2。 11. 肘関節周辺の関節 Mobilization と筋徒手療法の講義と実技。 12. 手指手関節周辺の関節 Mobilization と筋徒手療法の講義と実技。 13. 総まとめ 1。 14. 総まとめ 2。 15. 総まとめ 3。 					
成績評価	出席状況、授業態度、実技テストを総合的にみて判定。					
教科書	青木隆明, 林典雄: 改定第 2 版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢&下肢・体幹 メジカルビュー社					
参考書	林典雄; 運動療法のための運動器超音波機能解剖 小林紘二; 筋性疼痛症候の臨床観察 宇都宮初夫; SJF 関節ファシリテーション第 2 版 博多節夫; AKA 関節運動学的アプローチ-博多法第 2 版					
オフィス・アワー	授業終了後 10 分					

科目名	装具学		対象年次	3年次	授業時間数	30																																																																				
専門科目			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)																																																																				
担当教員名 (実務経験者)	佐竹 将宏	所属	秋田大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 理学療法学講座																																																																							
授業目的	上肢・下肢・体幹装具および車椅子・歩行補助具に関する基本事項を学習する。装具の適応やチェックアウト、装具や歩行補助具使用者に対する適切な理学療法を学習する。																																																																									
到達目標	1) 装具の概念・目的を理解し、装具の種類、構造、機能を理解できる。 2) 装具の装着方法並びにチェックアウトを理解し実施できる。 3) 装具の適応となる疾患を説明し、各疾患に対する装具療法を理解し実施できる。 4) 車椅子、歩行補助具の種類を説明し、使用者に合った選択ができる。 5) リハビリテーション目標と装具療法の関係を説明し、チームアプローチを理解できる。																																																																									
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>授業内容</th> <th>事前学習(授業時間外の学習)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/10</td> <td>オリエンテーション 装具学総論 (装具の目的、3点固定の原理、装具製作の流れ)</td> <td>・教科書全体を見て学習内容を知り、気になるところ、興味のあるところをチェック ・Lecture 1を予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/17</td> <td>下肢装具の部品とその機能 (継手や足部などの基本的な部品の名称・構造・機能)</td> <td>・Lecture 2を予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/24</td> <td>短下肢装具</td> <td>・Lecture 3を予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5/8</td> <td>長下肢装具、股装具、膝装具</td> <td>・Lecture 4を予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/15</td> <td>靴型装具</td> <td>・足部の運動学を復習 ・Lecture 5を予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/22</td> <td>下肢装具のチェックアウト</td> <td>・Lecture 3～5を復習 ・Lecture 6を予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/29</td> <td>体幹装具・側彎症装具</td> <td>・体幹の運動学を復習 ・Lecture 8を予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>6/12</td> <td>上肢装具と自助具</td> <td>・上肢の運動学を復習 ・Lecture 9を予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>6/19</td> <td>整形外科疾患の装具</td> <td>・Lecture 12を予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>6/26</td> <td>関節リウマチの装具 対麻痺・小児の装具</td> <td>・Lecture 13を予習 ・Lecture 14を予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>7/3</td> <td>脳卒中片麻痺の装具(1) (脳卒中の症状に合った装具の選択)</td> <td>・脳卒中の病態および障害を復習 ・Lecture 11を予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>7/3</td> <td>脳卒中片麻痺の装具(2) (脳卒中の回復過程に合わせた装具療法)</td> <td>・Lecture 11を復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>7/10</td> <td>(実習 1) 下肢装具のチェックアウト</td> <td>・Lecture 3～6を復習 ・Lecture 7を予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>7/10</td> <td>(実習 2) 装具歩行の体験</td> <td>・Lecture 3～6を復習 ・Lecture 7を予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>7/17</td> <td>1. 車椅子・歩行補助具(車椅子・各種歩行補助具の種類と構造、適応、使用方法を理解) 2. 装具学まとめ</td> <td>・ADLで学習した内容を復習 ・Lecture 10を予習 ・総復習と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>7/24</td> <td>【前期定期試験】</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回	日付	授業内容	事前学習(授業時間外の学習)	1	4/10	オリエンテーション 装具学総論 (装具の目的、3点固定の原理、装具製作の流れ)	・教科書全体を見て学習内容を知り、気になるところ、興味のあるところをチェック ・Lecture 1を予習	2	4/17	下肢装具の部品とその機能 (継手や足部などの基本的な部品の名称・構造・機能)	・Lecture 2を予習	3	4/24	短下肢装具	・Lecture 3を予習	4	5/8	長下肢装具、股装具、膝装具	・Lecture 4を予習	5	5/15	靴型装具	・足部の運動学を復習 ・Lecture 5を予習	6	5/22	下肢装具のチェックアウト	・Lecture 3～5を復習 ・Lecture 6を予習	7	5/29	体幹装具・側彎症装具	・体幹の運動学を復習 ・Lecture 8を予習	8	6/12	上肢装具と自助具	・上肢の運動学を復習 ・Lecture 9を予習	9	6/19	整形外科疾患の装具	・Lecture 12を予習	10	6/26	関節リウマチの装具 対麻痺・小児の装具	・Lecture 13を予習 ・Lecture 14を予習	11	7/3	脳卒中片麻痺の装具(1) (脳卒中の症状に合った装具の選択)	・脳卒中の病態および障害を復習 ・Lecture 11を予習	12	7/3	脳卒中片麻痺の装具(2) (脳卒中の回復過程に合わせた装具療法)	・Lecture 11を復習	13	7/10	(実習 1) 下肢装具のチェックアウト	・Lecture 3～6を復習 ・Lecture 7を予習	14	7/10	(実習 2) 装具歩行の体験	・Lecture 3～6を復習 ・Lecture 7を予習	15	7/17	1. 車椅子・歩行補助具(車椅子・各種歩行補助具の種類と構造、適応、使用方法を理解) 2. 装具学まとめ	・ADLで学習した内容を復習 ・Lecture 10を予習 ・総復習と質疑応答	16	7/24	【前期定期試験】	
	回	日付	授業内容	事前学習(授業時間外の学習)																																																																						
	1	4/10	オリエンテーション 装具学総論 (装具の目的、3点固定の原理、装具製作の流れ)	・教科書全体を見て学習内容を知り、気になるところ、興味のあるところをチェック ・Lecture 1を予習																																																																						
	2	4/17	下肢装具の部品とその機能 (継手や足部などの基本的な部品の名称・構造・機能)	・Lecture 2を予習																																																																						
	3	4/24	短下肢装具	・Lecture 3を予習																																																																						
	4	5/8	長下肢装具、股装具、膝装具	・Lecture 4を予習																																																																						
	5	5/15	靴型装具	・足部の運動学を復習 ・Lecture 5を予習																																																																						
	6	5/22	下肢装具のチェックアウト	・Lecture 3～5を復習 ・Lecture 6を予習																																																																						
	7	5/29	体幹装具・側彎症装具	・体幹の運動学を復習 ・Lecture 8を予習																																																																						
	8	6/12	上肢装具と自助具	・上肢の運動学を復習 ・Lecture 9を予習																																																																						
	9	6/19	整形外科疾患の装具	・Lecture 12を予習																																																																						
	10	6/26	関節リウマチの装具 対麻痺・小児の装具	・Lecture 13を予習 ・Lecture 14を予習																																																																						
	11	7/3	脳卒中片麻痺の装具(1) (脳卒中の症状に合った装具の選択)	・脳卒中の病態および障害を復習 ・Lecture 11を予習																																																																						
	12	7/3	脳卒中片麻痺の装具(2) (脳卒中の回復過程に合わせた装具療法)	・Lecture 11を復習																																																																						
	13	7/10	(実習 1) 下肢装具のチェックアウト	・Lecture 3～6を復習 ・Lecture 7を予習																																																																						
	14	7/10	(実習 2) 装具歩行の体験	・Lecture 3～6を復習 ・Lecture 7を予習																																																																						
	15	7/17	1. 車椅子・歩行補助具(車椅子・各種歩行補助具の種類と構造、適応、使用方法を理解) 2. 装具学まとめ	・ADLで学習した内容を復習 ・Lecture 10を予習 ・総復習と質疑応答																																																																						
16	7/24	【前期定期試験】																																																																								
成績評価	小テスト, レポート, 筆記試験および授業態度等を総合的にみて判定.																																																																									
教科書	石川朗総編集・佐竹将宏責任編集「15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学 第2版」中山書店																																																																									
参考書	日本整形外科学会他「義肢装具のチェックポイント第9版」医学書院, 日本義肢装具学会「装具学第4版」医歯薬出版, 他																																																																									
オフィス・アワー	授業終了後 10 分間.																																																																									

科目名	高齢者理学療法学		対象年次	3年次	授業時間数	15
専門科目			開講時期	後期	単位数	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	臼井 和	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	高齢化社会の到来により、理学療法の対象も高齢者が大部分を占めるようになってきている。授業の目的は、高齢者の理学療法を展開するうえで必要な、高齢者の特徴を多面的に理解することや高齢者に生じやすい障害について把握することである。					
到達目標	加齢に伴う心身機能の変化を理解できる。 高齢者に多い疾患などに関する知識を習得する。 高齢に配慮した運動処方を考察できる。					
授業計画	第1回 ライフステージと高齢者像 第2回 加齢に伴う心身機能の変化（演習1） 第3回 加齢に伴う心身機能の変化2（演習2） 第4回 老年症候群と高齢者の生活機能評価 第5回 高齢者の疾患およびさまざまな健康の問題 第6回 フレイル サルコペニア とは？ 診断と治療 第7回 高齢者の理学療法を行う上での留意点 第8回 高齢者の運動処方（プログラム立案）					
成績評価	出席状況、授業・グループワーク態度、筆記試験結果等を総合的に評価。					
教科書	細田 多穂 監修「高齢者理学療法学テキスト」南江堂					
参考書	宮越浩一 編集「高齢者リハビリテーション実践マニュアル」 その他、授業ごとに紹介する。					
オフィス・アワー	授業終了後 10 分間					

科目名	在宅理学療法学演習		対象年次	3年次	授業時間数	30
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名 (実務経験者)	鈴木 克昌	所属	地域密着型特別養護老人ホーム うぐいす城東			
	木元 裕介	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	施設や自宅において、在宅生活（生活期）に関わる理学療法士が果たす役割について講義と実技演習を通して学習する。また、理学療法評価と治療内容を理解し、在宅生活を維持する理学療法のあり方について、講義と症例（ロールプレイ）を通して学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅生活を支えるための理学療法士の役割、地域における理学療法、地域における社会資源および制度について、以上を理解できる。 2. 理学療法対象者の評価と治療を理解し、疾患を考慮したに評価・介入方法を考えることができる。 3. 理学療法対象者のあるべき生活像を想像し、介入方法に一部取り入れることができる。 					
授業計画	<p>【鈴木克昌】 講師都合により前期に講義を行います</p> <p>第1回 高齢者施設におけるリハビリテーションの考え方（講義）</p> <p>第2回 生活支援に役立つ基本的な知識と技術 その1～物的環境①（講義と実習）</p> <p>第3回 生活支援に役立つ基本的な知識と技術 その2～物的環境②（講義と実習）</p> <p>第4回 生活支援に役立つ基本的な知識と技術 その3～動作編①（講義と実習）</p> <p>第5回 生活支援に役立つ基本的な知識と技術 その4～動作編②（講義と実習）</p> <p>第6回 生活支援に役立つ基本的な知識と技術 その5～動作編③（講義と実習）</p> <p>第7回 試験・まとめの講義</p> <p>【木元裕介】 後期に講義を行います</p> <p>第8回 授業の説明および総論</p> <p>第9・10回 情報の解釈、評価項目の抽出 演習</p> <p>第11・12回 評価結果の解釈、統合と解釈 演習</p> <p>第13・14回 ゴール設定、統合と解釈 演習</p> <p>第15回 まとめ</p>					
成績評価	授業態度、レポート、試験結果等を総合的に見て判定。					
教科書	『整形外科 術後理学療法プログラム 第3版』メジカルビュー社. 2020. 『リハ実践テクニック 脳卒中 第3版』メジカルビュー社. 2017. 『セラピストのための脳卒中評価指標の解釈と活用』メジカルビュー社 2020.					
参考書	下元佳子著『モーションエイドー姿勢・動作の援助理論と実践法』中山書店, 2015. 『運動器障害理学療法学(Crosslink 理学療法学テキスト)』メジカルビュー社 2020.					
オフィス・アワー	授業終了後 10 分間.					

科目名	評価実習		対象年次	3年次	授業時間数	160
専門科目			開講時期	後期	単位数 (必・選)	4 (必)
担当教員名 (実務経験者)	全教員	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	評価実習では2年次までに学習した理学療法における検査・測定を適切に実施し、さらに統合・解釈することにより、理学療法評価として問題点等を抽出する過程を学ぶことを目的とする。学外施設(病院、施設等)で、臨床実習指導者指導による4週間の評価実習(臨床実習)を行う。実習終了後は症例発表会、症例検討会を通じて理学療法評価の理解を深める。					
到達目標	1. 理学療法の基本的な知識と技能を修得するとともに自ら学ぶ力を育てることができる。 2. 上記の目標に向けて、指導者の監視下で基本的臨床技能を実践できる。 3. 評価により問題点の抽出を実践できる。					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・9月 実習指導者会議の開催要項伝達。 評価実習学生配置予定 ・11月 MSB 臨床実習指導者会議を開催予定(3年生全員参加) ・後期 MSB 期間中に評価実習のオリエンテーション実施予定。 <p>第Ⅰ期：例年1月下旬頃～2月下旬；4週間 第Ⅱ期：例年2月下旬頃～3月下旬；4週間 *本学院の承諾施設において、第Ⅰ期かⅡ期のどちらか一方を選択実施。</p>					
成績評価	実習評価表に基づき、実習への参加と態度、レポートもしくはレジュメの提出、学内での発表の結果を総合的にみて判定。					
評価の基準	評価については実習評価表(態度・知識・技能の領域ごとの評価、臨床実習指導者からのコメント)で50%、提出レポートおよび学院での症例検討会で30%、全教員による実習全体を通しての評価で20%の割合で評価する。					
準備学習・ 学習アドバイス	実習実施前には挨拶、身だしなみなどの常識のある実習態度を再確認しておく必要がある。また、実りある評価実習の成果をあげるため、実習で学ぶ内容について、事前に自己・グループ学習を十分に行う必要がある特に評価に関する実技はお互い練習して研鑽することを薦める。					
教科書	特に指定なし					
参考書	臨床実習教育の手引き(第6版)					
オフィス・ アワー	担当教員ごとに指示、あるいは掲示					

4年次 専門科目

科目名			対象年次	4年次	授業時間数	280・280
科目名	臨床実習Ⅰ・Ⅱ		開講時期	前期	単位数 (必・選)	7・7 (必)
担当教員名 (実務経験者)	木下 和勇	所属	秋田リハビリテーション学院			
	全教員		秋田リハビリテーション学院			
授業目的	3年次までに学習した理学療法における検査・測定および能力障害に対する評価を適切に実施し、統合と解釈により問題点を抽出し、理学療法の実施を経験する。学外の実習承諾施設にて実習指導者の監督のもと、理学療法の全体の流れを理解しながら、その一部もしくは許可された範囲で理学療法を実施する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様化する個々のニーズに対応した臨床的観察力を養い討議できる。 2. 指導者の監督のもと実際の患者を評価し、問題点を抽出後、ゴールと治療計画をたてて治療を実践する。 3. 治療結果をもとに再び評価しながら治療を行うことができる。 					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実習期間 第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期 それぞれ7週間 <p>学生は上記実習期間から2期、県内外の実習承諾施設にて臨床実習を実施する。</p>					
成績評価	実習評価					
	臨床実習指導者の成績、Post-OSCEの結果等を総合的にみて判定。					
教科書	指定なし					
参考書	指定なし					
オフィス・アワー	指定なし					

科目名	卒業研究		対象年次	4年次	授業時間数	90・90
専門科目			開講時期	通年	単位数 (必・選)	4 (必)
担当教員名 (実務経験者)	全教員	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	卒業研究は理学療法士としての課題を解決する能力を培い、研究の基本的な手続きを習得する。教員の指導を受けながら、調査、症例研究、実験研究などのいずれかを行うことにより、研究に関する基本を学び、「理学療法研究」で既に習った内容を参考に研究する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法分野で自分が興味を持ったテーマや課題についての研究目的を明らかにできる。 ・ 研究目的に沿った計画を立て定期的に指導を受けながら進捗状況を報告できる。 ・ 自ら課題に関連した先行研究を適切な手法で検索することができる。 ・ 研究を行うのに必要な倫理的配慮を理解し、被験者等に説明と同意を得ることができる。 ・ 研究過程で得られた客観的データを基本的な統計処理を自ら行える。 ・ 得られた結果から図表を作成し、論理的に考察することができる。 					
授業計画	<p>3年次後期後半の1月中（理学療法研究法の授業内で）：</p> <p>①学生同士で研究グループを決める。</p> <p>②何の領域（運動器系、呼吸循環器系、神経系、老人系、基礎系、教育系）で研究したいか、グループ内で検討し決定する。</p> <p>③研究グループのテーマをもとに、担当教員を決定し、掲示する。</p> <p>3年次後期3月中：</p> <p>①1月中に、研究グループの代表者もしくは全員で、担当教員に出向き、4年次の4月からどのようなスケジュールで計画を進めていくのか話し合う。</p> <p>4年次4月以降：</p> <p>①各グループの研究スケジュールに沿って研究を行い、グループ内の学生同士の負担を公平化すること意識しながら進める。</p> <p>10月中旬に卒業研究発表会予定： 11月末日までに卒業研究抄録集を発行する。</p>					
成績評価	研究への取り組み姿勢、全般を指導教員が評価（70%）発表会にて発表する。（30%）					
教科書	臨床研究 first stage；網本和、高倉保幸 医学書院					
参考書	特になし					
オフィス・アワー	指導教員と随時					

科目名	理学療法特論	対象年次	4年次	授業時間数	90
専門科目		開講時期	後期	単位数 (必・選)	3 (必)
担当教員名 (実務経験者)	菊地 和人	所属	秋田リハビリテーション学院		
	ARC 全教員	所属	秋田リハビリテーション学院		
	非常勤講師	所属	学外		
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に必要な知識を包括的に学習し、総合的理学療法の理論と知識の整理を行う。 ・模擬試験などを実施し、卒業判定の資料とする。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の総合的知識を整理し、調べた内容をグループ内で説明できる。 (グループ学習では担当問題を説明し相手に理解してもらいだけでなく、自分自身でも分からないところに気づくことが重要である。具体的には、調べた内容について絵を中心にまとめ、それを用いて内容を声に出し説明する。) ・自分が苦手とする科目・領域を<u>早くから自覚</u>し、自ら対策を立て計画的に知識を整理し習得する。 				
授業計画	<p>I. アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人学習 (ショート・ショート) : 専門基礎科目 (基礎医学、臨床医学) 過去 13 年分を 1 回 30 問 1 問 1 分で解答する。その後、30 分間で各問題について分からないところを調べ、要点をまとめる。 ・グループ学習 (タスク) : 過去 5 年分を 1 回 16~17 問を 10 分で解き、その後グループで 1 人 3~4 問ずつ分担しその内容を 50 分間でまとめる。その後、50 分間で各自調べた内容をグループ内で教え合い、内容についてグループ内で議論する。 <p>II. 国家試験対策講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験出題範囲について専任教員・非常勤講師が分野ごとに講義する。 <p>III. 国家試験模擬試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士国家試験の業者模試を 10 月から 1 月までに 6 回実施する。 ・業者模試及び国家試験過去問による模試も併せて実施する。 <p>※上記内容についての具体的なスケジュールは確定次第別途配布予定。</p>				
成績評価	<p>総在学時間、模擬試験の結果、それまでの実力の伸び具合を総合的に評価し判定する。業者模試全国順位に基準を設け成績判定の参考とする。 この科目の単位が修得できなければ、<u>国家試験出願後であっても受験できない。</u> 最終的な合否判定は 2 月上旬に、学科内判定会議を経て確定する。</p>				
教科書	<p>① 医学情報科学研究所編：クエスチョン・バンク理学療法士国家試験問題解説 専門問題、メディックメディア。 ② 医学情報科学研究所編：クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 共通問題、メディックメディア。</p>				
参考書	<p>① PT/OT 国家試験必修ポイント専門基礎分野 基礎医学 2022、医歯薬出版。 ② PT/OT 国家試験必修ポイント専門基礎分野 臨床医学 2022、医歯薬出版。 ③ PT/OT 国家試験必修ポイント 基礎 PT 学 2022、医歯薬出版。 ④ PT/OT 国家試験必修ポイント 障害別 PT 治療学 2022、医歯薬出版。 ⑤ 理学療法科学学会編：国試の達人 PTOT シーズ 2022 臨床医学編 第 23 版、iPEC。 ⑥ 理学療法科学学会編：国試の達人 PTOT シーズ 2022 運動解剖生理学編 第 27 版、iPEC。 理学療法科学学会編：国試の達人 PT シーズ 2022 理学療法編 第 22 版、iPEC。</p>				
準備物品	<p>第 1 回目の授業時に、ノート作りについて説明するので、バインダー、A4 無地のルーズリーフ、糊、はさみ、蛍光マーカー (最低 3 色) を用意してください。</p>				

科目名	国際理学療法学特論		対象年次	4年次	授業時間数	30
専門科目	国際理学療法学特論		開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (選)
担当教員名 (実務経験者)	ジョーンズ佳子	所属	秋田リハビリテーション学院			
	PT 教員	所属	同上			
授業目的	<p>オーストラリアのシドニー大学での授業聴講や、シドニー近郊の開業している理学療法クリニックにて臨床での理学療法を見学することにより理学療法士としての国際的感覚を養う。また、シドニー大学の教員や学生、開業している理学療法士と交流・討議することにより、日本の理学療法の現状とオーストラリアの現状から国際比較できるようになり、日本独自の文化と伝統を尊重する Nationality に対応した日本独自の理学療法知識と技術の発展に寄与することができる素養を身につける。また、シドニー大学の教員の自宅にホームステイをすることを検討することによりオーストラリアの食生活文化を体験する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シドニー大学の Musculoskeletal Physiotherapy の授業を聴講し質問できる。 ・Physiotherapy Clinic において、理学療法士の行っている内容を見て質問できる。 ・日本の理学療法士にとっての課題をみつけどのように解決するか提案できる。 					
授業計画	<p>渡航予定期間</p> <p>2021年11月24日～11月30日までの期間中3泊5日を予定。ハワイもしくはシドニーCity近郊の長期滞在型ホテルもしくはホームステイにて滞在しながら、シドニー大学や Physiotherapy Clinic を視察する。(おおよそ往復<秋田～羽田～シドニー>の交通・宿泊費20万程度、食費・パスポート申請費は別途)</p> <p>第1日目：秋田～羽田～Sydney (Hawaii)、ホテルチェックイン</p> <p>第2日目：9～17：Sydney University (予定は前後する可能性あり)</p> <p>第3日目：9～12：Visit of Physiotherapy Clinic in NAVY、 13～17：Visit of Physiotherapy Clinic in city</p>					
成績評価	授業態度、英語でのコミュニケーション、帰国後のレポートを総合的にみて判定。					
教科書	指定なし					
参考書	指定なし					
オフィス・アワー	指定なし					

学校法人コア学園
秋田リハビリテーション学院
理学療法学科
2024年度 授業計画（シラバス）
〒010-0065
秋田市茨島1丁目4番80号
TEL.018-865-0188 FAX.018-864-6137
<http://www.core-akita.ac.jp/arc/index.php>